国立国語研究所学術情報リポジトリ

全国方言談話データベース　日本のふるさとことば集成：第2巻 岩手・秋田

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002242

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第２巻　岩手・秋田

国立国語研究所資料集　13-2

国立国語研究所
2005

国書刊行会

刊行のことば

昭和52年度から昭和60年度にかけて，「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が，文化庁によって実施されました。調査は，各都道府県教育委員会と連携のうえ，各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は，文化庁の要請により，この調査の計画段階から，指導・助言などにかかわっていました。その後，時を経て，この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は，文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は，方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに，急速に失われつつある各地の伝統的方言を，文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで，国立国語研究所では，受け継いだ資料を有効に利用するために，方言談話の大規模なデータベースを作成し，公開するという計画を開始しました。平成８～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で，平成13年度からは「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」の一環として，全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また，データベース化にあたっては，平成９年度から科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。従来にはあまりなかった，音声と文字化の電子化データを備えていますので，研究や教育に活用いただけることと思います。なお，本資料集の作成については，情報資料部門第一領域の井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては，全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として，多くのみなさまから御協力を得ました。また，各都道府県教育委員会の関係者，および，有志の御助力がありました。刊行にあたって，記して深く感謝の意を表します。

平成17年12月

独立行政法人
国立国語研究所長　杉　戸　　清　樹

利用にあたって

1．内容

この書籍（冊子，CD-ROM，CD）には，以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	
岩手県遠野市1980			
地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【ご祝儀のこと】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳pdf＋方言音声wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	
秋田県湯沢市1977			
地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【水害，ツツガムシ，地域の昔の様子】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳pdf＋方言音声wave(ページ単位)		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	○		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	○		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	○		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	○		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	○		
各地方言収集緊急調査実施要領	○		
各地方言収集緊急調査の実施について	○		
調査実施上の留意事項について	○		
「全国方言談話データベース」について	○		

Adobe Acrobat Reader		○	

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit，
wave ファイル，ステレオ

CD-ROM は，CD プレイヤーで再生しないでください。CD プレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては，個人のプライバシー等に配慮しました。

談話データの中には，現在では，その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが，学術的・歴史的資料の保存という観点から，そのまま収録しました。この点に御配慮のうえ，お使いください。

2．著作権

この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータの著作権は，国立国語研究所にあります。

3．利用条件

利用にあたっては，以下の利用条件をすべて守ってください。

(1) 国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。

(2) この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータは，どのような目的においても，また，どのような媒体（紙，電子メディア，インターネットを含む）によっても，他人に再配布しないでください。

(3) この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータは，非営利の教育・研究目的に限り，自由に利用できます。ただし，上記(2)は守ってください。

(4) この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は，
「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」
などのように，明記してください。
あわせて，成果物を国立国語研究所に御寄贈いただければさいわいです。

(5) 以上の利用条件に合致しない場合，あるいは，利用について不明な点がある場合は，国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先：〒190-8561
東京都立川市緑町3591-2
国立国語研究所 情報資料部門
「全国方言談話データベース」係
FAX：042-540-4339

4．付記

データの電子化，CD-ROM，CD の作成については，平成9(1997)～17(2005)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。

国立国語研究所資料集 13-2

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第2巻 岩手・秋田

目次

刊行のことば……3
利用にあたって……5

Ⅰ．岩手県遠野市1980……11
　地図……12
　話者・担当者……13
　解説……14
　凡例……22
　談話……27
　【ご祝儀のこと】……28
　注記……164

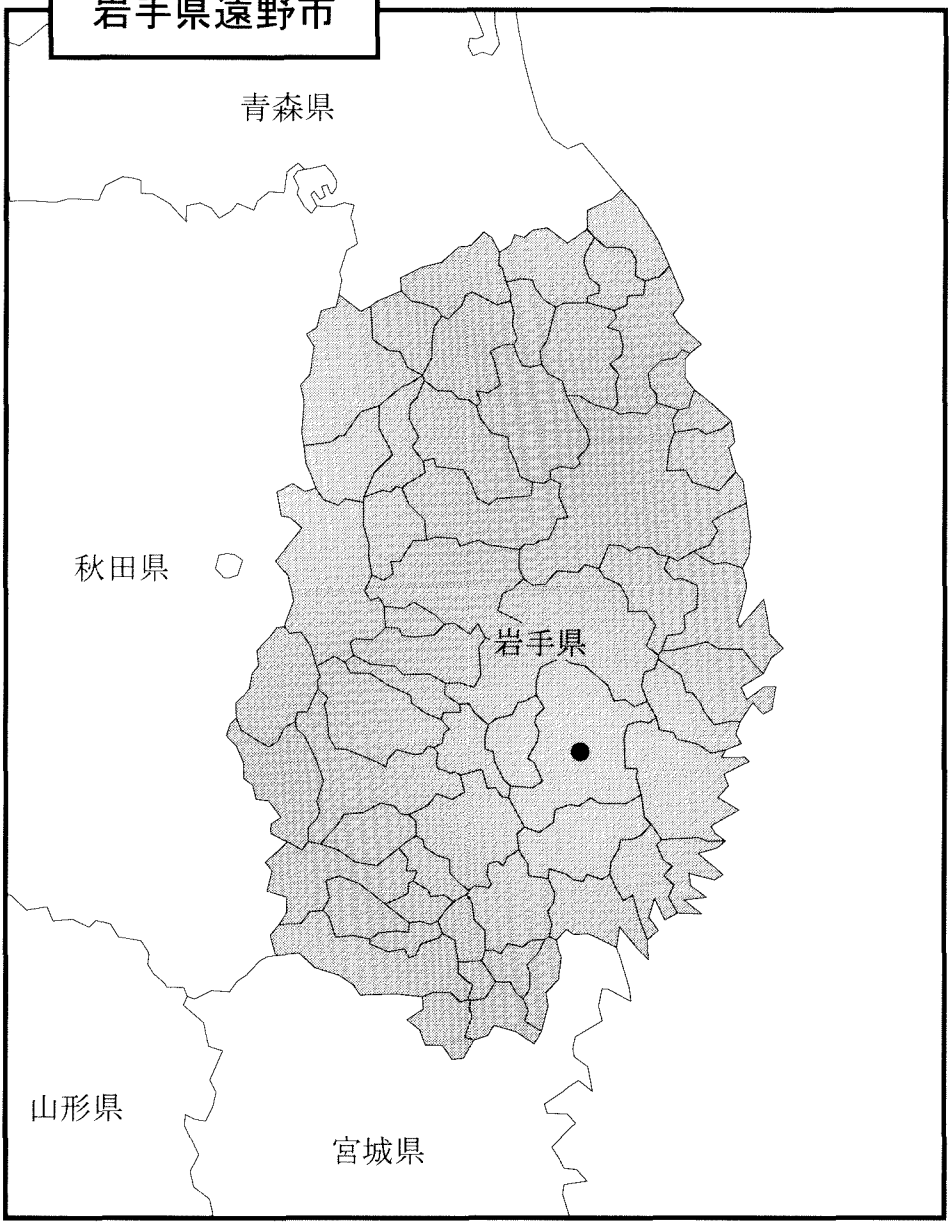
Ⅱ．秋田県湯沢市1977……179
　地図……180
　話者・担当者……181
　解説……182
　凡例……191
　談話……196
　【水害，ツツガムシ，地域の昔の様子】……197
　注記……260

作成・公開の経緯……263
　「各地方言収集緊急調査」について……265
　「各地方言収集緊急調査」地点一覧……269

「各地方言収集緊急調査」地点地図 ……274
各地方言収集緊急調査補助全体計画 ……275
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項 ……276
各地方言収集緊急調査実施要領 ……277
各地方言収集緊急調査の実施について ……280
調査実施上の留意事項について ……282
「全国方言談話データベース」について ……288

Ⅰ．岩手県遠野市
1980

岩手県遠野市



岩手県遠野市1980話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	是川 長福
	佐々木 ヒサ
収録担当者	及川 洵
	桜田 充功
	山本 精一
文字化担当者	山本 精一
共通語訳担当者	山本 精一
解説担当者	山本 精一

（敬称略　項目別50音順）

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	竹田 晃子
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

岩手県遠野市1980解説

収録地点名　岩手県遠野市土淵町土淵

収録地点の概観

位置

遠野市は，岩手県の中央を南北に貫く北上山地の南，内陸の北上川流域（花巻・北上）と三陸海岸（大槌・釜石）の間にある遠野盆地に位置する。土淵町は，遠野市のやや北東にある。

交通

東北本線の花巻駅から釜石駅までの間に国鉄釜石線が通じており，そのほぼ中央に遠野駅がある。釜石線で，県庁所在地の盛岡市まで２時間強（約80km），花巻駅まで１時間強（約45km），釜石駅までも同様に１時間強（約45km）である。

土淵町は遠野駅から北東へおよそ5.5kmで，交通機関にはバスがある。国鉄バスは，遠野駅前から土淵町を終点とするバスがあり，土淵町の中心といわれる本宿までが5.4kmで約10分，もっとも遠い恩徳までが17.5kmで約40分を要する。岩手県交通は遠野駅前を始点とし，土淵町を終点とするバスはなく，いずれも通過になるが，そのもっとも遠野寄りのバス停である土淵町足洗川停留所までが約5.3km，時間にしておよそ10分程度，平日で11～12回運行されている。

地勢

遠野盆地は，青森・岩手・宮城にまたがる紡錘状の北上山地の南にあり，この山地最大の広がりを持つ断層盆地である。西には国道283号線沿いにひらけており，北上川流域まで町村が続く。北から東にかけては北上山地，南から西にかけてはその支脈が連なり，それらに囲まれるように土淵地区の土淵平地が広がっている。

遠野市は寒冷地帯に属すが，寒暖の差が激しいなど盆地特有の特徴がある。１年の平均最高気温が19.4度，最低気温が6.75度である。月別の平均気温は７月が最高気温31度であるのに対して，１月の最低気温は零下10度である。降雪

は11月以降，積雪量は低地で平均20cm，高地で1mと多くはない。

行政区画

土淵地区は，廃藩置県（1871(明治4)年）により，栃内村・山口村・柏崎村・飯豊村・土淵村の5村に統合され，1889(明治22)年の町村制施行により，土淵村1村に統合された。1954(昭和29)年，遠野町・青笹村・綾織村・上郷村・附馬牛村・土淵村・小友村・松崎村が合併し，遠野市となった。

戸数・人口

遠野市は，総面積660.38km^2，人口は1961(昭和36)年に38,000人強のピークを超えてからは減少しており，1980(昭和55)年の国勢調査では人口31,056人である。土淵地区は，1980(昭和55)年現在，世帯数約680戸，人口約3,100人である。

産業

遠野市全体の土地面積比率を見ると，山林・原野が70.7%，田畑が8.6%，宅地が0.7%，その他が20%（1976(昭和51)年調査）である。総面積の80%が山林・田畑であり，第1次産業の市であるといえる。土淵地区は，広大な山林・原野と農耕地での林業・酪農・農業（主として水稲，次いで野菜・果樹・葉たばこ・ホップ）が主産業である。

一方で，土淵地区は，『遠野物語』の筆者である柳田国男（1875(明治8)～1962(昭和37)）に地元の民話を伝えた佐々木喜善（1886(明治19)～1933(昭和8)）の生地があり，それにまつわる観光名所が多い。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

遠野地方の方言は，大きくは東北方言のうちの北奥方言に属するとされるが，旧南部藩と旧伊達藩の藩境近くに位置し，双方の文化を受け入れてきた。岩手県の北部や沿岸部に比べて，方言のアクセントやイントネーションの起伏が少なく平坦な点でも，やや旧伊達藩地域寄りであるといえる。

音韻

（1）イ段音は，共通語の「イ」よりもやや広く，かつ後ろ寄りで，「エ」や「ウ」に近く発音される。

エダ（板）
エグ（行く）
トス（歳）
ムル（無理）
ヨムヤ（宵宮）

（2）ウ段音は，イ段音に近く発音されることがある。

アリグ（歩く）

（3）エ段音は，共通語の「エ」よりもやや狭く「イ」に近く発音される。

アイダ（あれだ）
ソイェ（それに）

（4）母音の無声化は，イ段音・ウ段音に多く観察される。

シシテ（一日中）
クツトリ（口取り）
ハンツメデ（初めて）
ハダクサ（畑に）

（5）連母音「アイ」「アエ」が融合し，エ段音よりやや広く発音される。

ケァ（貝）
ネァ（ない）
クレァ（暗い）
メァ（前）

（6）連母音「オエ」が融合し，エ段音のように発音される。

カンジェル（数える）
キケル（聞こえる）

（7）語頭以外のガ行子音は，鼻音で発音される。

ツノカ゜グス（角隠し）
カキ゜（鍵）
スク゜ニ（すぐに）
オンミヤケ゜（おみやげ）
スコ゜ド（仕事）

(8)「キ」「ギ」の子音は，破擦音的に発音されることが多い。

ハキソンジ（掃き掃除）

タルキン（結納金）

シギモノ（引き物）

サガンズギ（杯）

(9) 入りわたり鼻音が観察されることがある。場合によって1拍に近い長さで発音されることもある。

ナーンケェ（長い）

トンズマリ（戸締まり）

サンサンクンド（三三九度）

オンビ（帯）

カンプシェル（かぶせる）

(10) カ行子音，タ行子音の直前に促音が挿入されることがある。

キタッカラ（来たから）

ワルッキモ　ナクテ（悪気もなくて）

アノッコロ（あの頃）

スッタスイ（親しい）

コネッテ（こねて）

スゴドスッテル（仕事してる）

ノミッテー　ヤズ（飲みたい人）

イモットァ（妹は）

(11)「セ」「ゼ」は，「シェ」「ジェ」と発音されることがある。

シェンシェ（先生）

ハガシェラエダ（履かせられた）

ジェンコ（膳）

ジェッテァ（絶対）

(12)「セ」は，「ヘ」「ヒェ」のように発音されることもある。

ノマヒェラエル（飲ませられる）

カヒェル（食わせる）

(13)「ダ」は,「ラ」と発音されることがある。

エッテダ　→　エッテラ（行っていた）

キテダッタ　→　キテラッタ（来ていた）

(14)「ヒ」は,「シ」と発音される。「フ」と発音されることもある。

シ（火）

シチヨー（必要）

シモ（紐）

ヤスミノシ（休みの日）

ジェシトモ（ぜひとも）

フット（人）

(15)「へ」は,「ヒェ」「フェ」のように発音されることもある。

テーヒェンダ（たいへんだ）

ヒェンズ，フェンズ（返事）

フェッテァ（兵隊）

(16) ラ行子音は，脱落したり，語頭以外で無声化したりする場合がある。

サガバエル（叫ばれる）

ソエデ（それで）

(17) 語頭のヨは，接近を強めて発音されることがある。

ィヨメゴ（嫁）

(18) 破裂音の有声音は，無声化することがある。

ホドント（ほとんど）

(19) 長音は，撥音で発音されることがある。

トンノ（遠野）

カンケ゜エデネァヨンタ（考えていないようだ）

(20) いわゆるシラビーム方言的特徴が顕著で，特に特殊拍は一定の長さを保ちにくい。

オンド（御堂）

ヤパリ（やっぱり）

タモノ（反物）

文法

（1）ラ行四段動詞が観察される。

ツカ゜ル（違う）

オモル（思う）

（2）格助詞「バ」「ンバ」で，対象を表す。

カミバ　ユ（髪を結う）

キモノンバ　カウ（着物を買う）

（3）格助詞「サ」で，方向を表す。子音が脱落して，母音のみが発音されることがある。変化の結果に用いられることもある。

タサ　イク゜（田に行く）

クルマサ　ノル（車に乗る）

マコ゜ァ　オシェンダ（孫に教えた）

アキサ　ナル（秋になる）

（4）係助詞「ワ」は，母音のみが発音されることが多い。

タメニァ（ためには）

ユギァ　フル（雪が降る）

（5）動詞の連用形につく「タッタ」「テアッタ」で，その出来事が過去であることを表す。

オリャノ　イモットァ　コモルニ　キタッタ

（私の家の妹は子守りに来た）

過去に継続した出来事には，次のように用いられる。

ジョノグズサ　エッタバ　タッテラッタ

（玄関口へ［私が］行ったら［夫が］立っていた）

カミバ　ユッテモラッテアッタ（髪を結ってもらっていた）

「タッタ」「テアッタ」は，出来事が発話時現在においてすでに終了している，あるいは発話時現在，その出来事を確認できないことを明示する点で，「タ」とは異なる。

（6）「動詞＋ニイー」で可能の意味を表す。

エグヌイ（行ける，行くことができる）

スンニエガッタ（することができた）

(7) 様態を表す「フンダ」「フンダ」「フーダ」「ヨンタ」がある。

スタンダフンダ（したようだ）

クーフンダガラ（食べるようだから）

カンケ゜エデネァヨンタ（考えていないようだ）

(8)「ッケ」は，文末に使われ，話し手が過去に直接的に確認した出来事そのもの，またはそれと同様の出来事を話題にする時などに用いられる。

オシエッケモヤ（教えるのだからな）

コマッケオヤ（困るもんな）

(9)「オン」は，共通語の「もの」に相当する形式で，文末にのみ使われる。「から」「ので」などの原因理由を表す意味になる。「モノ」「モン」「モ」「オノ」「オ」などとも発音され，後続する形式には「ナ」「ヤ」などがある。

ショッタンダオン（背負ったんだもの）

ガンバッタンダオンノ（がんばったんだものな）

シトリダッタオノ（一人だったもの）

(10)「ジェ」は，文末に使われ，聞き手に働きかけ，相手の同意などを求めるニュアンスがある。

エネガッタンジェ（いなかったぞ）

(11)「チェ」「チェァ」は，文末に使われ，聞き手に対する話し手の伝達態度を強める効果がある。

ナンツーゴド　アンチェァ（なんていうこと［が］あるよな）

(12)「デラ」は，文末に使われ，聞き手に対する確認要求に用いられる。

アルッタケデラ（歩いたじゃないか）

語彙

(1)「コ」「ッコ」で，「少しの」「小さな」というようなニュアンスを表すことが多い。

茶碗コ

馬ッコ

水ッコ

(2)「ハー」「ハーア」は，「そうか」という単なるあいづちとしての用法だけでなく，イントネーションによっては「そのとおりだ」「承知した」「あな

たの言うとおりにする」などのように，相手の指示に従う意志を表すことがある。

（3）「マンツ」「マ゛ンズ」「マズ」「マンッツ」「マンッツー」は，「まあ」「まずは」「とりあえずは」「ほかはさておき」などの意味で用いられる。

（4）「ソステ」（そして），「ソスタラ」（そうしたら），「ソステガラ」（そうしていながら），「ウデァ」（それでは），「ダー」（なら），「ホンダッテー」（そうだとしても），「ソナンダ」（そうなんだろう）などの接続詞や間投詞が本来の意味を離れ，場面に応じて用いられている。

（5）「ホンダガラ」（そのとおりなんだ）は，相手の発言を受けて，「そうだから，困る」「あなたの言うとおりなのだから，困ったものだ」などのニュアンスで用いられる。「ダカラ」「ンダガラ」「ホンダガラ」などが単独で使われることもある。

（6）その他，「ダーレ」（だれ［が］），「アレー」（ほら），「アレャ」（ほらあれ），「エガニモ」（確かに），「ソナンダ」（そうすべきだ），「ジャー」（なんとしたことだ）などの形式がある。

（以上の解説は，基本的に，「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿による。）

岩手県遠野市1980凡例

談話資料は，方言談話音声，方言談話音声の文字化，方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには，ページ単位で切った方言談話音声を，CDには，方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し，方言談話の共通語訳は，漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは，対照ができるように，上下2段を1組として示した。上段が文字化，下段がその共通語訳である。

文字化については，表音的カタカナ表記を用いている。つまり，長音は「ー」で示し，助詞「は」は「ワ」，助詞「を」は「オ」，助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ゜」「キ゜」「ク゜」「ケ゜」「コ゜」はガ行鼻濁音を表す。

また，分かち書き，句読点などは，便宜的なもので，厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における，方言談話音声の文字化の方法は，後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし，今回，「全国方言談話データベース」として公開するにあたり，文字化・共通語訳を整備する際には，当時のマニュアルにはとらわれず，読みやすさ，意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また，この文字化は，時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって，発話の重なりや，複線的な会話の進行の構造が，文字化からは読み取れない。データを使用する際には，文字化・共通語訳を見るだけではなく，実際に，音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している，話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号　　〈半角〉

発話の通し番号を，各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

話者記号　　〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。(句点)　　〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス　　ソーデス

　　そうです。　そうです。

、(読点)　　〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

　　市役所

？　　〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

↓　　〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ　ヤッタンダナー↓

よく　やったんだなあ。

（　）　　〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり，口をはさんだりした個所。

（A　……）のように，開き括弧の次にあるアルファベットは，発言している話者を示す。（　）の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお，（　）内のあいづちと，独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：（A　アー　ソーデスカ）

｛　｝　　〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：｛笑｝

｛咳｝

｛手を叩く音｝

×××　　〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム　ム　ムツカシー

×　×　難しい

＊＊＊　　〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

／／／　　〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ　モジナンデスナ、

／／／／／「文字」なんですね。

［　］　　〈全角〉

方言音声には出てこないが，共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン　　ノセテ

みかん［を］　乗せて

＝　　〈全角〉

［　］内の＝は，意味の説明や，意訳であることを示す。

例：イマ　ユー

今　　いう［＝今話題にあがった］

｜　｜　　〈全角〉

注意書きなど。

例：｜Aに対して｜

〔　〕　　〈全角〉

注記。方言形の意味・用法，特徴的音声などについて説明し，文字化・共通語訳の後にまとめてある。〔　〕内の半角数字は，注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ〔1〕

音声

CD-ROMには，冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに，方言音声をリンクさせていて，各ページにある再生の部分をクリックすると，そのページの音声を聞くことができる。

CDには，談話全体の音声を収録している。以下にあげるように，適当な個所で，トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは，方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「岩手01-1」はCDトラック番号が01で，その1ページ目ということである。「岩手01-1」「岩手01-2」……「岩手01-9/02-1」……「岩手16-9」

のように表示される。

また，文字化・共通語訳部分には，CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し，その両側の数字はトラック番号である。↑01，01↑02，……15↑16，16↑のように表示される。

第2巻のCD（72分41秒）には，岩手県遠野市の談話，【ご祝儀のこと】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
01	p. 28・ℓ. 1	p. 36・ℓ. 9	0:02:59
02	p. 36・ℓ. 9	p. 45・ℓ. 17	0:02:59
03	p. 45・ℓ. 17	p. 54・ℓ. 13	0:02:59
04	p. 54・ℓ. 15	p. 63・ℓ. 19	0:02:57
05	p. 64・ℓ. 1	p. 71・ℓ. 11	0:02:59
06	p. 71・ℓ. 13	p. 81・ℓ. 3	0:02:59
07	p. 81・ℓ. 5	p. 90・ℓ. 9	0:02:58
08	p. 90・ℓ. 11	p. 99・ℓ. 1	0:03:00
09	p. 99・ℓ. 1	p. 105・ℓ. 5	0:01:56
10	p. 105・ℓ. 7	p. 113・ℓ. 17	0:03:00
11	p. 113・ℓ. 19	p. 122・ℓ. 7	0:02:59
12	p. 122・ℓ. 9	p. 131・ℓ. 7	0:03:02
13	p. 131・ℓ. 7	p. 138・ℓ. 11	0:03:04
14	p. 138・ℓ. 13	p. 147・ℓ. 11	0:02:59
15	p. 147・ℓ. 11	p. 155・ℓ. 19	0:03:07
16	p. 155・ℓ. 19	p. 163・ℓ. 15	0:02:55
計			0:46:52

岩手県遠野市1980談話

収録地点　　岩手県遠野市土淵町土淵（いわてけんとおのしつちぶちちょうつちぶち）

収録日時　　1980(昭和55)年8月7日

収録場所　　岩手県遠野市土淵町土淵　土淵地区センターホール

話題　　ご祝儀のこと

話者

A	女	1914(大正3)年	(収録時66歳)	農業
B	男	1917(大正6)年	(収録時63歳)	農業

調査者

男	(収録談話中に発話なし)	岩手県教育委員会職員
男	(収録談話中に発話なし)	高校教諭
男	(収録談話中に発話なし)	

収録時間（CD）　　46分52秒

【ご祝儀のこと】

話し手

A　女　1914(大正３)年生　(収録時66歳)
B　男　1917(大正６)年生　(収録時63歳)

1 B：X１オンバ〔1〕ァ　ナンボノ、　ナッタ　ドギー
X１おばさんは　何歳×[＝に]　なった　時に
↑01
アノ、ィヨメゴニ　ナッタッター。
あの　嫁に　なった？

2 A：アーレァ　X１ゴダ〔2〕　ズーリェガラナー、(B　ウン)
あれは、　X１というのは　ずるいからな、　(B　うん)

ズット　アドン　ナッテガラダンジェ。
[嫁に行ったのは]ずっと　あとに　なってからだぞ。

(B　ハー)　オレド　X２オンズ〔3〕ド
(B　そうか)　私と　X２おじさんと

ドッキューシェーダンドモナー、(B　ウン)
同級生だけれどもな、　(B　うん)

オリァ　ハー〔4〕　ホンートニ　ワゲ　ワガンネ
私は　もう　本当に　わけ[が]　わからない、

アエズ。ソステナー　(B　ウン)　オレノ　キョンデァ
あいつ。そしてな、　(B　うん)　私の　姉妹は

オナコ゜バリ　ゴニンダ゛ンベー。（B　ウン）
女ばかり　　5人だろう？　　（B　うん）

ソスダ　　キョー゛ンデーウズデ　オレァ　エズバンノ
そうしたら、姉妹の中で　　私は　　いちばんの、

ソノ　オストムゲ〔5〕ダッタオンヤー。（B　ハハハハー）
その　お人好しだったからね。　　（B　そうかそうか）

ソ゛ンゴ゛ンディェ、（B　ウン）ソノ　オレー　ナンーヌモ
そこで、　　（B　うん）その　私は　　なんにも、

ソンナナ　　キモ　ネァ　ッシャネ　ウズヌ、
そんな［＝嫁に行く］気も　ない、知らない　うちに

（B　ウン）オヤダ゛ンズァ　キメダモンダ。
（B　うん）親たちは　　［縁談を］決めたものだ。

3 B：ナ　ナニノ　ゴドナンダ　ソノ　キモ　ネァ、ドガ
×　なんの　ことなんだ、その、気も　ない　とか、

ナント　ユー　ゴドァヨー。ン
などと　いう　ことはよ。　うん

4 A：オードゴノ　ッキモ　ヨメゴノ　ッキモ
男の［いる］雰囲気も　嫁の　　気［＝嫁になる気］も

（B　ハハハハハー　ソノゴドガー　アー）ナ　{笑}、
（B　そうかそうか　そのことか　ああ）×　{笑}、

ナンニモ　エッコーニ　ッシャネガッタノヨ。
なんにも　いっこうに　知らなかったのよ。

5 B：ハー。　ヤパリ　ナゴンドマガシェガ。
そうか。　やっぱり　[結婚は]仲人任せか。

6 A：ナーゴーンドーマガーシェ、ナ　ソッタラー　ソリェ、
仲人任せだ。　そしたら、　ほら、

キョーンデァウンズデナー、　（B　ウン）
[親の気持ちでは]姉妹のうちでね、（B　うん）

エンズバン　ソノ　アダマー　ケァネー〔6〕ガラ、
[私は]いちばん、　その　頭[が]　よくないから、

ヌダヨナ　ムンゴデモ　トッテー〔7〕（B　ウン）
似たような　婿でも　取って　（B　うん）

ウ　ソノー、　タモ　ハダゲモ　イッペ　アッカラ　ソノ、
うん　その　田も　畑も　たくさん　あるから　その、

（B　ウン　ウン）　ササコ゜ヤ〔8〕ッコンデモ　タンデデ
（B　うん　うん）　簡単な小屋でも　建てて、

オグキダッタンダンド。
[私と相手を]置くつもりだったんだって。

7 B：ハー　ウン　ベッケ〔9〕ニデモナ。　ウン
ああ、　うん、　別家にでもな。　うん。

8 A：ウン　ソースタ　ドゴロァ　ソノ、　ノサギ〔10〕ノ
うん。そうした　ところが、その　野崎の

X 3 ドッカラ　エッタワゲダ。
X 3［＝Aの夫］の家から　［縁談が］行ったわけだ。

（B　ウン）　ソスタドゴロァ　X 3 ァ、
（B　うん）　そうしたところが、X 3 は

ソレー、　クラスンデモ、　ユーシュンダッタモンヤ。
それ　クラスでも　優秀だったものね。

（B　ウン　ウン　ウン　ウン）　コートーカンデモ
（B　うん　うん　うん　うん）　高等科でも

キューチョダッタガラ。（B　ハハハハハハー）
級長だったから。（B　そうかそうか）

オラー〔11〕　ゴネンシェノ　ドギ、　アノシッタズァ
私が　5 年生の　時、　あの人たちは

コッ、　コートーニネンデアッタモ。（B　ハハハハハ）
××　高等 2 年だったもの。（B　そうかそうか）

ソステー、　キューチョー　ヤッテラ　フトダッタガラナー。
そして、　級長［を］　やってた　人だったからな。

（B　ウン）　オメミダーナ、　ソノ
（B　うん）　［私の親が言うには］「おまえみたいな、　その、

岩手 01-5

アンダマノ　ケァネ　　ヤズ〔12〕ワ、　ソノ
頭の　　よくない　者は、　　その、

アンダマノ　エー　シトサ　エンゲンバー、（B　ウン）
頭の　　いい　人に　　[嫁に]行けば（B　うん）

ソノ、　コンドモモ　マコ゜モ、（B　ウン）　ヨノナガサー
その、　子どもも　　孫も　　（B　うん）　世の中に

ソノ、　マンツ　ジューニンナミンデァ　ナクッテモ、
その、　まあ、　十人並みでは　　なくても

（B　ウン　ウン　ウン）　デハルヨーナ　　ヤズ
（B　うん　うん　うん）　[世に]出るような　者[を]

モズンダガラ　（B　ハハハハー）　　ニダヨーナ　ンドーシンデワ
持つんだから　（B　そうかそうか）　似たような　者同士では

ソノー、　ワガネ〔13〕ンダガラ　ンズ〔14〕ンノデ　ソノ
その、　　だめなんだから」　　というので　　その、

オヤンドースカ゜　キメンダワンゲンダ。　　（B　ハー）
親同士が　　[縁談を]決めたわけだ。（B　そうか）

サイウェァ　アソッカラ　　キタッカラ
幸い、　　あそこ[の家]から　[縁談が]来たから。

アソゴノ　ウンズァ　ホンタァ　ビンボーンデナ、（B　ウン）
あそこの　家は　　本当は　　貧乏でね。　　（B　うん）

ビンボンデ　カシェガネンバ　カレネァガラ　　ホンタァ
貧乏で、　働かなければ　食べられないから　本当は

シンデンダンドモ、　　（B　ウン）
[嫁ぎ先としては]つらいんだけれども、（B　うん）

コーダノ　マコ゜ーワ　ソノ、　タメヌァ　ソノ
子だの　孫は　その　ためには　その

9 B：アー　エガニモ
ああ　確かに。

10A：エーンダガラ　　ッテナ。（B　ウン　ウン）
[この縁談は]いいんだから　ってね。（B　うん　うん）

ナンヌモ　キノ　　ネァノヌサ。
[私は]なにも　[結婚する]気の[＝が]　ないのにね。

（B　ハー）　アルドンギ　マンッツー、
（B　そうか）　ある時、　まあ。

オリェ　ヨル　ネンベット　シタドゴロァ　ソノ
私が　夜　寝ようと　したところが、　その

オヤンズド　オフグロド　デー〔15〕、
父親と　母親と　いて、

ハナス　アッカラー　アダレ
「話[が]　あるから　[ここへ来て火に]あたれ」

岩手 01-7

ズワゲダ　　（B　ウン　ウン　ウン　ウンー）
と言うわけだ、（B　うん　うん　うん　うん）

ミンナ　　ネデスマッテガラサー。　ッタ、
みんな[が]　寝てしまってから。　　そしたら、

キョー　オミェオ、　ソステ　　コーユーンドゴサ
「今日、　おまえを　こういうわけで　こういう家へ

ケル　　ゴドヌ　スッタガラ、（B　ウン）
[嫁に]やる　ことに　したから、　（B　うん）

アーンダノ　コーンダノッテー　イャネンデ
ああだの　こうだのって　　[文句を]言わないで

イゲ　　ッテサ。
[嫁に]行け」　って[言うの]ね。

（B　ハハハハー）　ソステ、　オヤンダズアー　ソノ、
（B　そうかそうか）　そして、「親たちは　　その、

オメエオ　アンズッカラ、　ミンデェ
おまえを　心配するから　[相手を]見て[決めた]。

オヤンダズノ　キメダ　メンガンワ〔16〕
親たちの　　決めた　////は

クルッテルモンデネーガラ、　（B　ウン）　エゲヨ
狂っているもので[は]ないから　（B　うん）　[嫁に]行けよ

岩手 01-8

キモノンバ　エッペァ　カッテケッ〔17〕カラ、　ッテサ。
着物を　　たくさん　買ってやるから」　　ってね。

{笑}　（B　ウン）　{咳}　ソステ　マンツ、
{笑}　（B　うん）　{咳}　そして　まあ、

サドサレダワゲダ。（B　ウ　　ウン）
さとされたわけだ。（B　うん　うん）

ハーデ、　フェンズ　スタラ　エンダガ
はて、　返事[を]　したら　いいのか、

フェンズ　サネンダラ　　エンダガ　マンツ
返事[を]　しないほうが　いいのか、　まあ

ワゲェ　ワガンネガッタンドモ　（B　ウン　ウン　ウン）
わけが　わからなかったけども　（B　うん　うん　うん）

マンツ、　ソノママ、ヌ　ステ、　ン　　（B　ウン）
まあ、　そのままに　　して、　うん　（B　うん）

ソステ　スンバラグ　タッタドコ゜ロァナ、（B　ウン）
そして　しばらく　経ったところがね、　（B　うん）

オレァ　イネァ　アドヌ　　アレァ、　サゲタンデ〔18〕
私が　いない　あとで[＝時に]　あれは、　結納[を]

スタンダフンダッケ。（B　ハー）
した様子だったよ。（B　そうか）

ソノ　サゲタ゛ンデモ　　ッシャネンダー。　　（B　フーン）
その　[結納の]儀式も　[私は]知らないんだ。（B　ふうん）

ソステー、　メァノトースーノ　ホンダナ
そして、　[結婚の]前の年の、そうだな、

ジューエズカ゛ズッコロ　ソノー、　サゲタ゛ンデダンダ゛ンベ。
11月頃、　その　儀式をしたんだろう。

（B　ハー）　ツク゜ノトスノ、　カ゛ンゾエ゛ンデ
（B　そうか）　次の年の　数え[年]で

ジュース゛ンズノ　トス゛ンダッタモヤー、（B　ハー）
[私が]17の　歳だったもんね、　（B　そうか）

01↑02

ィヨ、　ィヨメコ゜ニ　ヨゴサエダ　ヤ゛ンズァ。
××　嫁に、　よこされた　歳は。

11B：ハー　ジュース゛ンズナー。
ああ、17[歳]な。

12A：ウン。キモノ　エッペ　カッテケッカラ
うん。「着物[を]　いっぱい　買ってやるから」

ズンノ゛ンデヨ。
というのでね。

13B：ウン　ウン　ウン。
うん　うん　うん。

デァ　ウント　ショッテキタンベモノ、　キモノー。
では、たくさん　背負ってきただろうよ、　着物を。

14A：ソステ、　タンスンバ　オリェ〔19〕ノ　オヤンズ
そして、　箪笥を　私の家の　父[が]

アノ　キリノ　ギ〔20〕　ソンダデデーィガラ。
あの、　桐の　木[を]　育てていたから。

15B：ホーホホホ　キリノ　タンス。
ほうほうほう、　桐の　箪笥。

16A：カ、　キリノ　タンス　コシェンデケダモンダ、
×　桐の　箪笥[を]　こしらえてくれたものだ。

アノ　テンバゴマンデナー。（B　ウン　ウーン）
あの、　手箱までな。　（B　うん　うん）

ソステ　キモノンバサ　オギナ　アネド　アノー、　アリャ
そして　着物を、　大きな　姉と　あの、　ほら、

モドノ　X 4 ジョヤグサ　イッタ　アネド、
元の　X 4 助役に　[嫁に]行った　姉と

（B　ウン　ウン　ウン　ウン　ウン）　オヤンズド、
（B　うん　うん　うん　うん　うん）　父と

（B　ウン）　オレド　ヨッタリ　キテ　サンタヤ〔21〕サ
（B　うん）　私と　4 人　来て、　三田屋へ。

アノ　ションガ゜ズンノ　ウリ゛ンダスノ　ド゛ンギナ、（B　ウン）
あの　正月の　　売出しの　　時ね、　（B　うん）

ヒャ゛ングエンデー　カッテモラッタオンダ。
100円で　　買ってもらったものだ。

17B：アノア゛ンダリノ
あの当時の[金で？]

18A：アン。ソスッタラ　ウ　タンマゲ゜ラエ゛ンダッタヤ（B　へー）
そう。そうしたら　×　[みんなに]驚かれたよ。（B　へえ）

ヒャグエンデェ　カッテモラッタ　゛ンドッテ。
100円で　　買ってもらった　といって。

19B：ホンダ゛ンベー（A　ウン）ヒャグエンダモノ。
そうだろう、（A　うん）100円だもの。

20A：ソステ　　シェンダ゛ング〔22〕エッペ　　コ、
そうやって　着物[を]　　たくさん　×、

カッテモラッタガラ　ソノ　ビンボナ　エサ　イッテモ
買ってもらったから　その、貧乏な　家へ　[嫁に]行っても

エー　　キァ　スッテ　キッタワゲ゛ンダ。
いい[という]　気は　して　[嫁に]来たわけだ。

（B　ウン）ソーステ　キタドゴロァ
（B　うん）そして　来たところが、

岩手 02-4

ソノ　X３　ズ　　シトァ　タンマケ゜ダ
その　X３　という　人は　　驚いた。

ホニ　　アダマ　イェ、ヨクテナ、（B　ウン）
本当に　頭[が]　××　よくてね、（B　うん）

エッコ　　シラネエ　ズ　　ゴドァ　ネガッタンダンジョ。
いっこう[に]　知らない　という　ことは　なかったんだぞ。

（B　ハー）　キゲンバ　　ナンーデモ
（B　そうか）　たずねれば　なんでも

オンベンデラ〔23〕ヨンヌ　シャンベンカ゜、
知っているように　　話すが、

ジンブンッカラ　ソレワ　コーンデ　　ネンダ
自分から　　「それは　こうで[は]　ないんだ」

ズ　　ゴンド　　ジェッテェ　イワネ　　シトダッタナー。
という　こと[は]　絶対[に]　　言わない　人だったな。

（B　ハハハ）　コーレニァ　コーサンダッタナ
（B　そうか）　これには　　降参だったな。

ナンヌスタッテ　キイダラ　　インダガ　マンッツ、
なんにしたって、[なにを]聞いたら　いいのか　まあ、

シャンベッタラ　　インダガ
[なにを]言ったら　いいのか[わからない]。

ジェーッテ　ヒェンズ　スネンダモノ。
[夫は]絶対　返事[を]　しないんだもの。

21B：ウン　ウン
うん　うん。

ソノー　ゴシュンキ゜ノ　　ドギヨ、（A　ウン）
その　　ご祝儀[＝結婚]の　時ね、　（A　うん）

アノー、　オモレァオギャグ〔24〕　ナンツー　　ゴド
あの、　おもらいお客、　　なんていう　こと[が]

アンチェァ　アレー〔25〕。（A　ウン）
あるよな、　ほら。　　（A　うん）

ソレガラ　タラッコショイ〔26〕（A　ウン）
それから　俵背負い、　　（A　うん）

タンスカズキ゜〔27〕ガ？　（A　ウン）
箪笥担ぎか？　　（A　うん）

シェガラ　オドモ〔28〕ンダカ゜。（A　ウン）
それから　付き添い人か？　　（A　うん）

ソノー　エニ　ヨッテワ、　アノー　オモレェサマ
その　　家に　よっては　あの、　おもらい客[を]

ツケネァ　ドギモ　アルンドモ　　（A　ウン　ウン）
つけない　場合も　あるけれども、（A　うん　うん）

タイディェ、　ツケッケモナ。
たいてい[は]　つけるのだものな。

22A：ウン。　オレ　　ドギャ　オモレェサマ　　フタリニサ
うん。　私[の]　時は　　おもらい客[が]　二人にね、

（B　ウン）　オギャクサン　フタリサ
（B　うん）　お客様[が]　　二人[いたの]ね。

（B　アー　　アー　ウン）　ソレサナー、（B　ウン）
（B　ああ、　ああ　うん）　それにね、　（B　うん）

タラッコショイド、（B　ン　　タンスカズキ゜ド）
俵背負いと　　（B　うん、　箪笥担ぎと）

タンスカズキ゜ァ、　タンスァ　フッタフル〔29〕　ヌ
箪笥担ぎは　　箪笥は　　2竿　　×

ケダッタモヤ　オラエデェ。
くれたもんね、　私の家で。

23B：アー　デァ　フタリダナ、　フタリ。
ああ、　では　二人だな、　二人。

24A：ウン、　タンスー　（B　ウン）　ソリェ、　タンス
うん、　箪笥、　　（B　うん）　それは、　箪笥[を]

フッタフリノ　バエデァ　ケルホーデァ　　カ゜〔30〕
2竿の　　場合では、　[嫁を]やるほう××　が

サンニン　　ダスンダド。　（B　ハハハハー）
３人[のおもらい客を]　出すんだって。（B　そうかそうか）

ホンダンドンモ　モラホーンデワ
そうだけれども　[相手を]もらうほうでは

ホレ　タンス　　ダサネーノンダガラ、（B　ウン）
ほら　箪笥[を]　出さないのだから　　（B　うん）

シットリ　ムゲァンニ　クルンダ　ンズンドモ
一人[が]　迎えに　　来るのだ　というけれども

アノドギァ、（B　ハハー）
あの時は　　（B　そうか）

タンスカンズキ゜ァ　フッタリンズズダッタヤ。
箪笥担ぎは　　二人ずつだったね。

25B：ウン。　ソステ　マニャボ〔31〕ンダガ
うん。　そして　嫁の付け人だか

ナニモ、　　スルンダッタナ
なに[か]も　するんだったな

26A：ソステ　ヨメムゲァワ　エガナガッタ。
そして　嫁迎え[に]は　行かなかった。

27B：エガナガッタ。　ハハー　フン。
行かなかった？　そうか　うん。

28A：ソステ　オレャノ　オーギナ　アネーワ、
そして、私の家の　大きな　姉は

オモレャサマニ　キッテ　（B　ウン）
おもらい客に　来て[いた]。（B　うん）

オーギナ　アネニ　コンドモ　アッカラ、
大きな　姉に　子ども[が]　いるから。

ソステ　オラホ〔32〕ガラワ　コモリャ　ツエデキタノ。
そして　私のほうからは　子守りが　ついてきたの。

（B　ハハハハ）　オリャノ　イモットァ
（B　そうかそうか）　私の家の　妹は

コモルニ　キタッタ。
子守りに　来た。

29B：ウン。ソステー　コッツガラワー　ソノー、ムゴード
うん。そして　こっちからは、その、向こうと

（A　ウン）ヤッパル　オモリャオギャグー、（A　ウン）
（A　うん）やっぱり　おもらいお客、（A　うん）

ドワ　ムゲァニ　エグワゲンダナ。（A　ウン）ソンズギァ
とは　迎えに　行くわけだな。（A　そう）その時は

マカ゜テ　ミダ〔33〕ベ　ダラ
[あなたは]のぞいて　[婿を]見ただろう、それなら。

アリャ　オレノ　ムゴニ　（A　ツガ　ツガ）　ナル　ヤズダナ
「あれは　私の　　婿に　　（A　違う　違う）　なる　人だな」

ズ　　（A　ツカ゜ル　ツカ゜ル）　ウン？
という[ように]　（A　違う　　違う）　　うん？

30A：ツガルー。（B　ハー）　　ウラッチャノマ〔34〕　ッテ
違う。　　（B　そうか）　[実家には]裏茶の間　って

ウラノホーニ　ヘヤ　　アッタンダモナ、
裏のほうに　　部屋[が]　あったんだもんな。

ソンゴンデ　ヨンメコ゜ンバ〔35〕　アノ　（B　ハハハハハ）
そこで　　嫁[を]。　　あの　（B　そうかそうか）

アレャ　　イマ、　　ムガスッカダリノ　オンバサン〔36〕
ほらあれは　今[では]　昔話の語り手の　　おばあさん

X５バ。　　（B　ウン　ウン　ウン）　アノシトァ
X５おばあさん。（B　うん　うん　うん）　あの人は

ニホンカ゜ミ　　ナラッテ　ユッタ　　ドギデナ、
日本髪[の結い方を]　習って　　結っていた　時でね。

（B　ホー）　アー　オレァ　ヨメコ゜ニ　ナッ　　トギァ
（B　ほう）　ああ　私は　　嫁に　　なった　時は

アィエンダ、　カミクムチョ〔37〕ノ
あれなんだ、　上組町[通り]の

Ｘ６サンサ　　キッテ　ナラエ、　アノ
Ｘ６さんのところへ　来て　　習え　　あの

カミバ　ユッテモラッテアッタ。（Ｂ　ハハハハー）
髪を　　結ってもらっていた。　（Ｂ　そうかそうか）

ソスッテ　アノ、　ガッタルハンベー〔38〕　ッテナー。
そして　　あの　「がったり半兵衛」　　ってね。

31Ｂ：ウン　ウン　ハンベ　　アッタ　アッタ。
うん　うん　半兵衛[自動車]。あった　あった。

32Ａ：ハンベァ　ッテ　アノー、（Ｂ　ハンベズンドシャ）　ウン
半兵衛　　って　あの　　（Ｂ　半兵衛自動車）　　そう。

ジョーヨーシャ　エンズンデエ　アッタンダ　　アンドギァナ。
乗用車[が]　　１台、　　あったんだ、　あの時はな。

（Ｂ　ウン　ウン　ウン）　アレサ　ノシェラレデ
（Ｂ　うん　うん　うん）　あれに　乗せられて[きた]

ゴーズッセンデー。（Ｂ　ハー）　ソーステ　トゴヤワ
50銭[の運賃]で　　（Ｂ　そうか）　そして　　床屋は

アノ、　アリャ、　エマー、　シヤクショサ
あの　　ほら、　　今は　　市役所へ
02↑03
メクッ　トゴノ　　アノ　ツルッタオガスヤ
入る　　ところの[＝場所にある]　あの　鶴田お菓子屋

ドガ　ズンドゴニ、　（B　ウン　ウン　ウン　ウン）
とか　というところに　（B　うん　うん　うん　うん）

マンジュロトゴヤ　ッテ　アッタッケ。
万十郎床屋　という[店が]　あったものだ。

（B　フン　フンダ　フンダ）
（B　うん　そうだ　そうだ）

アソゴサ　ヨメコ゜ニ　ナッ　トギ　ハスメデ
あそこに、嫁に　なる　時[に]　初めて

イッ、　ヘッタンダヨ　（B　ハー　ウーン）　トゴヤサ。
××　入ったんだよ、（B　そうか　うん）　床屋に。

ソステガラ、　アンニェーガラ　アリャ、　アノドギ
そうしていながら、姉から　あれは、あの時

ゴーズッシェンク゜リァダッタケナー。（B　ウン）
50銭くらいだったかな。（B　うん）

クルーム　カッテモラッテサ、（B　ウン）
クリーム[を]　買ってもらって、（B　うん）

ソステ　ツケデ　エッタッター。　{笑}
そして　[それを]つけて　[嫁に]行ったのだった。{笑}

33B：{笑}　ホースット、　パンパンド　クサグステ
{笑}　そうすると、　ぷんぷんと　[クリーム]くさくして

エッタワゲダー。
[嫁に]行ったわけだ。

34A：ウン。（B　ウン）　ソノドギィ　（B　{笑}）　ハンツメデ
そう。（B　うん）　その時に　（B　{笑}）　初めて

マズ　クリームクサクテ　イッタワゲダ。
まあ、　クリームくさくして、　[嫁に]行ったわけだ。

35B：ハハハハ、　ハーハ。　ウーン。
そうかそうか、　そうか。　うん。

ソステ　アノー、　ソノアダリノー、　アノー、
ところで　あの、　その頃の、　あの

クツトリ〔39〕ンダンドガー、（A　ウン）
口取りだとか　（A　うん）

シギモンノダンドガ　ッテー、　（A　ウン　ウン）
引き物だとか　って[いうのは]　（A　うん　うん）

アノ、　アノアダリァ　サガナガ、（A　ウン）
あの、　あのあたりは　魚か？　（A　うん）

サガナナ？
｜Aの発言を受けて｜魚か。

36A：オラエーンデーワ　サガナ　ツゲダッタナ。
私の家では　魚[を]　つけたな。

（B　ハハハハ）　　ソスタッ　ノーサギ〔40〕ンデーァ
（B　そうかそうか）　そしたら　野崎では

アノ　スマナ　タンモノ　ツゲダッタヤ　シギモノヌァ。
あの　縞の　　反物[を]　つけたな、　　引き物には。

37B：ホー　エッタンブン。（A　ウン）　フーン
ほう、　1反分。　　（A　うん）　ふうん。

ト、（A　ソ）　トル　　エンデェァ
×、（A　×）　[嫁を]もらい受ける　家では

ガンバルモンダガラナ。
がんばる[＝見栄を張る]もんだからな。

38A：ウン。　トル　　エンデェ　アノ、　スマナ、
うん。　もらい受ける　家では　　あの　　縞の

（B　ハー）　　タンモノ　エッタン　ツケダッタ　（B　ウン）
（B　そうか）　反物[を]　1反　　つけた。　　（B　うん）

ステ　　クツトリヌーワ　アノ、　ツーチェー　サガナッコ、
そして　口取りには　　あの、　小さい　　魚。

（B　ウン）　アゲ　サガナ　＊＊＊
（B　うん）　赤い　魚　　＊＊＊

39B：タルキン　テ　　アッタベ　　タルキン　ツモノァ。
結納金　　って　あっただろう、　結納金　　というものは。

40A：タルキンワ、 オリェンデァ　トンナガッタ。
結納金は、　私の家では　取らなかった。

（B　ハー。　{笑}）
（B　そうか。{笑}）

オレァノ　オヤダンズワ　エンリョステサ。
私の家の　親たちは　[婿の家に]遠慮してね。

41B：アー　エガニモ　フムフム　アンズダンダ
ああ　いかにも[＝確かに]。ふんふん　心配したんだ。

（A　ウン）ヤッパル　ソレワ。
（A　うん）やっぱり　それは。

42A：ウン。バガナー　ムスメ　ヤッカラ　ソノ
うん。「ばかな　娘[を]　[嫁に]やるから　その、

タルキンワ　イラネ　ット。
結納金は　いらない」と[いう親の気持ちだろう]。

ソステ　ユイェモノー　ズーノワナ、（B　ウン　タンモノ）
そして　祝い物　というのはな、（B　うん　反物）

アリェァ　キモノァ　フッタドリ〔41〕エッタッタ。
あれは　着物は　2枚[が]　[あちらに]行った。

（B　ホー）ソレァ　タンモノァ　ニッタン
（B　ほう）それは、反物は　2反[が]

エッタッタ　　（B　ハハハハ）
[あちらに]行った。（B　そうかそうか）

ソエサ、　カゲフットン　インズマイ。（B　ハー）
それに、　掛け布団[が]　1枚。　　（B　そうか）

アダァ　ハー　ナンヌモ　モランナガッタ。（B　ウン）
あとは　もう、　なにも　もらわなかった。（B　うん）

アダァ　ミンナ　エンデ　　ケンデヨゴスタ。
あとは　みんな　[私の]家で　与えてよこした。

43B：ウン。　ソステ　　コッツサ　キテー、（A　ウン）
うん。　それから　こっちへ　来て　　（A　うん）

マンズ、　サンサンクンドノ　サガンズギー　（A　ウン）
まあ　　三三九度の　　杯　　（A　うん）

ズ　　ゴドバ　スタベスー。
という　ことを　しただろうし。

44A：ウン。　サンサクンドノ　サンガンズギノ　ドギァ
うん。　三三九度の　　杯の　　時は

ムンゴワ　ダイリダッタナ。（B　ハー）
婿は　　代理だったな。　（B　そうか）

オレノ　ドギァ。（B　ハハハ）
私の　　時は。　（B　そうか）

ムゴァ　　ジェンジェン　ミナガッタオン。
婿[の姿]は　全然　　見なかったもの。

45B：ハー。　フンダン　ミデッカラ　　ド
そうか。ふだん　[相手を]見ているから[見なくてよい]　と

オモタッタベガナ
思っただろうかな？

46A：ツカ゜ル　ツカ゜ル。（B　{笑}　ハー）
違う　　違う　　（B　{笑}　そうか）

フンダンモ　ミンナガッタ。　　（B　ハー）
ふだんも　[姿を]見なかった。（B　はあ）

フンダンモ　ホンドント　ミッ　コドァ　ナガッタナ。
ふだんも　ほとんど　見る　ことは　なかったな。

47B：ヨグ　ムガスァ　ダエリァ　　デダモンダナ。
よく　昔は　　[本人の]代理が　出たもんだな。

（A　ウン）ソノエノ　アレェ
（A　そう）その家の　あれは

48A：サンサンクンドノ　ドギーワ、ダエリダッタ。（B　フーン）
三三九度の　　時は　　代理だった。　（B　ふうん）

{笑}　（B　ハー）　ソステ　ソノシァ
{笑}　（B　そうか）そうして　その日は

ムゴノ　カオ　　エッコー　　ミネァノ。（B　ウン）
婿の　　顔[を]　いっこう[に]　見ないの。（B　うん）

ソステ、　{笑}　オギャクサマダズァ　ケッテグ　　ウズァ
そうして　{笑}　お客様たちが　　帰っていく　間は、

ヨメコ゜ァ　ネラエナガッタンダモ。　（B　ハハハハ）
嫁は　　寝られなかったんだもの。（B　そうかそうか）

アドカダズゲ　ステ　トンズマリ　　ステ
後片付け[を]　して　戸締まり[を]　して

シオ　トメデナ、（B　ウン）　ソステ
火を　消してね　（B　うん）　そうして

49B：ハー　　ソノ　バンカラ　ハー　（A　ウン）　マンズ
もう、　その　晩から　　もう、（A　うん）　まあ

（A　ウン）　ソノ　　ヨメノ　ツトメ　　スタワゲダナ
（A　うん）　その、　嫁の　　仕事[を]　したわけだな、

ハ　　（A　ウン）　ハー。
もう。（A　うん）　そうか。

50A：シ、　シ、　シノ　マワリ　　ミデェーサ。
×、　×、　火の　まわり[を]　見て[＝点検して]ね。

51B：ウン。　オラァ　ムゴニ　ナッター　ドギァヨ、（A　ウン）
うん。　私が　　婿に　　なった　　時はね、　（A　うん）

ガガ〔42〕 トッタ　　ドキァ、 エマ　エッテル
妻[を]　　もらった　時は、　今　　話している

オモレァオギャグァ　ツエデ、（A　ウン）
おもらいお客が　　ついて、（A　うん）

ソステ　　トゴエレ〔43〕 ズ　　モノァ　アッタンダヨ
そうして　床入れ　　という　ものが　あったんだよ。

52A：ハー。　トゴイレ　ッタラ　　ナンッタ　マネ
そうか。床入れ　といったら　どんな　　こと

53B：マダ　オギャグダズァ　ケーネァ　ウズニサ。
まだ　お客たちは　　帰らない　うちにね。

54A：トゴエレ　ズ、　　ッタラ　　ナンッタ　マネ　　ステ
床入れ　　という、 といったら　どんな　　こと[を]　して

55B：トゴエレ　ズーノア　　ソノー、（A　ウン）
床入れ　　というのは　その、　（A　うん）

フーフ、　ナランベデサ　（A　ウン）
夫婦[を]　並べてね　　（A　うん）

トゴノ　ナガサナ、（A　ウン）ソステ　　アノ
床の　　中にな、　（A　うん）そうして　あの

サ、 サンサンクンドノ　サンガズギコ゜ドーミデァーナ　ゴド
×、 三三九度の　　杯事みたいな　　こと[を]

マダ　ヤンダッケー。（A　ハー）　ソシテ　ソノ
また　やるんだよ。　（A　そうか）そして　その

56A：ステ　ソノー　ヘヤノ　ナガヌィ
そして　その　部屋の　中に？

57B：ウン　（A　ハー）　ヤ
そうだ。（A　そうか）いや、

ブルブルッタ　モンダデバ　ホイズ。
ぶるぶるした[＝震えた]　ものだってば、そいつ[は]。

（A　{笑}　イヤ　ナーンダ　{笑}）
（A　{笑}　いや　なんだ　{笑}）

ソーステ　ソノー、ィヨメノナ、（A　ウン）
そうして　その　嫁のな、　（A　うん）

ヨメノ　オンビドー　（A　ウン）ソレガラ　ソノ
嫁の　帯と　（A　うん）それから　その

03↑04

モゴノ　オンビドー、（A　ウン）ムスンデー　（A　ウン）
婿の　帯とを　（A　うん）結んで、　（A　うん）

アサマ　コレ　オギッ　トギァ
「朝[に]　これ[＝帯][を]　起きる　時は

フタリステ　トゲヨ　ット。（A　ウン）
二人で　解けよ」って。（A　うん）

ムスンダモノ　トグズゴドァ　ヨグネァ　ゴドンダナー　ド
結んだもの[を]　解くということは　よくない　ことだな　と

オモタッタンドモヨー。（A　ウン　{笑}）　{笑}
思ったけれどもよ。　（A　うん　{笑}）　{笑}

マンズ、　ソステ　マンズ
まあ、　そうして　まあ

58A：ウデァ　カンゲエルックレーンデ
それでは、　考えるくらい[のこと]で[は]

ネガッタンダー　{笑}
なかったんだ。　{笑}

59B：オラ　シンセギガラ　モラッタッタガラヨ。　（A　ハー）
私は　親戚から　[嫁を]もらったからよ　（A　そうか）

ウン　オンベデラノダッタガラ　（A　ウン）
うん　[相手は]知っている人だったから　（A　うん）

ドーズゴド　ナガッタカ゜。（A　ウン）
どうということ[は]　なかったが。　（A　うん）

ハー　シテ　オメダズノ　バアイワ、
そうか、　そして　あなたたちの　場合は

ホノ　トゴエレ　ズ　ゴド　ハ
その、　床入れ　という　こと[は]　もう

60A：ゼンゼ　ナガッタ。
　　全然　　なかったね。

61B：イマデモ　ネンダナ。　　ン。
　　今でも　　[習慣として]ないんだな。　うん。

62A：エマモ　　ネァ　（B　ハー）
　　今[で]も　ない。（B　そうか）

　　ズッ、ト　ナガッタナ。　ホンダガー　コッツァー
　　ずっと　　なかったな。　それだから　こっち[＝私]は

63B：ハー。　　オラドグァ　　ズット　コー　　シキタリドステ
　　そうか。　私のところは　ずっと　こう、　しきたりとして

　　アルンーダナ。
　　[床入れが]あるんだな。

64A：ウン。　　ソノー、　モッゴァ　エズガ　トゴサ　ヘッタンダガ
　　そうか。　その　　婿は　　いつ　　床に　　入ったんだか

　　ッシャネンダモ　　ヨメコ゜ァ。　アドカダズゲ　スッテ
　　知らないんだもの、　嫁は。　　後片付け[を]　して

　　アドガラ　ヘッタ　　ドギ、ア　エッツニ　ヨニ
　　あとから　[床に]入った　時は　　とっくに　××

　　（B　{笑}）　モー　ハ　　ムゴァ　ナニ　（A・B　{笑}）
　　（B　{笑}）　もう　すでに　婿は　　なに　（A・B　{笑}）

65B：オーカシーコダー。 {笑}
おかしいことだ。 {笑}

イマ カンケ゜デミット オガスカ゜ヨ。 ホニナ
今 考えてみると おかしいがね。 本当にな

66A：ソーステ、 ネーダーノーワ
そうして、 [私が]寝たのは

イツ゛ンズスキ゜ダッタドモナー、
[夜中の]1時過ぎだったけれどもな

67B：ウン。 アサマ、 ネネァ゛ンデ、
うん。 朝[には]、 寝ないで

オギダヨーナモンダベ ハ。
起きたようなものだろう、 もう。

68A：アサマー、（B {笑}） ソースタラ アサマガンズギ〔44〕サ
朝、 （B {笑}） そしたら 夜明けに

ネッテスマッタンダベ。 （B ウン ウン ウン ウン）
眠ってしまったんだろう。（B うん うん うん うん）

グッスリ ネデスマッタ アレァ アノー、 オナラ〔45〕
ぐっすり 寝てしまった。 あれは あの 大槽[の]

ムゲァンーノナ、（B ウン） イマー、 アノー、
向かいのな （B うん） 今 あの

岩手 04-5

X 7 シェンシェ　イダ　ドゴー、（B　ウン）
X 7 先生[が]　　いる　ところ　（B　うん）

アソゴンヌ　アノ　　オリェノ　オンバサンノ
あそこに　　あの、　私の家の　おばさんの

オドットヌ　アダル　シト　　ィエ　　タデデエダッタモヤー。
弟に　　あたる　人[が]　家[を]　建てていたからよ。

（B　ハー）　　ソノ　オドットノ　ガガヌー、
（B　そうか）　その　弟の　　奥さんに

（B　オゴサレダッタ）　ソノ　オリェノ　インドゴノ　スト
（B　起こされた）　　その　私の家の　いとこの　人[が]

キテヤッタモノ。（B　ハー）
来ていたもの。　（B　そうか）

オリャノ　バサマノ　　デダ　エガラ　キテエダ
私の家の　おばあさんが　出た　家から　来ていた[人だ]。

（B　ハー）　ソノストヌ　オゴサレデ　オギダノサ。
（B　はあ）　その人に　　起こされて　起きたのね。

（B　ハー）　　ナーニ　ッシャネンデ
（B　そうか）　なあに　[嫁はなにも]知らないで

ネッテランダ　　オキナインダモノ　{笑}
寝ているんだ、　起きないんだもの　{笑}

69B：ウン、　タイデーデンバ、　ネネデ　オギンダ
うん　たいていであれば、［朝まで］寝ないで　起きるのだ

ズカ゜ナ　ヨメカ゜ヨ。（A　ナーニ）　ソノアダリワヨー
というがな。　嫁がよ。　（A　なあに）　その頃はね。

70A：エヤ、　ソノドギァ　ネァネガッタガモスレネ
いや、　その時は　寝なかったかもしれない。

アサマサ　ネッタッタナー　ハー。
朝に［なってから］　寝たな、　もう。

71B：ソステ　アー、　アノー　ウマカ゜マ〔46〕サー、（A　ウン）
そして　あ、　あの　［嫁は］馬釜に　（A　うん）

シ、　（A　ウン）　テァダ　ドガッテ、　ユーンダッケー。
火［を］（A　うん）　焚いた　とかって　いうのだった。

72A：ウン　ソスタラ　ソノ　イドゴナ　（B　ウン）　アノ
うん　そうしたら　その　いとこの　（B　うん）　あの

オンバサマ。　カマサー　シ　テァデデケダッタノ。
おばさん［が］　釜に　火［を］　焚いていてくれたの。

（B　ハー）　ソレガラ
（B　そうか）　それから［＝火を焚いてから］、

シ　テァデモ　オギネガラ　エッテ
火［を］　焚いても　起きないから　行って

オゴスタンダベオノ。
[私を]起こしたんだろうよ。

73B：ウーン　(A　{笑})　ツカレジャッタンダー　(A　ウン)
そうか　(A　{笑})　疲れちゃったんだ。　(A　うん)

キンズガレ、ダッタンダナ。
気疲れだったんだな。

74A：ソーステ、　オゴサレデ　オギダドゴ
そうして　起こされて　起きたところ、

モゴァ　エズガ　オギダガ　エネガッタンジェ　ハー。{笑}
婿は　いつ　起きたのか、　いなかったぞ、　もう。{笑}

(B　ハー)　コノ　モゴァ　オレバ　オゴサネンデ、
(B　そうか)　この　婿は　私を　起こさないで

デハッタオンダ　(B　ウン)
出かけたのだ。　(B　うん)

ソレ　ッシャネンデ　ネッテランダモノ
それ[を]　知らないで　[私は]寝ていたんだもの。

トッテモ、　ハナスニ　ナンネ。　{笑}
とても　話に　ならない。{笑}

75B：ヤッパリー　アノ　アイダ、　アレダッタンダベモン
やっぱり　あの　あれだ。　あれだったんだろうよ。

ムゴド　シェバヨ　（A　{笑}）　ダンナドノド　シェンバ
婿と　すればよ、（A　{笑}）　旦那様と　すれば

（A　{笑}）　カワイー　ニョーボノ　（A　{笑}）
（A　{笑}）　かわいい　女房の　（A　{笑}）

ネカ゜オー　ミナカ゜ラ　コー
寝顔を　見ながら　こう[＝起こさないように]

オギダンダベオ　コッソリドー、　ウン。
起きたんだろうから。　こっそりと、　うん。

（A　ナンナ　{笑}）　ソイユゴドダ。
（A　なんの　{笑}）　そういうことだ。

76A：ニョーンボダンドモ　ガガダドモ　オモワナガッタンダデバ。
女房だとも　妻だとも　思わなかったんだってば。

（B　{笑}　イヤーイヤ　ソンドギァサー）
（B　{笑}　いやいや、　その時はね）

ワーレバル　オギデ　エナガッタデバ。
自分だけ　起きて　[家にも]いなかったってば。

77B：ダデニ　アイシタモンデ　ネンダモンノデナー？
だてに　愛したもので[は]　ないんだからでない？

（A　{笑}）　サンサンクンドノ　サガンズギ　ズ　モノァ。
（A　{笑}）　三三九度の　杯　という　ものは。

イヤー　ヤッパリ、　アノー　ソノ　サガンズギ　（A　{笑}）
いや　　やっぱり　　あの、　その　杯[を]　　（A　{笑}）

ヤッタリ　トッタリ　スル　ドギァヨー、　ヤッパリ
やったり　取ったり　する　時はよ、　　やっぱり

（A　ヤー　アノ）　コゴロァ　シギスマルモンダッケンジェー。
（A　いや　あの）　心が　　引き締まるものだぞ。

78A：シギスマル　ッテ　ソエガ〔47〕（B　{笑}）
引き締まる　って　言うか、　　（B　{笑}）

ナンテ　ソエンダガナー。　ナーンチャッチ
なんと　言うんだかな。　なんと言ったって

コンッタ　ツッチャ　サガズギダベ。（B　ウン）
こんな　　小さい　　杯だろう？　　（B　うん）

アレ　　トッパジョサンネバ〔48〕　エンット
あれ[を]　取り落とさなければ　　いいと、

アレデ　ハラハラッタッタ〔49〕ナ。（B　フン）
あれで　はらはらしたな。　　（B　うん）

ナヌモーゥ　ソレンカ゜イノ　ゴドァ　カンケ゜ァナガッタナ。
なにも　　それ以外の　　ことは　考えなかったな。

コノ　サガンズギー　（B　ウン）　トッパンジョスッテー
この　杯を　　（B　うん）　取り落として

マゲンデワ〔50〕　ワガネカ゜　ド　ユッテ　＊＊＊＊。
[酒を]こぼしては　だめだが　と　言って　＊＊＊＊。

79B：ソノアダリーワー、　アノ　アレガー、　ツクタ　サゲ〔51〕ガ。
その頃は　あの　あれか、　作った　酒か？

80A：ホンデネ　ホントノー　セーシュンダッタ
そうで[は]ない、　本当の　清酒だった。

81B：ハハハハハハハハ　アン。
そうかそうか、　うん。

コカ゜コ〔52〕、モ　ツクタンダカ゜ナ　ムガスァ
濁り酒も　作ったんだがね、　昔は。

82A：ウン　コンカ゜モ　（B　ウン）　ツグテアッタッタンドモ
うん、　濁り酒も　（B　うん）　作ってあったけれども、

（B　ウン）　アノ　サンサンクンドノ　ドギワ
（B　うん）　あの　三三九度の　時は

セーシュダッタナ。
清酒だったな。

83B：マズ　ゴシューキ゜　スルド　ナレバ　モチツギ
まず　ご祝儀[を]　すると　なれば　餅つき[に必要なのは]

シシテ〔53〕サ。（A　ウン）　ナー？　（A　ウン）
一日中ね。　（A　うん）　な？　（A　うん）

04↑

ソレガラー、 ハ ショーンズハリー、 (A ウン)
それから × 障子張り、 (A うん)
↑05
ソーンジ、 シシテ サガンダモナ。
掃除、 一日中 盛んだからな。

84A：ナーニ ミッカグレ メァーガラ (B ウン)
なあに、 3日くらい 前から (B うん)

スッタグスッタンダモノ。 ソーンズステ
支度したんだもの。 掃除して

85B：ウン。 ソステ ゴシューキ゜ァ オワッテ、
うん。 そして ご祝儀は 終わって、

マダ コカ゜ッコアレァダノ ナンダサー、 (A ウン)
また 桶洗いだの なんかね、 (A うん)

トナルノ バサマニ コー、 (A ウン)
隣の おばあさんに こう、 (A うん)

ジサマニ コー ッテ。
おじいさんに こう、 と[頼んで]。

86A：アリャー、 アノ トーンジァ (B ズーット)
あれは、 あの 当時は (B ずっと)

ヨメコ゜ド ムゴァ ダース〔54〕サ。
嫁と 婿は [宴会騒ぎの]だしね。

スンルイダンズバリ　ステヨ　　ホレ
親類たちばかり　　[飲み食い]してね、　ほら

87B：マンズー、　ノンダリ　　クッタリ、　スタンダモナ。
まあ　　[みんなで]飲んだり　食べたり　　したんだものな。

88A：ウン。　エッコ　　ワレエンド〔55〕バリ
うん。　いっこう[に]　自分たちばかり

ステ、　　サガンズキ　{笑}
[飲み食い]して　杯　　{笑}

89B：ウン。　ホニ　　エッシューカングレァ
うん。　本当に　１週間くらい

ヤッタンダモナ。
[お祝いを]やったんだものな。

90A：ホントンダデバ。
本当だってば。

91B：ウン。　ンダガラ、　　カッタ　サゲンバリデェ
うん。　そういうわけだから　買った　酒ばかりで[は]

ワガンネガラ　ホレ、（A　ウン）　カグシテ　ツグッテヤラ。
だめだから　　ほら　（A　うん）　隠して　　作ってなど。

（A　ウン）　アマル　ジョーンズニ　ツグル　キ　　ヤッテダラ
（A　うん）　あまり　上手に　　作る　　気[を]　していたら

スカグ〔56〕 ツグッター ナンテー、（A ウン）
「酸っぱく 作った」 なんて （A うん）

グヤメガエダリ〔57〕 スタンダカ゜ヨ
小言を言われたり したもんだがよ。

92A：ナーンヌ アリャ、 オンヤズンノ トンモダズワ サンゲ
なに あれは 父親の 友だちは 酒

93B：トニカングー、 ンート、 ノサギサ クル メァニ、（A ウン）
とにかく ええと 野崎へ 来る 前に （A うん）

ヤマク゜ズ〔58〕ガラ クルニャー アソゴ マンズァ、
山口から 来る[時]には あそこ まあ

（A ウン） ゴシュキ゜ノ シャグダー ホレー、
（A うん） ご祝儀の 主役だ それ

（A ウン） ノンデガラー、
（A うん） [酒を]飲んでから

タンスカズキ゜ァ サウェンデ キタベモオン。
箪笥担ぎ[たち]は 騒いで 来ただろうよ。

94A：ウン。 タンスカズキ゜ァ サウェンデガラ アリャ
うん。 箪笥担ぎは 騒いでから、 あれは。

タンスノ ウエサ カグマギー〔59〕 カゲデ キタンダモノ。
箪笥の 上に 角巻[を] 掛けて 来たんだもの。

（B　ウン　ソー　ソー　ソー　ソー）　ソステ
（B　うん　そう　そう　そう　そう）　そして

ヌカ゜ズクンダリ〔60〕ノ　ヌガッ　　トギンダガラナ、
２月下旬の　　［道が］ぬかる　時だからな、

（B　ウン）　アスンダ　ホヌーナ、　サンズン〔61〕ク゜レァ
（B　うん）　足駄、　本当にな　３寸くらい

タゲガッタナ、（B　ハハハハハハ）
高かったな、　（B　そうかそうか）

ハナー。　　アレ　　ハガシェラエダモンダー。
［足駄の］歯［が］な。あれ［を］　履かせられたものだ。

（B　ウン）　ソーステサー、　スマンダニ　　ユッテ
（B　そうか）　そうしてね、　［髪を］島田に　結って

ヨージャス〔62〕　ズ　　モノ　　リョーホーサ　サステサ、
両差し　　という　もの［を］　［髪の］両方に　差してね

（B　ウン　ウン　ウン）　メァサモ　　サステサ、
（B　うん　うん　うん）　［さらに］前にも　差してね

（B　ウン）　ツノカ゜グスワ　スナガッタヨ。
（B　うん）　角隠しは　　しなかったよ。

95B：ソノアンダリンダガラナ。（A　ウン）
その当時だからな　　（A　そう）

アー。 ハー　　ヨージャスナ。（A　ウン）
ああ。 そうか　両差しな　　（A　うん）

ウン　アレ　　マダ　リッパナ　モンダモナ。
うん　あれ[は]　また　立派な　　ものだものな。

96A：ソステガラ　モンツギ゛ンダ　ッダッテナ、　　（B　ウン）
それから　　紋付きだ　　[と言]ったってな（B　うん）

トメソ゛ンデ。（B　ハー）
留め袖[だ]。（B　そうか）

ナーケ゜ェ　フリソ゛ンデデ　ネァ、チュフリ゛ンデモ　ナガッタ。
長い　　振袖で[は]　ない　中振りでも　　なかった。

97B：ア、　エマドワ　ツカ゜ッタンダ゛ンベモ。（A　ウン）ウン。
まあ　今とは　　違ったんだろうよ。　（A　うん）うん。

98A：スソモヨー　サット　　ツダー。
裾模様[が]　ちょっと　ついた。

99B：ソスド　　ショーワノ　　ナンネンコロ
そうすると　[それは]昭和の　何年頃？

100A：ショーワゴネン。（B　ゴネン）　　ウン
昭和5年。　　（B　[昭和]5年）うん。

（B　ハー？）ヌ゛カ゜ズノ　ジューログニズダッタナ。
（B　そうか）2月の　　16日だったな。

101B：ウン。 ヤッパリ　ソレバ　　ワシェレナガンベ。
うん。 やっぱり　それ[＝日付]を　忘れないだろう？

102A：ウン。 ソノヒノ　ゴドァ　オンベデランベズ。
うん。 その日の　ことは　覚えているだろうよ。

103B：ウーン。 ショーワゴネンナ？　（A　ウン）
そうか。 昭和５年な。　　（A　うん）

マンダ　オラ　ガッコサ　ヘッテダ　　アダリダンダモナ？
まだ　私は　学校に　　入っていた　頃なんだものな。

104A：ショーワゴネンデガ。（B　ウン）　ジュースズダッタガラ
昭和５年でか？　　（B　うん）　[私は]17[歳]だったから

オメダズァ　　ジュースダモナ。（B　ウン）
あなたたちは　14[歳]だもんな。（B　うん）

ソーシェンバ、　コートーカンダッタモナ。
そうすると　　高等科だったもんな。

（B　ホンダ　ホンダ）　ウン。（B　ハー）
（B　そうだ　そうだ）　うん。（B　そうか）

オレェノ　イモット　マンダ　ガッコサ　ヘァッテッタモ。
私の家の　妹[は]　　まだ　学校に　　入ってたもの。

105B：オラ　　アダリダドヨー、　マンズ　ナゴンドァ
私[の]　近所だとね、　　まあ　仲人は

スズダカダマ〔63〕ノ、（A　ウン）　ボカ゜
ありったけの　　（A　うん）　嘘［を］

フガネワネァ〔64〕　　ド　ユー　ゴドデ　（A　ウン）
つかなければならない　と　いう　ことで、（A　うん）

マ゛ズ　トンデモネー　ボカ゜　フイダモンダッケカ゜ヨー。
まあ　とんでもない　嘘［を］　ついたものだったがな。

マー　ンデモ　コッツァ
まあ　それでも　こちらは

モラネバネァノ゛ダガラ、　　マ゛ズ、
［相手を］もらわなければならないのだから　まあ

ボカ゜　　フイデモナ、（A　ウン）
［仲人が］嘘［を］　ついてもな　（A　うん）

ソリャ　ボカ゜ダカ゜ナー　ド　オモタッテ
「それは　嘘だがな」　　と　思ったとして［も］

ボカ゜ダ　　ドモ　イワレネガラ
「［それは］嘘だ」　とも　言えないから

ダマッテダッケンカ゜ー。　ソステ　ソノー、　タルキンテー、
黙っていたものだが。　そして　その　結納金って

（A　ウン）　ナンボガ　ダスッタンダッケナー。
（A　うん）　いくらか　出したのだったな。

106A：ウン。 アノコロ　タルキンダー　ナンボンダッタンベ。
そう。 あの頃、　結納金なら　　いくらだっただろう。

（B　ウーン） ゴエンカ　ジュエンダッタベナ。
（B　うん）　　5円か　　10円だったろうな。

107B：ウーン　ソンナモンダナ。（A　ウン）
うん　　そんなもんだな。（A　うん）

マンズ　ゴエン　　ジュエン　テバ　　エーホンダッタンベ。
まあ　　5円[か]　10円　　といえば　いいほうだったろう。

108A：ウン。 アノッコロァ　ニホンテヌケ゜ァ
うん。 あの頃は　　日本手ぬぐいは

サンシェンダッタモナ。（B　ハー　　ハハハハ）
3銭だったもんな。　　（B　そうか　そうかそうか）

05↑06

ソーステ　フツノ　タンモノワ
そうして　普通の　反物は

エズエンヌズッシェンク゜レァダッタンダ。
1円20銭くらいだったんだ。

（B　フン　フン　フン）
（B　ふん　ふん　ふん）

ッテ　　カスリドナッツドァ　ヨエン。（B　ハー）
そして　絣となるともう　　4円。　（B　そうか）

ソレサ　ミミンズロ〔65〕ナッテ　マックロナ　ヤズ
それにね　耳白なんて　真っ黒な　もの[＝布]

アノ　ミミサ　シレノ　ツェダ　ヤズ、
あの　[布の]耳に　白いの[が]　ついた　もの[＝布]

（B　ウン）　アレモ　ヨエン、カ　ヨエンゴンズッシェン。
（B　うん）　あれも　4円か　4円50銭。

109B：ハー　ンダタベナ　（A　ウン　ウン）　ミミズロノ
そう　そうだったろうな。（A　うん　うん）　耳白の

ジョートードーナレンバ　ハ　タガガッタンダッケガラ。
上等[なもの]となれば　もう　高かったんだから。

110A：ソステ　モンペ〔66〕ズモノ　ハガネンデサ、
そして　もんぺというもの[を]　履かないでね

（B　フン）　ソリェ、　キタンダモ。
（B　うん）　それ[を]　着たんだもの。

クレ　ナカ゜ミンツカ〔67〕ダ　ッテ。
黒い　丈短だ　って[言って]。

（B　フン　フン　フン）　ソースッテ　アドァ
（B　うん　うん　うん）　そうして　あとは

スマナ　ハ　ナンケ゜ァ　ハッピ　キテサ、
縞の　×　長い　法被[を]　着てね、

（B　ウン）　サンジャグ　サンズンクゃレァヌ
（B　うん）　3尺　　3寸くらいに

コシェダ　ナンゲゃェ　ハッピ　キテ、
こしらえた　長い　法被[を]　着て、

（B　フン　フン　フン）　ソンデノ　ネー　ヤズナ。
（B　うん　うん　うん）　袖の　ない　ものな。

（B　フン）　ソーステ　カシエンダッタオノ。（B　フーン）
（B　うん）　そうして　働いたもの。　（B　ふうん）

ユギンドゲニモ　ハー
雪解けにも　もう

111B：エヤ　ヨメコゃニ　キテ、　イサ　イキテァ
いや　嫁に　来て[から]　家[＝実家]へ　行きたい

ド、　オモンダ　ズンデネーガ　オナコゃダズ
と　思うのだ　というので[は]ないか。　女たち[は]

ジェーブン　エサ　イグモンダンジェ　ホレァ
ずいぶん　家[＝実家]へ　行くものだぞ　それは

112A：オーモールーモー　オーモールーモ。
[実家に行きたいと]思うもの　思うもの。

（B　ウ？）　アンノクゃレァ
（B　うん？）　あのくらい[＝結婚生活ほど]

岩手 06-4

ツマラネ　　グド　　アルモンデ　　ネンダオ。
おもしろくない　こと[は]　あるもので[は]　ないんだもの。

(B　ハー)　　ソレ、　オットン　ナッタ　ストァ
(B　そうか)　ほら、　夫に　　なった　人は

ムクゞズンダンベー。(B　フン　フン)　ダレドステモ
無口だろう。　　(B　うん　うん)　だれであっても

シャンベル　アデェモ　{笑}　ネァスナー。
話す　　あても　　{笑}　ないしね

(B　{笑}　フン)　ナンニ　　シャベルデゴドォ　ネァ、
(B　{笑}　うん)　なに[を]　話すということも　ない

スコゞド、　キ、　キグ　イカゞエスッカ　シャンベラエネンダモ。
仕事[を]　×、　聞く　以外しか　　話せなかったんだもの。

(B　ハー)　　アサマ　オギレンバサー、(B　フン)
(B　そうか)　朝[に]　起きるとね　　(B　うん)

ナーニ　　スマス　　ッテ　ガガナ　ゲ、
「なに[を]　します[か]」　って　姑に　　×

ケサ　　ナニ　　スマス　　ッテ
「今朝[は]　なに[の仕事を]　します[か]」　って。

シェ、(B　{笑})　シェンバ、(B　ウン　ウン)
××　(B　{笑})　言えば　　(B　うん　うん)

岩手 06-5

ワラ　　ウデ　ドガ　ナワ　　ナレ　ドガ　ッテ
「藁[を]　打て」　とか　「縄[を]　なえ」　とか　って

マンッツ、　タノマレデ　　ヤル。　　(B　ウン)
まあ、　　言いつけられて　[それを]する。(B　うん)

モゴ　　ハ　モゴデ　ソレ、
向こう[＝夫][は]　もう　向こうで　それ、

ワレァ　スギナ　スコ゜ド　スンダベ
自分は　好きな　仕事[を]　するんだろう。

(B　フン　フン)　ダラ　　ナニ
(B　うん　うん)　そしたら　なに、

エノ　　フットダンガラ　ソレ、(B　フン　フン)
[夫は]家の　人だから　　それ　(B　うん　うん)

エーズゲラレッ　ツゴドモ　　ネァスナ
言いつけられる　っていうことも　ないしね。

キグ　　ズゴドモ　　ナガンベ。　(B　{笑})
[仕事を]聞く　ということも　ないだろう。(B　{笑})

コッツァ　　ホガガラ　キタ　シトンダガラ、　{笑}
こっち[＝私]は　よそから　来た　人だから　　{笑}

キーデ　カシェカ゜ネワネァガラ　　(B　{笑}　ウン　ウン)
聞いて　働かなければいけないから　(B　{笑}　うん　うん)

キグノヨ。 ソースッテガラ、 アノー、 ホレー、
聞くのよ。 そうしていて　　あのう、 ほら、

エサ　　エグ　ドギァ　アリ、 エッタ　ドギァ
家[＝実家]へ　行く　時は　　あれ、 行った　時は

アレナンダモノ、 オヤダズァ　タダギ゛ンダサレルマ゛ンデ
あれなんだもの。 親たちは　　叩き出されるまで[は]

ジエッ、テー、 ソノ　ズ゛ンブッカラ　デハッテキテ　ナンネ
絶対　　その　自分から　　出てきて[は]　ならない

ズ゛ンゴド　　ユワレダンダモノ。
ということ[を]　言われたんだもの。

(B　ハハハハ　　フーン)　エラネ　　ッテ
(B　そうかそうか　ふうん)　[おまえは]いらない　って

タダギ゛ンダサレダ　ドギァ　ゴッダァ　スッカダネガラナ。
叩き出された　　時の　　ことなら　しかたないからね。

(B　フン)　ソノドギァ　シギウゲル
(B　うん)　その時は　　[実家で]引き受ける。

ソレイカ゜イニ　ズ゛ンブンノ　リユ゛ンデァ、 ソレ。
それ以外に　　自分の　　理由では　　それ。

113B：ハー、　キママワ　ユルスネ　ット　　ハー。
そうか、 気ままは　許さない　って[いうわけだな]。 そうか。

114A：ウン　キルマワ　ユルスネー　ッテ
そう、×××[＝気まま]は　許さない　と

ミドメラエネガッタンダモ。
[嫁ぎ先を飛び出してくるのは]認められなかったんだもの。

（B　ウーン　イガニ　ウン）　ホンダガラー
（B　うん　確かに、うん）　それだから

ソレ、　ガマンステ、（B　ウン）
それ[＝嫁ぎ先を出ること][を]　我慢して　（B　うん）

エダノサ。　ソレ゛ンデモ　シルマ　スコ゜ド　スッテル
いたのね。　それでも　昼間[に]　仕事[を]　している

ウッズノゴドァ　エー゛ンジョ。（B　ウン　ウン）
間のことは　いいぞ。　（B　うん　うん）

ソレー、　ヨル　エサ　ヘァツド　ナンーニモ
ほら　夜　家へ　入るというと　なんにも

シャ゛ンベルゴドァ　ネンダモノ、　ヨア
話すことは　ないんだもの。[なにも]用は

ネンダモノ　ダマーッテネワネンダオノ。　{笑}
ないんだもの。黙っていなくてはならないのだもの。{笑}

115B：{笑}　ホントンダベガ　ホレァ。{笑}
{笑}　本当だろうか　それは。{笑}

116A：ホント　ホンダガラ、　{笑}　ホンダガラ
本当　　それだから　　{笑}　それだから

フスキ゜ナンダ゛ンデバ。　オガスンダ゛ンデバ。
不思議なんだってば。　おかしいんだってば。

（B　{笑}　ハー　　ンダー　　ハー）　　{笑}
（B　{笑}　そうか　それなら　そうか）　{笑}

（B　{笑}）　ソーステーナ、（B　ウン）
（B　{笑}）　そうしてね、　　（B　うん）

ホンットヌ　アレァ、　　ガ、　ガクシャダッタモンナ。
本当に　　あれ[＝夫]は　×　学者だったもんな。

117B：ウン　ウンダタズ。　アノシトノ　ゴドァ、　タスカニ。
そう　そうだったぞ。　あの人の　　ことは　　確かに。

118A：ソステ、　ショモツ　スギダッタモナ。　（B　ウン）
そして、　書物[が]　好きだったものな。（B　うん）

ソッテ　マンマ　　クーンニモナ、（B　ウン）　カンナラズ
そして　ご飯[を]　食べるにもね、（B　うん）　必ず

ソノ　ハンデァノ　ウエサ　ソノ、　アレァ　キング゜〔68〕
その　飯台の　　上に　　その　　あれは　『キング』

ッティァ　アノナ、　アノー　（B　ショモツナ）
っていう　あのね　　あの　　（B　書物な）

ウ　ショモツ、（B　ザッシ　アッタッタ、ウン）
うん　書物[を]、（B　雑誌[が]　あった、　うん）

マイーツギ　トッタンダモン。
毎月　とったんだもの。

119B：ハー　アノアダリナー
そうか　あの頃にな。

120A：ウ、　シュードオヤズノ　X 8　ズー　シットァ
うん。　舅の　X 8　という　人は

アレァ　アノ、　ヤッパル　ソンナゴド
あれは　あの　やっぱり　そんなこと[＝読書][が]

スギダ　シトダッタンダモノ。（B　ハハ　ウン）
好きな　人だったんだもの。（B　そうか　うん）

ソスッテ　アノッコロデナ、（B　ウン）　ガッコノ
そして　あの頃でね　（B　うん）　学校の

コーチョーシェンシェド　オンナズ　ゲッキュ　トッタンダモノ
校長先生と　同じ　月給[を]　とったんだもの

アリェ　エーレェンショノ。
ほら　営林署の。

121B：ウン　エガニモ　エガニモ　ホンダ　ホンダ　ウン
うん。　確かに　確かに、　そうだ　そうだ、　うん、

Ｘ８サナ。　ウン　ウン
Ｘ８さんな。うん　うん。

122Ａ：スコ゜ド　スッテ　アノ、モドスグ〔69〕ノ
仕事[を]　して　あの　本宿の

タントーグ〔70〕ニナ、（Ｂ　ウン　ウン）
担当区にね　（Ｂ　うん　うん）

アレァ　Ｘ９サン（Ｂ　ソー　ソー　ソー　ソー）
あれは　Ｘ９さん（Ｂ　そう　そう　そう　そう）

ッツー　シットド、（Ｂ　ウン）ヤマサ　アルッテナ、
という　人と　（Ｂ　うん）山へ　[仕事で]歩いてね

（Ｂ　ウン）アヌドギ　サンージュハズエンズズノ
（Ｂ　うん）あの時　38円ずつの

ゲッキュ　トッタンダオン。（Ｂ　ハー）
月給[を]　とったんだもの。（Ｂ　そうか）

ンダガラ　スンブンモ　トッテラッタスナ。ソノ　ザッシ
それだから　新聞も　とっていたしね。　その　雑誌

123Ｂ：ウーン　ホダ　ホダ　ソノコロノ　シンブン　トッテ＊＊＊
うん。　そうだ　そうだ。その頃の　新聞[を]　とって＊＊＊

124Ａ：ザッ、ウン。ザッシ　マエツギ　トッタンダモノ、
××、うん。雑誌[を]　毎月　とったんだもの。

(B　ハー)　　ホンダガラ、　カンナランズ
(B　そうか)　それだから　必ず

ク　　ドギモ　ソゴサ　オイデデガラ、
[ご飯を]食べる　時も　そこへ　[雑誌を]置いていたから、

06↑07

ナグナッタ　　チャワンオ　ギッツル　ニキ゜ッテ
[ご飯が]なくなった　茶わんを　ぎっちり　握って

コーステ　ミデノー。　　(B　{笑}　ハー)
こうして　[雑誌を]見ているの。(B　{笑}　そうか)

ゴハン　　ナグナッタガラ、　エレデゲェ
「ご飯[が]　なくなったから　入れてやる[＝よそってやる]」

ッテ　イッタッタッテ　　チャワン　　ハナスンデネ、
って　[夫に]言ったって　茶わん[を]　離すのでない、

エッコ　　ヘンズ　　スネデ　　ダマッテ。
いっこう[に]　返事[を]　しないで　黙って。

(B　ハー)
(B　そうか)

マンッツ　ソレガラ　　チャワン　　トッケァステ
まあ　　それ[＝夫]から　茶わん[を]　取り返して

ワゲルワゲニモ　　エガネース　(B　ウン)
[ご飯を]よそうわけにも　いかないし　(B　うん)

ホドヌ、 ッテノワ　ホンダ。
本当に　////　そうだ。

125B：ウン。 ツマネー　　ド　オモタベナ
うん。 [それでは]おもしろくない　と　思っただろうな、

ホニナ。　サツケーナモノナンダー。
本当にな。 /////ものなんだ。

126A：ホーンットヌ。（B　ウン）　マイーヌンズ　オギレンバ
本当に。　（B　うん）　毎日　　[朝]起きれば

ネルマンデ　　バンガ　　キギワダサ〔71〕ン
[夜]寝るまで　夕方[の]　/////に

ナッツド　　エサ　ヘァリタグナクテナ。（B　ウン）
なるというと　家に　入りたくなくてね　　（B　うん）

エマ　ヌケ゜デケマショガ　　エマ　ヌケ゜デケマショ、
「今　逃げてやりましょうか、 今　逃げてやりましょう」

（B　ハハハハ）　　ナンカエ　マエバンッカダ
（B　そうかそうか）　何度[も]。 毎夕

ソー　オモッタンダ。（B　フーン　フン　フーン）
そう　思ったんだ　　（B　ふん　ふん　ふん）

ソースッツトダ　　シュードガガー、
そうするというとだ、 姑は、

ナーニ　ヤッテレャ　コレー　A。　オナコ゜ズーモノァ
「なに　やってる、　こら。　A。　女というものは

ソゴレンニ　　ウルウルッテ〔72〕ネァデ
そこらへんに　ウロウロしてないで

サッサド　ヘァッテ、　　（B　ウン）
さっさと　[家へ]入って　（B　うん）

ママ　　ワゲダリ　　クッタリ　カヒェダリスッテ、
ご飯[を]　よそったり　食べたり　食べさせたりして

（B　ウン）　カダズゲネワネンダカ゜　　ッテ
（B　うん）　片付けなく[て]はならないんだぞ」　って

サガム〔73〕オンナ　（B　ウン　ウン　ウン）
叫ぶもんね。　　（B　うん　うん　うん）

コエノ　エー　ヒトダッタオンヤー。
声の　　いい　人だったからね。

（B　ハー　　{笑}）　{笑}
（B　そうか　{笑}）　{笑}

127B：アダリサ　キケルモナ。　　{笑}
あたりに　聞こえるもんな。　{笑}

128A：ウン。　ソステ　ジョーメァ〔74〕サ　　デハッテナー、
うん。　そして　錠前[＝正面玄関]へ　出てね、

（B　ウン）　ニケ゜デエギマショーガ　ヘァリマショガ
（B　うん）　逃げていきましょうか　［家に］入りましょうか

ッドモッテ、（B　{笑}）　{笑}　ナンッカエモ
と思って　　（B　{笑}）　{笑}　何度も

コーヤッテ〔75〕　アソゴラナー、　　（B　ウー　ウー　ウ）
こうやって　　あのあたり［を］ね（B　うん　うん　うん）

ウロウロッテル。　　ソエサ　サガンバレッカラ。
ウロウロしている［わけだ］　それへ　叫ばれるから。

（B　ハー）　ハー　　ホンデェ　スッカダネ
（B　はあ）「そうか、　それでは　しかたがない、

ヘッテクレル、　　マンツ、　マンマ　　ワゲデ
［家に］入ってやる、　まあ　　ご飯［を］　よそって

（B　{笑}）　カシェネワネンダナー
（B　{笑}）　食べさせなくてはならないんだな」

ド　オモッテ　ヘァッテナ。　　（B　ハー？）
と　思って　　［家に］入ってな。（B　そうか）

マエーヌズ　ソノ　クルガエス。
毎日　　その　繰り返し。

129B：ハーハーハ。　フーン。
そうか。　　ふうん。

ッテ　　コンドモ　　モッタ　ンドギワ。
それで、 子ども[を]　持った　時は？

130A：ホンデモ　コンドンモバンナー、（B　ウン）
それでも　子どもをな、　　（B　うん）

コドモンバ　　ツクノ　トシノ
子どもを[生んだのは]　次の　　年の

ジューカズンダッタナ。（B　ハー）
10月だったな。　　（B　そうか）

X10　　ジューカズノ　ジューゴヌズウマレ。
X10[は]　10月の　　15日生まれ。

131B：ハー　ホホホホホホ　アレデ　オーギヤズ。
はあ、 そうかそうか。 あれで　長子？

132A：ウン　　（B　ホー）　ジューンカズノ　ジューコヌズヌ、
そうだ。（B　ほう）　10月の　　15日に

ンデモ　　コンドモァ　デギダッタ。（B　ウン　ウン　ウン）
それでも　子どもは　　できた。　　（B　うん　うん　うん）

マルッキリ　ムコンケギダッタンドモサ。　{笑}
まったくの　無言劇だったけれどもね。　　{笑}

（B　{笑}　ハー）　　{笑}　ホンットヌナー、（B　ウン）
（B　{笑}　そうか）　{笑}　本当にな、　　（B　うん）

オウェダズァ　シンズラレネァンダドンモヨ。
あなたたちは　信じられないんだ[ろう]けれどもな。

133B：スンズラレネナー。
信じられないな。

134A：スンズラレネァンナドモナ　ムゴド　ヨメコ゜ノ　カンケー
信じられないのだけれどもな、　婿と　嫁の　関係[を]

スタ　ドギワ、　スズカ゜ズンダッタヨー。
した　時は、　7月だったよ。

ヌカ゜ズノ　ジューログヌズヌ　シッタドモ
2月の　16日に　[嫁入り]したけれども

シトワナ　スズカ゜ズノ、（B　{笑}）
[関係]した[の]はね　7月の　（B　{笑}）

スエダナ　ニジューゴログヌズッコロダナ
末だね。　25、6日頃だな。

ホンットンダガラナ　コレァ　ハー。
本当だからね　これは　もう。

135B：ウーン　ハー　ホーダナ
うん　そうか　そうだな

136A：スス、　ホンットニ　ムコ゜ンケ゜ギサー。　（B　ハー）
××、　本当に　[なにもかも]無言劇ね。（B　そうか）

{笑}　ダレガラモ　オシェラレルワゲニモ　エガネス
{笑}　だれからも　教えてもらうわけにも　いかないし

（B　ウーン）　キッカシェルワゲニモ　　エガネスナー。
（B　うん）　［だれかに］聞かせるわけにも　いかないしね。

（B　{笑}　ウン）　ホンダッテー、　アサマ
（B　{笑}　うん）　そうだって　　朝［になると］

マンツ　スコ゜ド　キイデガラナー、（B　フン）
まあ　仕事［を］　聞いてからね、　（B　うん）

アサスコ゜ドヌ　タンダノ　ハダゲサ　デハンベー？（B　フン）
朝仕事に　　田だの　畑へ　　出るだろう？（B　うん）

ソースッツドァー　　ソレー、　シュドガガサマー、
そうするというともう　それへ　姑［が］、

アレランドァ　マンマンダンジェー　ッテ　サガブガ
「おまえたち　ご飯だよ」　　って　叫ぶから

ドゴマデモ　キケンダヨナァ。　（B　ハー）
どこまでも　聞こえるんだよね。（B　そうか）

ソスッテ　フッタリステ　スコ゜ド　ステラ　ドゴサ
そのように　二人して　　仕事［を］　している　ところに

マンマダンジェ　シェシェー〔76〕　テ　サガンベバ　ホレ
「ご飯だぞ　　／／／／／」　って　叫べば　　ほら

（B　ウン　ウン　ウン）　フッタリサ　キッケルワンゲダ。
（B　うん　うん　うん）　二人に　　聞こえるわけだ。

（B　ウン）　ソノ　　ダンナダラ
（B　うん）　[ところが]その　[無口な]旦那なら

マンマンダンズッカラ　アンベ　　ッテ　イワネタッテ
「ご飯だそうだから　行こう」　って　言わなくたって

マンマンダンジェ　ッテ　アッツデ　ヨンバレダラバ
「ご飯だぞ」　　って　あっちで　呼ばれたらば

エグノァ　トージエンダンベ　ダラ。　　（B　フーン）
行くのは　当然だろう、　　それなら。（B　ふうん）

ホンダガラ、（B　アラー）
それだから　（B　あら）

マンマダッテ　ヨンデラー　アンベー　ズー　　ゴド、
「ご飯だって　呼んでる。　行こう」　という　こと[を]

ユッタゴドァ　　ネァンダガラー。（B　アラ）
[互いに]言ったことは　ないんだから。　（B　あら）

ナンーボスッテモ　ユーゴド　　イ、　ヤンタクッテー。
どうしても　　言うこと[が]　×、　嫌で

（B　ハー）　ソーンダガラ
（B　そうか）　そうだから

カネーンデル　ワゲニ　ガネスナー。（B　フン）
食べないでいる　わけに[も]　いかないしね。（B　うん）

アレエ　エッテ　ママ　クーフンダガラ
「あれ、[この人は家に]行って　ご飯[を]　食べるようだから

オレモ　アドガラ　タッテッテ　クンベナ　ド　オモッテ
私も　あとから　ついていって　食べような」と　思って

ソーステ　アドガラ　タッテッテ　クッテサ。（B　ハー）
そうして　あとから　ついていって　食べてね。（B　そうか）

ソスッテ　マエヌズ　カヘェダンダ。
そうして　毎日　働いたんだ。

137B：マズ　ソノ　シェズシェズノ〔77〕（A　ウン）
まあ　その　季節ごとの　（A　うん）

アサスコ゜ドァ　ホレ、（A　シテ）
朝仕事は　ほら　（A　そして）

カガサンズ　スネバネガッタンベス。
欠かさず　しなければならなかっただろうし。

138A：ホンダガラ。（B　ウーン）
そのとおりなんだ。（B　うん）

デ　ハヤグ　アスンビ　シァ　クンレバ　エーカ゜
それで　早く　遊ぶ　日が　くれば　いいが

ド　オモッタナ。（B　ウーン）
と　思ったな。　（B　うん）

ンダドモ　　ムガスァ　エマノヨンッテネナー、
だけれども　昔は　　今のようでないな、

ログカ゜ズ　ツィダズ　ジューコ゜ニズ、　ニ゛ンジューハズヌズド
6月　　1日　　15日、　　28日と

ミッカ　アッタンダ。
3日　　[休みが]あったのだ。

（B　ニジュ、　ニジュシー　ニジュシー　ニジュハズー）
（B　×××　24、　　24、　　28）

07↑08

ニ゛ンジューヨッカワ　アダコ゜サマ〔78〕゛ンデナ、
24日は　　愛宕様[の縁日]でね

（B　ウン　ウン）　オラドグヌ　　アダ、
（B　うん　うん）　私のところに　××

（B　ヌジューハツヌズワ）　オラドグヌ
（B　28日は）　　私のところに

（B　アダコ゜サマダ）　アダコ゜サマ　ネァガラナ、
（B　愛宕様だ）　　愛宕様[が]　ないからな

（B　ハーハー）　ヨーエデ　ヤスマシェネガッタモ。
（B　そうか）　　容易に　　休ませてくれなかったもの。

（B　ハー）　ワンノ〔79〕ヌ　アッタッタンドモナ。
（B　そうか）　和野に　　［愛宕様が］あったけれどもな。

（B　ハハハ）　オフドーサマ　　アッカラ
（B　そうか）　［代わりに］お不動様［が］　あるから

ニンジューハズヌズニャ　ヤスマシェラエタ。
［縁日の］28日には　　休ませられた。

139B：ウン、　ウン、　ウン。
うん、　うん、　うん。

カナラズ　ログカ゜ズワ　ハー　ソー　ヤスンダモンダモナ。
必ず　　6月は　　もう　そう　休んだもんだものな

140A：ウン。　ジューゴヌズワ　アノ、　オラエノ　ホンケンデ
そうだ。15日は　　あの　私の家の　本家で

イナリサマナー、（B　ウン）　ジューヨッカノ　バンケ゜
稲荷様ね。　（B　うん）　14日の　　夜

ヨミヤ〔80〕ンダッテー　ソリェー、（B　ウン）
宵宮だって［いうので］　それへ　（B　うん）

オミギアンケ゜シテサ、（B　ウン　ウン　ウン）
お神酒祀りしてね　（B　うん　うん　うん）

ジューコ゜ニズヌ　ヤスムンダッタガラナ、（B　ウン）
15日に　　休むんだったからね、　（B　うん）

ジューコ゜ヌズヌワ　ヤスンダッタ。
15日には　休んだ。

141B：ウーン。　エヤ、　ナンボ　イー　ウンマレンデモ
うん。　いや、　いくら　[その]家[の]　生まれでも

ソノー、　トギンドギンダードガ　ナンドガ
その、　時々だとか　なんとか[を]

マッタモンダカ゜ヨ、（A　ウン）　ソノー
待ったものだがね、（A　そう）　その

ヨメコ゜ダノナンツノァ　ナンボガ　マッタカ゜
[まして]嫁だのなんていうのは　どんなに　[その日を]待ったか

ワガンネナ。（A　ホンダ　ホンダ）　ウン　ヤッパリ
わからないな（A　そうだ　そうだ）　うん、　やっぱり

アソブ　シ　デーバ　エサ　エグヌイット、　マンズ
遊ぶ　日　っていえば　家[＝実家]へ　行けると、　まあ

エズバン　サギヨナァ。（A　ウン　ウン）
[そう思うのは]いちばん　先[だ]よな。（A　そう　そう）

ソレガラ　ソノシァ　マンズ　アサマ、　エサ
それから　その日は　まあ　朝[に]、　家[＝実家]へ

ヘァッタラバ　マンズ、　ナヌァ（A　エヤ）　サデオエデモ、
入ったら　まあ　なには（A　いや）　さておいても

（A　ウン）　グッスリ　ネンプテ　ト、（A　ウン）
（A　うん）　ぐっすり　寝たい　と。（A　そう）

エッテ　スワッテー　ト。
[家へ]行って　座りたい　と[思う]。

142A：ウン。　ムガスノ　ヨメズヤズァ　ホーンットニ　イェサ
うん。　昔の　嫁というのは　本当に　家[＝嫁ぎ先]に

モラエデキタ　オンナコ゜ンダガラナ、（B　ウーン）
もらわれてきた　女だからな　（B　うん）

ナヌモカヌモ　カシェカ゜ネワナガッタンダオン。
なにもかも　働かなければならなかったんだもの。

（B　ウーン）　ソステ　ホンダガラ、　ツギニ　エズニズガ
（B　うん）　そして　それだから、　月に　１日か

フ　フズガノ　ヤスミノシンダガラ、（B　ウン）
×　２日の　休日なんだから　（B　うん）

ハヤグ　メス　カシェデ　ヤスマシェデモ　エガベ
早く　ご飯[を]　食べさせて　休ませてくれても　いいだろう

ド　オモッテ　コッツァ　マッテンベ。
と　思って　こっち[＝私]は　待ってるだろう？

（B　ウン）　ソースッツドァ、　ソノシニ　カキ゜ッテ
（B　うん）　そうするというともう　その日に　限って

岩手08-5

アサナカ゜ス〔81〕ンダ　ドガッテサー、
「朝流しだ」　　とかってね、

（B　ソー　ソー　ホンダ　ホンダ　ホンダ）　{笑}
（B　そう　そう　そうだ　そうだ　そうだ）　{笑}

（B　{笑}　ウン　ウン）　アノー、
（B　{笑}　うん　うん）　あの、

オマッコツナキ゜〔82〕ニ　コシェダー、（B　{笑}　ウン）
馬繋ぎ[の行事の時]に　作った、　（B　{笑}　うん）

コナノー　（B　ウン）　アラモド〔83〕ナー
粉の　（B　うん）　砕け米ね、

（B　ウン）　アラモド　コネッテ　ソレオ、
（B　うん）　砕け米[を]　こねて　それを

オギリ〔84〕ノ　ウエデ　ヤエデサ、（B　ウン）
火種の　上で　焼いてね　（B　うん）

コリェー　アノー　ハラ　ヘッカラ　アサノカ゜ス、
「これ、　あの　腹[が]　減るから　朝流し[を]

クッテガラ　カシェケ゜ンジェ　ッテ、
食べてから　働けよ」　って[言われて]。

（B　ウン）　ソレ　マンッツ　ナナズコロ
（B　うん）　それ[を]　まあ　7時頃[に]

モッテッテ　　カシェゲ゜ラエンベ。
持っていって　働かされるだろう？

143B：ウン。ア、ジューンズマデ　　カシェカ゜ネワケ゜ダ。
うん。あ、[すると]10時まで　働かなければいけないわけだ。

144A：ソーシェンバー、ジューズッコロマデ　カシェカ゜シェンダ。
そうすると　　10時頃まで　　[私を]働かせるんだ。

（B　ンダ、　ウン）アサメス　クー　　ンドギァ
（B　そうだ、うん）朝食[を]　食べる　時は

ホンットヌ　ジューンズ。（B　ウン）ソーッステ
本当に　　10時[だ]。（B　うん）そうして

アドカダズゲデサー、エダ　　フエダリナ、
後片付けでね、　　床板[を]　拭いたりな、

ナンキャステ　エサ　　エグ　ドギャ　ハー
なんかして　　家[＝実家]へ　行く　時は　　もう

ジューニズン　ナッタンダモ。
12時に　　なったんだもの。

145B：フーン、ソナンダ〔85〕。（A　ウン）ヤスム　ドゴァ
ふうん　そうなんだろう。（A　うん）休む　　時間は

ナンボモ　ネァモナ　　ハ。（A　ンダ）　アド　　ハー
いくらも　ないものな　もう。（A　そうだ）あと[は]　もう

（A　ウン）　ユマカダニワ　コネワネー、
（A　うん）　夕方には　　[帰って]こなくてはならない

ミズ　　クマネバネァー、　　（A　ウン）　ウマ
水[を]　汲まなければならない　（A　うん）　馬[を]

アズガル　スッタグ　スネバネー　　ド　ナッカラナ
預かる　　支度[を]　しなければならない　と　なるからな。

（A　ウン）　ウン。
（A　うん）　うん。

146A：ソスッテ、　ユーカ゜ダ　ハー、　ソレ、　ハ
そして　　夕方、　　もう　それ　もう

テエンケ゜ー　ハー　アノー、　ズッカデ　ユーハン
たいてい　　もう　あの、　実家で　　夕食[を]

クッテキタモンダー。（B　ハハハハ）　アソゴーワ　ナーニ
食べてきたものだ。　（B　そうか）　あそこは　　なに

ズップンク゜レエー、　ナ　（B　ウン　ホンダベナ　ウン）
10分くらい、　　な、（B　うん　そうだろう　うん）

スンズガヌ　アルッテモ　ズップンク゜レァンダッタガラ。
ゆっくり　歩いても　　10分くらいだったから

147B：ウン、　フーン。　アサマ　オギレバ　マンズ　ミンズ
うん、　ふうん。　朝[に]　起きると　まず　　水[を]

クンデー、（A　ウン　ウン）ソステ　　アサスコ゜ドヌ
汲んで　　（A　うん　うん）それから　朝仕事へ

（A　ウン）デハッテ。
（A　うん）出かけて。

148A：ウン。オラエンデ　　イン、ツルベインド〔86〕ダッタガラ。
うん。私の家で[は]　××、つるべ井戸だったから。

（B　ハハ　　ア　メァニ　アッタ　ヤズ）ウン（B　ウン）
（B　そうか　あ　前に　　あった　やつ）そう（B　うん）

ツルベエンドダッタガラ　ミンザー　ハー　アノ
つるべ井戸だったから　水は　　もう　あの

ナグナッタ　　ドギ　　クンダモンダ。　（B　フン）
[桶に]なくなった　時[に]　汲んだものだった（B　うん）

アサ　アサマスコ゜ドニ　クマナクッテモ
××　朝仕事[の時]に　汲まなくても。

149B：ハー。　エガニモ（A　ウン）エンド〔87〕ノ
そうか。確かに　（A　うん）井戸の

アル　ウズァ（A　ウン）ア
ある　家は　（A　うん）×

エガッタンダナ。　　（A　ウン）
[汲まなくても]よかったんだな。（A　うん）

オラアダリワ　マンズ　アサマ　オギデ　ミンズ　クンデ、
私のあたりでは　まず　朝　起きて　水[を]　汲んで、

(A　ウンダ)　ソステ　カズキ゜ボー〔88〕
(A　そうだ)　そうして　天秤棒[を]

ソサ　ナケ゜ルドー、　(A　ウン)
そこへ　[放り]投げると　(A　うん)

クワ　カズンデ、(A　ウン)
[今度は]鍬[を]　担いで　(A　うん)

キッカゲ〔89〕スル　ドギァ　キッカゲ、(A　ウン　ウン)
土寄せ[を]　する　時は　土寄せ。　(A　うん　うん)

マンズ　クワスコ゜ドンバリダッタンダモナ。ウン。
まあ、　鍬仕事ばかりだったんだものな。　うん。

150A：ウン。マンツ　スコ゜ドバサ　エッタッタッテ
うん。まあ　仕事場に　行っていたって

ナンニモ　ヒットコンドモ　ッシャベンネンデ、マルンデ
なんにも　一言も　話さないで　本当に

カシェク゜　フトダッタオナ。(B　ハー)　ソノ
働く　人だったものね　(B　そうか)　その[状態の]

ユルグネエ〔90〕グド　アギダ　ッテ
苦しいこと。　「飽きた」って[言っても]

ツエデガネワネァシ　　マンツ。（B　ウーン）　{笑}
ついていかなければならないし　まあ。　（B　うん）　{笑}

08↑09

151B：ホニ　　ガマンスタモンダナ。
本当に　我慢したのだな。

152A：ホーントヌ　ガマンスタデバ　ナージョヌ
本当に　　我慢したってば。どんなに

153B：{笑}　ダ、　　イ　イマンダランバ　ハ
{笑}　[それ]なら、　×　今ならば　　もう

ツデエゲネンダナ。　　イマンダラ
ついていけないんだろうな。今なら

154A：アリャ、　ホンデモー、アノ　コンドモァ　デンデガラ　ハー
ほらあれ　それでも　　あの　子どもが　できてから　もう

アギラメダッター　コンドモァ　デンネァ　ウズ　　ハー、
諦めたが　　子どもが　できない　うち[は]　もう

（B　ハーハーハーハ）　マエーヌズ　ソー　オモッタナ
（B　そうかそうか）　毎日　　そう　思ったな

（B　フン　フン　フン　フン）
（B　うん　うん　うん　うん）

エマ　エグガ　　エマ　クンベガ　ド　オモッテ　{笑}
「今　行こうか、今　帰ろうか」と　思って　{笑}

155B：ウン　ウン　ウン。　タスカニ　ソーダッタンダ。
うん　うん　うん。　確かに　　そうだったんだろう。

156A：マエニズ　クリゲァスッタナ　　ハー。　ユーカ゜ダサ
毎日　　[これを]繰り返したね　もう。　夕方に

ナッツド　　エサァ　ハ
なるというと　家に　　もう

157B：ヤッパ　ヤッパリヨー　ヨメコ゜ニ　エグヌァヨー、（A　ウン）
×××　やっぱりね　　嫁に　　行くにはね、　（A　うん）

ズブンノ　ダンナドンノニ　ナル　ノガ　エンズバン
自分の　　旦那様に　　なる　人が　いちばん[の]

ツカラナンダモナ。
力[＝味方]なんだもんな。

158A：ツッカランダモ　（B　ツ）　フェダグレモ　ナガッタナ
力にでも　　（B　×）　へったくれも　なかったね。

エンダドモ　オモナガッタナ、（B　{笑}　ツ、　ツ　ツ）
縁だとも　　思わなかったな。（B　{笑}　×、　×　×）

ワリゲドナ　{笑}
悪いけどな　{笑}

159B：ツ　ツカラーニ　　ナンデエネエガネー　イジバン
×　[夫は妻の]力に　なるんでないかね、　いちばん。

タンダ　ソーユー　　モノヌ
ただ　[あなたの場合は]そういう　人に

ソーサレルドユード、　ンマグネー　ヤッパリナ
そのようにされるというと　よくない、　やっぱりな

160A：エヤ　アレァ　　ナンニノ　キモ　ネンダ
いや　あれ[＝夫]は　なんの　　気も　ないんだ

ソースル　キモ　ワルッキモ　ナクテ　アレァ　タンダ
そうする　気も　悪気も　　なくて　あれは　ただ

161B：ンダ　　ンダ。　タダ　エッポー
そうだ　そうだ。ただ　一筋に

マズメバリダッタンダナ。
真面目[な]だけだったんだな。

162A：マンズメバリ　　マンズメデ　シャンベッタグナガッタンダ。
真面目[な]だけ、真面目で　話はしたくなかったんだね。

(B　ウーン)　ホンーットヌ　シチヨーンカ゜イノ、　コドバァ
(B　うん)　本当に　　必要以外の　　ことばは

カゲダ　ゴド　　ネァモ。　(B　ハー)
かけた　こと[が]　ないもの。(B　そうか)

スコ゜ド　　キーダ　ドギンダゲ　コノ　スコ゜ドワ
仕事[のことを]　聞いた　時だけ　　この　仕事は

岩手 09-4

コー　　スルンダ　ッテ　キゲンバ　オシェンカ゜
このように　するんだ　って　聞けば　教えるが

キガネンバ、　（B　ハー）　タンダ　カ、　ホンダガラ
聞かなければ　（B　そうか）　ただ　×、　それだから

アノー、　アリャー、　ムガスナ　タガギ〔91〕ナ
あの　　あれは　　昔ね　　田起こしな、

ウマボイ　　サシェラレダモンダンジェ。
馬追い［を］　させられたもんだぞ

ヨメコ゜ズモノァナー。（B　ウン　ウン　ンダンダ）
嫁というものはね。　（B　うん　うん　そうだそうだ）

ソステ、　（B　サシェドリ〔92〕ナ）　ウン　サシェドリ。
そうして　（B　させどりな）　　そう　させどり［だ］。

（B　ウン）　ソステ　ター　　アルグベ。　（B　ウン）
（B　うん）　そして　田［を］　歩くだろう。（B　うん）

ナンッカエ　オナズ　ドゴ　　ボッタッテ　ソゴァ
何回［も］　同じ　ところ［を］　追ったって　そこは

サギヌ　アルッタ　ドゴンダガラ　コッツ　　ボエ
先に　歩いた　ところだから　こっち［のほうを］　追え

ズー　ゴド　　ヒットゴドモ　イッタ　ゴドァ　ネ。
という　こと［を］　一言も　　言った　ことは　ない。

163B：ンッデァ　ケンカ　　スタ　ゴドァ　ネァナ。
それでは　けんか[を]　した　ことは　ないな。

164A：エーッコ　　ケンカ　　スタ　ゴダ　　ネァ
いっこう[に]　けんか[を]　した　ことは　ない。

ナーニ　コッツァ、　　（B　ハー）
なあに、こっち[＝私]は　（B　そうか）

ケンカヌ　ナネンダモ　　ゼンゼン。
けんかに　ならないんだもの、全然。

165B：アノ　ナンボ　ナガイ　ノ　イー　フゥフンデモヨー、
あの　いくら　仲×　の　いい　夫婦でもね、

（A　ウン）　タガギカ゜　　クルドァ
（A　うん）　田起こし[の時期]が　来るともう

ケンカ　　スタモンダンジェ。
けんか[を]　したもんだぞ。

166A：エヤ、ホンダガラ、（B　ウー）　スッタスイホンド
いや　それだから　（B　うん）　親しいほど

ナガノ　エーホンド　ケンカ　　デル　ッテ
仲の　いいほど　けんか[が]　出る　って[言われるのは]

ソゴンダデバ　ケンカ　　デギネク゜レァデ
そこだってば。けんか[が]　できないくらいで[は]

エーホンデ　　ネンダ　ホンデ。
[仲が]いいほうで[は]　ないんだ　それで。

(B　{笑})　ケンカヌ　　ナンネンダモ。
(B　{笑})　[私たちは]けんかに　ならないんだもの。

167B：デモナ　アノ　(A　ウン)　サシェドリー
でもな　あの　(A　うん)　[嫁に]させどり[を]

サシェッツドヨー、(A　ウン)　オナス　ドゴ
させるというとな　(A　うん)　同じ　ところ[を]

アルグンダヨー。(A　ウン)
歩くんだよな　(A　うん)

ゴシェッパラヤゲル〔93〕モナー。(A　ウン)　ナンッタラ
腹が立つもんな　(A　うん)「なにしてる、

ソゴ　アン、サッキ　アルッタケデラ、
そこ[は]　××、さっき　歩いたじゃないか」[と言うと]

(A　ウン)　ハア　ッテ　シェッテモ　マーダ　ソゴエ。
(A　うん)「はい」って　言っても　また　そこへ。

ナ　{笑}　ンダガラ、ソッツノ　フーフモ　ケンカ
×　{笑}　だから　そっちの　夫婦も　けんか

コッツノ　フーフモ　ケンカ　スタモンダ
こっちの　夫婦も　けんか[を]　したもんだ。

ソノ　タガギー、ドナッツドヨー、（A　ウン）
その　田起こしとなるというとね　（A　うん）

アー　アッツデモ　ケンカ　ステラ
「ああ　あっちでも　けんか　してる、

マダ　マゲンデ　ヤンベー　{笑}
また　[私たちも]負けないで　[けんかを]やろう」　{笑}
09↑

―― 中　略 ――

168B：ヤ、（A　ウン）ユーギン〔94〕ダッテ　ワガネ　コレ
いや（A　うん）力んだって　だめだ　これ。
↑10
ハー　ヤッパリ。（A　ウン　ウン）
もう　やっぱり。（A　うん　うん）

ソエデー　ソノトスァ　ソレデ　スム
それで　その年は　それで　すむ[が]。

ツキ゜ノトスガラ　ジョーンズニ　ナル　ヤッパリ。
次の年から　上手に　なる、やっぱり。

169A：ウン。アーレワナ　アノ　タガギズノア
うん。あれはね　あの　田起こしというのは

170B：ナーニ　シタ　ッテ
[夫婦げんかで]なに[を]　した　って、

ミズ　カゲダリ　スタモンダ　ゴシェッパラヤゲデー。
水[を]　かけたり　したもんだ、　腹が立って。

171A：タガギズノワナー、　（B　{笑}　ウーン）
田起こしというのはね　（B　{笑}　うん）

サシェドリノ　コゴロワ、
させどりの　心[＝肝心なところ]は、

アドノ　スッカァ　オシェデミネンバ　ワガネノ。
あとの　しかたは　教えてみなければ　理解できないの。

（B　ウン　ホンダ　ホンダ）
（B　うん　そうだ　そうだ）

マコ゜ァ　オシェデミネンバ。（B　ウン　タスカヌ）
孫[に]　教えてみなければ。（B　うん　確かに）

マコ゜ァ　オシェンダ　ドギ　ハスメデ
孫に　教えた　時[に]　初めて

サシェドリァ　コーユーノダ　ズ　ゴドァ　ワガルガラー。
「させどりは　こういうものだ」　という　ことは　わかるから。

172B：ホンダガラ　アノー、　＊＊＊　アリャ　ムガスノ　アノ、
それだから　あの　＊＊＊　あれは　昔の　あの

ジェンコ　アッタンダジェ。（A　ウン　ウン）
膳[が]　あったんだがな　（A　うん　うん）

ヨゴアスゼン〔95〕 チッタナ　　アレァナ。
横足膳　　といったな　あれはな。

（A　ウン　ウン　ウン　ウン）
（A　うん　うん　うん　うん）

アレーサー　アノ　ヨグ　オフグロンダノ　ンダレァ、　ハシンデヨ
あれな　　あの　よく　母親だの　　あたりが、　箸でね

（A　ウン）　コー　　ヘッテ〔96〕
（A　うん）　[田に]このように　入って[と]

ヨメコ゜ニ　エグ　ヤツサヨ、（A　ウン）
嫁に　　行く　者にね　　（A　うん）

コー　　タガギヌ　　コー　　ヘッテ
「このように　田起こしに[は]　このように　入って

コー　　コー、　　アルグンダジェ　ッテ、（A　ウン）
このように　このように　歩くんだぞ」　　って　（A　うん）

ソノ　オシエッケモヤ。　（A　ウン）　タスカニ　ソノドギァ
その　教えるのだからな。（A　うん）　確かに　　その時は

ハー　　ド　オモッテワ　エグンドモー、
「そうか」と　思っては　　[仕事に]行くんだが

（A　ウン）　ソノドギサー　　ナルド、
（A　うん）　その[＝実際の仕事の]時に　なると

ミ゛ズワ　ナンミナンミッテルス
水が　　[田に]なみなみとしているし

（A　ダーレ　　コノ）　＊＊　ヤズ　ホンデネガラ　　ハー。
（A　だれ[が]　この）　＊＊　やつ　そうでないから　もう。

173A：コノ　ジェンコノ　ウエドナ、（B　ウン）
この　お膳の　　上とな、　（B　うん）

タノ　ミズン　ナガサ　エグド
田の　水の　　中へ　　[入って]いくと[では]

ワゲァ　ワガンナグナル。
わけが　わからなくなる

174B：ウン　ウン　　ソノ　リグツオ　オ゛ンベダツモルデモー、
うん　うん。その　理屈を　　覚えたつもりでも

ジッサイワ　コマッケオヤ　（A　ウン）
実際は　　困るもんな。　（A　うん）

ホンダガラ　ケンカド　ナルオヤ。
それだから　けんかと　なるもんな。

ムゴ゛ンド　　{笑}　ナガサ　　ハイッタ　ズギワ、
婿と[一緒に]　{笑}　[田の]中に　入った　　時は

オナス　コドダッケモナ。（A　ウン）
同じ　　ことだもんな。　（A　うん）

ムゴーンデモ　　ケンカンダオヤー。
[田に入るのが]婿でも　けんかだもんね。

175A：ウン。　オラー　ゼンーゼ　ソンナゴダ　　ハ　　ナガッタ。
うん。　私は　　全然　　そんなことは　もう　なかった。

（B　ハー）　ナーニ　カシェンデモ　カシェカ゜ナクテモ、
（B　そうか）　なあに　働いても　　働かなくても、

ナーンッタラ　カシェキ゜ヨーァ　オシェ　ッテモ
どうしても　「働き方が　　遅い」　とも

シャンベラレダ　ゴドァ　ネァスナ。（B　ウーン　ウン）
言われた　　ことは　ないしな。（B　うん　　うん）

ソレンデ　　ワガネンダ　　ッテモ
「それで[は]　だめなんだ」　とも

シャンベラレダ　ゴド　　ネァ。
言われた　　こと[は]　ない。

176B：ナンボ　　フーフノ　ナガ　　ヨフテデモ
どんなに　夫婦の　　仲[が]　よくていても

フノ、　タガギワ　　ケンカ　　スタモンダ。　ウン。
その、　田起こしは　けんか[を]　したものだ。　うん。

177A：アレァ　　シャベッタッテ　ムンダダ　ナッテ
「あいつは　言ったって　　無駄だ」　なんて[思って]、

コンナヤズサ　シャンベタッテ　ムンダダ　ド　オモッテ
「こんなやつに　言ったって　　無駄だ」　と　思って

アギラメンデ　アレァ　　シャンベナガッタンダベ。
諦めて　　あれ[＝夫]は　[私に]言わなかったんだろう。

178B：エヤ、　ソノ　ヤッパリ　ソーンデァ　ナガッタンダナ。
いや　その　やっぱり　そうでは　なかったんだろうな。

179A：ゼンーゼン　シャベナガッタ　（B　ンー）
全然　　言わなかった。（B　うん）

ケンカズモノ　　スタ　ゴドァ　ネ
けんかというもの[を]　した　ことは　ない。

オゴラレダ　ゴドァ　ネンダ　　ゼンゼ　（B　ハー）
怒られた　ことは　ないんだ、全然。（B　そうか）

オゴラレルヨーナ　ゴド　　スナガッタンダオン。{笑}
怒られるような　こと[を]　しなかったんだもの。{笑}

（B　ウーン　ウンダ。ウーン）　タンダ　キンゲバ
（B　うん　そうだ。うん）　ただ　聞けば

ナンー＊＊ノ　ヨーデモ　キンゲバ、（B　ウン　オシェンノナ）
どんな＊＊の　用でも　聞けば　（B　うん　教えるのな）

コダエンカ゜、（B　ウン）　キガネバ　　ズブンッカラ
答えるが、　（B　うん）　聞かなければ　[夫が]自分から

シャンベルズ　ゴド　　ゼンーゼン　ナガッタンダ。
話すなんて　こと[は]　全然　　なかったんだ。

180B：ウン。　トニカグー　（A　ウン）　ソノ、　アサマ
うん。　とにかく　（A　うん）　その　朝

オギルタッテ　　シュードヨリ　サギサ
起きるといって[も]　舅より　　先に

オギネンバネ。　　（A　ウン）
起きなくてはならない。（A　そう）

トドヨリ　サキサ　オギネバネ。
夫より　先に　起きなくてはならない。

181A：ウン。　ソンナゴドモ　ユッタ　ゴド　　ネァス。
うん。　そんなことも　言った　こと[が]　ないし。

182B：ウン　ヨ、　ヨメノ　ツトメズモノァ　ハ
うん　×　嫁の　務めというものは　もう

タスカヌ　アノ　ムガスワ　シンデガッタンダナー。
確かに　あの　昔は　つらかったんだな。

183A：シンデ　ド　エバ　シンデガッタンダーンドモ
つらい　と　言えば　つらかったんだろうけれども

184B：エヤ　ミンナ　ソレンデバリ
いや　みんな　それでばかり[＝それ以外になく]

クラスタガラ、（A　ウン）　ダンドンモ　エマガラ、
暮らしたから。（A　うん）　だけれども　今[の時代]から

コー　ヒカグスルド　ハ、　（A　ソノ）　タシカヌ
こう　比較すると　　もう　（A　その）　確かに

185A：ソーノコロァ　アマリ　キヌ　スナガッタナ　オラ　ハ。
その頃は　　あまり　気に　しなかったな　私は　もう。

（B　ウン　{笑}　ウン）　ナーヌ　ヨグモ　ナヌモ
（B　うん　{笑}　うん）　なに、　欲も　　なにも

ネンダモノ　　ムゲ　　ズ　　ドゴサ　　ムエデ　タンダ
ないんだもの、「向け」と言う　ところに　向いて　ただ

カシェデ　エヌエデレ、　エヌェデレバ〔97〕　エンダモ。
働いて　　動いていれ、　動いていれば　　いいんだもの。

（B　ウン）　カシェク゜ノデナガッタンダオン。
（B　うん）　働くので[は]なかったんだもの。

ソノシ　ソノシ　　マブッテ〔98〕　エヌゲバ　シェデ
その日　その日[を]　守って　　動けば　　それで

186B：ハダランゲデナグ　ウコ゜グノホーガ。
働くで[は]なく　動くのほうか？

（A　ウン　{笑}　ウン）　{笑}　マー、　タイデ
（A　うん　{笑}　うん）　{笑}　まあ　たいてい[は]

ソーンデネガナ　　コンドモ　　モダネ　　ウズワ。
そうで[は]ないかな　子ども[を]　持たない　うちは。

187A：コンドモ　　モッテモ　スンバラグ　　ソーンダッタナー。
子ども[を]　持っても　しばらく[は]　そうだったね。

188B：ウーン。（A　シュード）　ソステ　ソノ　コンドモ
うん。　（A　舅）　　そして　その　子ども[を]

モダネ　　ウズワー　トニカグ　ヨメコ゜ズ　ヤズワ
持たない　うちは　　とにかく　嫁という　者は

エサ　　エキタカ゜ルジョ。（A　ウン）　コレワ。
家[＝実家]へ　行きたがるぞ。　（A　うん）　これは。

（A　ウン　ウン）　ナンタラ　　シェンドナ〔99〕
（A　うん　うん）　なんだって　この間

エッタケァ、　　（A　ウン）　キョァ
行ってきたところ[なのに]、（A　うん）　今日は

エガナックテモ　エー　　ドモッタッテ、（A　ウン）
行かなくても　　いい[だろう]　と思ったって　（A　うん）

イッテクマス　ッテ。　　（A　ウン）
行ってきます　って[言って行く]。（A　うん）

10↑11

ナンヌァ　ヨー　　アンダベナー　　ドモテ
なんの　　用[が]　あるんだろうな　と思って

エッテミッツド　　ネデクルノナ。（A　ウン）　{笑}
行ってみるっていうと　寝てくるのな　（A　うん）　{笑}

ウン、　ツカレデッカラヨ。
うん、　疲れているからな。

189A：ナーヌ　エサ　　エッテ　シルヤスミ　スタラ　ホヌ
なに　　家[＝実家]へ　行って　昼休み[を]　したら　本当に

ヌンツカンモ　サンツカンモ　ネッテスマウンダモ　ハー。
２時間も　　３時間も　　寝てしまうんだもの　もう。

190B：ウーン。　ツカレデ　ホーナンダモナ。
うん。　疲れて　そうなんだものな。

191A：グッスル。　ソーステ　ヨメズーノァ　アノ、　アーレァモノ
ぐっすり。　そうして　嫁というのは　あの、　洗い物[を]

スルッタッテ　　シルマ　サレネガッタンダモノ
するといって[も]　昼[は]　できなかったんだもの。

（B　ウン　ウン　ウン　ウン）　ヨルンバル
（B　うん　うん　うん　うん）　夜[に]ばかり

ヤッタンダモノ。（B　エガニモ　エガニモ　ウン）
やったんだもの。（B　確かに　確かに　うん）

ソースッテ　アノー、　ソリェ、　ムンダナ　キー　タエデ
そうして　あの、　それ、　無駄な　木[を]　焚いて

ユー　ワガスズード　オゴラエッカラ、（B　ウン）
湯[を]　沸かすというと　怒られるから　（B　うん）

フロァ　タッタ　ドギンバリサ、（B　ウー）
お風呂は　焚いた　時だけね、　（B　うん）

フロノ　ミンズ　クンデガラ、（B　エガニモ）
風呂の　[残り]水[を]　汲んでから　（B　確かに）

アラッタンダオ。（B　ウン）ステ　ヨル
洗ったんだもの。（B　うん）そして　夜[に]

カゲデサ。　ア　ヨメコ゜ニ　シマ　ネァ
[洗濯物を]干してね。　×　嫁に[は]　暇[が]　ない。

オラ、　アノ、　ムゲェノ
私は　あの、　向かいの

192B：ソレンデモヨ　アノ　オマズリドガ　ナニナ
それでも　あの　お祭りとか　なに[かの時]は

ナンボガ　ジェニッコー、バ
いくらか　銭を

193A：ウン　サンズッシェンク゜レァナ。
うん。30銭くらいね。

194B：サンズッシェンク゜レァナ？（A　ウン）ウン。
30銭くらいね？　（A　うん）うん。

アノアダリノ　サンズッセンナ。（A　ウン）
あの頃の　　30銭ね　　（A　うん）

イーフンダッタデネァガナ。
いいほうだった[の]ではないかな？

195A：ウーソ゛ンダーナー。（B　ウン　ソガ）
嘘だな。　　（B　うん　そうか？）

アノドギァナ　（B　ウン）　ゲーダ　　エッソグ
あの時はな　　（B　うん）　下駄[が]　1足

ニジューゴシェンカラ　サンズッシェンダッタンダモン。
25銭から　　30銭だったんだもの。

（B　ハーハーハーハー）　アゲァ　オッコノ　ツダ　　ゲダ。
（B　そうかそうか）　　赤い　　緒の　　ついた　下駄。

（B　フン　フン　フン）　ソノドギ
（B　うん　うん　うん）　その時[に]

サンズッシェン　モラッテ　ナンヌ　ナル　ッテ。
30銭[を]　　もらって　なんに　なる　って。

（B　{笑}）　ソースッテナ　ホンデモ　モラッテゲ゛ンバ
（B　{笑}）　そうしてね　　それでも　もらっていけば

サカッデァ〔100〕　ケデヤッタガラ　　ッテ
こづかい銭[を]　　くれてやったから　と[いうので]

カナラ゛ズ　オンミヤケ゜　（B　{笑}）　カッテコネワ
必ず　おみやげ[を]　（B　{笑}）　買って帰らなくては

ナラネガッタンダオ。　（B　{笑}）
いけなかったんだから。（B　{笑}）

サンズッシェン　モラッタッテナ、　（B　ウン）
30銭[を]　もらったとしてもね、（B　うん）

ニズッシェンデー　アンパン　カッテキタンダオン
20銭[で]　アンパン[を]　買ってきたんだもの

ズェースットモ〔101〕。（B　ウン）
必ず。　（B　うん）

ソシェバ　ズッシェンスカ　ワーリァ
そうすると　[差し引き]10銭しか　私は

トグ　トンネンダオン。
得[を]　とらない[＝利益にならない]のだもの。

196B：ウン。　フーン　ウンダッタンダガモシェネナ。（A　ウン）
うん。　ふうん　そうだったかもしれないな。　（A　うん）

フンダ゛ンドモヨー、（A　ウン）　ソノ　ダンナドナァ
そうだけれどもね　（A　うん）　その　旦那様は

カグステデモ　ケダンダベー　ダラ。
隠してでも　[お金を]くれたろう？　それなら。

197A：ソンナゴドァ　ゼンゼ　ナガッタ　ナーサ
そんなことは　全然　なかった。なにしろ

ソンナナ　マンズメナ　フットンダモノ。（B　ハー）
そんなふうな　真面目な　人だもの。（B　そうか）

ドゴサ　エッテ　アーノドギァ　ホヌ、
どこかへ　[働きに]行って　あの頃は　もう、

ゲンキンシューニュ　トルヨーナ　スコ゜ド
現金収入[を]　得るような　仕事[を]

スナガッタモンダ　ゼンゼン。（B　フン　フン　フン）
しなかったものだ、全然。（B　うん　うん　うん）

ソスッテ　アキサ　ナッテガラ　アリャー、
そして　秋に　なってから　あれは

ドガダナノ　ナヌ　スタンダッケンドモナー、（B　フン）
土方だの　なに[か]　したんだけれどもな。（B　うん）

ナンニ　エズニズ　ナンシェンデ、ナンニズ　カシェンデ
なあに、1日　何銭で　何日　働いて

（B　ナンニズ　カシェンデ）ナンシェン　テ、
（B　何日　働いて）何銭　といって

198B：ダスタノ
[給料を]出したのか？

199A：スッカリ　X８オド、　　オヤンズサ
すっかり　X８おとうさん、おとうさんへ

ダスタンダモン。　　（B　ハーハハハー）　ホンダガラ
[給料を]出したんだもの　（B　そうかそうか）　だから

ガガサナンダ　エッシェンモ　ケネガッタンダモノ。
女房へなどは　１銭も　　くれなかったんだもの。

（B　ウーン　ウン）　ソンダガラ　オラー　アノー、
（B　うん　うん）　それだから　私は　あの

アエダッタンダモノ、ソレ、シェッケンガ　ナグナレバ
あれだったんだもの　ほら　せっけんが　なくなれば

ウマレダ　エ　デデ　オフグロガラナ、（B　ウン）
生まれた　家[に]　行って　母からね　（B　うん）

サンズッセン　モラッテクレンバ、コナシェッケン　ヒトツド
30銭　もらってくれば　粉せっけん　一つと

アノ　カデァ　シェッケン　シトズ　カッタンダモ。
あの　固い　せっけん[を]　一つ　買ったんだもの。

（B　ハハハハハハ）　ソシェンバ　マンッツ
（B　そうかそうか）　そうすれば　まず[当分は]

200B：スバラグ　タクサンダッタベナ。
しばらく　たくさんだった[＝間に合った]ろうな。

201A：ハントシ、 ハンツギ　タクサンダッタモ。
　　××××　半月[は]　たくさんだった[＝間に合った]ね

　　(B　フンー)　ンダガラ　エッカケ゜ツ　ヌカエズズ
　　(B　そうか)　だから　　1か月[に]　2回ずつ

　　エッテ、　　(B　ハー)
　　[実家に]行って[金をもらった]　(B　そうか)

　　ンダガラ　エッツモ　　オフグロァヨー、(B　ウン)
　　だから　[行くと]いつも　母はね、　　(B　うん)

　　Aア　ネーサ　　キテェ　テ　シャベル。
　　「Aは　なに[をし]に　来て」　と　言う。

　　オレァ　キタ　ドギァ　ジェヌ　ホスクッテ　キタ　ド　オモエ
　　「私が　来た　時は　お金[が]　欲しくて　来た　と　思え」

　　ッテ　(B　{笑})　シェッタンダオン。
　　って　(B　{笑})　[私は母に]言ったんだもの。

　　(B　ハーハ)　ンダガラ　アドノゲァリガラ〔102〕
　　(B　そうか)　だから　しまいには

　　エグ　ズグワ　(B　ウン　ウン　ウン)
　　行く　時は　(B　うん　うん　うん)

　　ナーンボ　　ホス　ッテヨー　ッテ
　　「[今度は]いくら　欲しい　って言うの」って[母は聞く]

202B：ウン。 ハ　　チャーント　ワガッテデナ。
うん。 はあ、 ちゃんと　　わかっていてな。

203A：ウン。 サンズッセンデモ　エース　ゴズッセンデンバ　マット
うん。「30銭でも　　いいし　50銭であれば　　もっと

エーナ　ッテ。　　（B　ウン　ウン　ウン）
いいな」 って[私は母に言って]。（B　うん　うん　うん）

ソレ　サンズッセンカ　ゴンズッセン　モリェサ
それ　30銭か　　50銭[を]　　もらいに

エッタンダモ。　　（B　ハーハハハハ。 フー）
[実家に]行ったんだもの。（B　そうかそうか。 うん）

ソステ　セッケン。　　ホンデモ　ジョーンブデナ
そして　せっけん[を買った]。 それでも　丈夫でね

ビョーギモ　スネガラナー。（B　ウン）
病気も　　しないからね。（B　うん）

ソレンデ　トッテタノサ。　　アーダァ。
それで　[お金を]得ていたのね。 あとは。

204B：ヤッパリー、 ヨルワ　ユーハン　ケバ
やっぱり　　夜は　　夕食[を]　食べると

スクニ　ネダモンデモ　ナガンベス、　（A　ヨル）
すぐに　寝たわけでも　ないだろうし（A　夜）

チャント、 アタリオ　ソーズ　　シテ、（A　ウン）
きちんと　あたりを　掃除[を]　して　（A　そう）

ハキ、 ハキソーンズ　ステガ。
××、 掃き掃除[を]　してだ。

205A：カナ、 カナランズ　アレダッタモヤ
××　必ず　　[寝る前にやるのは]あれだったものね

（B　＊＊＊＊）チャワンー　アラッテガラナ、（B　ウン）
（B　＊＊＊＊）茶わんを　　洗ってからな　　（B　うん）

11↑12

ソースッテ　アノ、 ソゴー　ハエデ、（B　ウン　フエデ）
そのあと　　あの　そこを　掃いて　（B　うん。 拭いて？）

フエデ、（B　ウン）ソーステ　ホドーンット
拭いて。（B　うん）そうして　ほとんど

アレダッタンナ、 ミンズデ　アラッタオンダナ
あれだったね　　水で　　洗ったもんだな。

カワサ　アヤァ、（B　ハハハハ）
川へ　　あれは　（B　そうかそうか）

エノ　エノ　メエノ　カワノ、　　（B　フン　フン）
××　家の　前の　　川の[ところで]。（B　うん　うん）

アソゴンデ　センタングモ　スンニエガッタスナ、
あそこで　　洗濯も　　できたしな。

（B　ウン　ウン　ウン）　ソットー
（B　うん　うん　うん）　相当

アノッコロァ　ミズァ　キテラッタモノ。（B　ハー）
あの頃は　　水は　　来ていたもの。　（B　そうか）

ソースッテ　アレァ、　ヨースイダッタンダモ　（B　ハハ）
そうして　　あれは　　用水だったもの。　　（B　そうか）

タ　タサモ。　　（B　ホー）　エマヌヨーンヌ
×　田にも[使ったんだ]。（B　ほう）　今のように

アレァ、　エノ　スタノ　アダリ　　（B　ウン　ウン）
あれは、　家の　下の　　あたり[は]（B　うん　うん）

クッカグセーリ　ナンネンデナ、（B　ウン　ウン）
区画整理[に]　　ならないでな　（B　うん　うん）

エスホドゲ〔103〕ノ　アダリモ　タ
石仏の　　あたりも　田[が]

スグナガッタガラナー、（B　ハー）
少なかったからな。　　（B　そうか）

アノ　ミンズ　シパッテ　　アソゴノ　アダリ
あの　水[を]　引っ張って[きて]　あそこの　あたり

206B：ダイジョブダッタンダモナ。
大丈夫だった[＝水が引ける状態だった]のだものな。

207A：ダイジョブンダッタモ。（B　フーン）　ソステ　アレ
大丈夫だったもの。　（B　うん）　そして　ほら

カササンビ、　アノ　タ　　オギッデ〔104〕ガラ
／／／／　　あの　田[が]　作られてから

アレ　ミンズァ　コナグ　ナッテー、（B　ウン）
ほら　水は　　来なく　なって　　（B　うん）

ヘノ　スタサ　エマ、　ヨースイロー　ツクッタワゲンダ
塀の　下に　　最近　用水路を　　作ったわけだ。

（B　ハー）　ンダガラ　　ハー、　エダフギモ
（B　はあ）　それだから　もう　雑巾も

アノ、　カワンデ　　アラッタンダモ。（B　ウン）
あの　　川[の水]で　洗ったんだもの。（B　うん）

ナーンノ　　フガネンダラ
どうしてどうして　拭かなかったら

208B：シボ、　シボドサ　　ホレー　アノ　マギ
××　　炉[というのは]ね　ほら、　あの　薪[を]

モス　　モンダガラ　ナンボ　ソーンズステモ　（A　ウン）
燃やす　ものだから　いくら　掃除しても　　（A　うん）

ツギノ　アサマ、　　（A　ホンダ　ホンダ）
次の　　朝[になると]、（A　そうだ　そうだ）

ホゴリァ　オギテラッタンダベ。
ほこりは　おきて[＝たって]いたのだろう。

209A：ウン。　ソスッテ　オラエノ　アノ　X８ズー
うん。　ところで　私の家の　あの　X８おじいさん

ズノァ　　アサマ　ハヤェ　フットデナ、
という人は　朝[が]　早い　　人でね

（B　ハー　ハハー）　アサマ　サンズッコロ　オギデ　ハ
（B　ああ　そうか）　朝　　３時頃[に]　　起きて　もう

（B　ジャー〔105〕）　ツマコ゜〔106〕ツグリ。
（B　ええっ？）　　藁靴作り

（B　ハー）　　ヨールァ　ウンダッテナ、
（B　そうか）　夜は　　それだからな、

スズズコロン　ダド　サ　ナレバ　エッツニ　ネデンダッタモ。
７時ごろ×　　××　に　なると　とっくに　寝てるんだったもの。

（B　ソノシトァ？）　ウン。（B　フーン）　ソステ　ガ
（B　その人は？）　　うん。（B　ふうん）　そして　×

アサマ　サンズニ　ナレバ　オギデ、　ツマコ゜　ツグッテサ、
朝　　３時に　　なると　起きて、　藁靴[を]　作ってね

（B　ハー）　アラ　　オヤンズァ　　オギデ　ツマコ゜
（B　はあ）「あれ、　おとうさんは　起きて　藁靴[を]

岩手 12-5

ツクテラフンダ　　ド　オモテ　ショーンズノ　アナガラ
作っているようだ」と　思って　障子の　　穴から

（B　{笑}　フン　フン）
（B　{笑}　ふん　ふん）

コー　　ノゾエテ　ミンノヨナ。（B　アー　アー）
こう［して］のぞいて　見るのよね。（B　ああ　ああ）

コレェ　　ネデラエネ　　オギネンバネ
［それで］「これは　寝ていられない。起きなくてはならない」

ド　オモッテヨ、（B　{笑}　ウダーナ）
と　思ってね　　（B　{笑}　そうだな）

ソーセバ　チャント　エッソグ　ハー　アノ、
そうすると　ちゃんと　1足　　もう　あの

（B　ツマコ゜？）ウン　（B　ハー）　シモマデ
（B　藁靴？）　うん　（B　そうか）［しかも］紐まで

ナッテ　チャント　　エッソグ　ツグッテサ、
なって　ちゃんと［つけて］　1足［を］　作り終わってね

（B　ハア）　アドノ　ニスグメオ　ウラケ゜ァデ
（B　そうか）次の　　2足目を　　裏返して

スタンダモ。　　（B　ハー）
［底を］作っていたんだもの　（B　へえ）

岩手 12-6

コレェ　テーヒェンダ　ネデスマッテ
「これは　たいへんだ。　寝てしまって」[と思う]

ソノ　ハンズァ　ワリ〔107〕ゴドナァ。
その[時の]　きまりが　悪いことなあ。

(B　ウン　ウン　ウン　ウン)
(B　うん　うん　うん　うん)

フンダガラ　ハー　ソイェ、　チョーズンオ
それだから[＝しかたがないから]　もう　それに　提灯を

ツケデ　アノ　ヤダコ゜ヤ〔108〕サ　エッタンダモ
つけて　あの　飼料小屋へ　行ったんだもの。

ヤダキ゜リ〔109〕ニ。(B　ウン)　マーサガナ、
飼料切りに　(B　うん)　まさかね

シュードオヤズァ　タ、　ツマコ゜　ニソグ
舅は　×、　藁靴[を]　2足[も]

デギッ　トゴサ　(B　ウーン)　ワラ　モッテッテ
作り終わる　ところへ　(B　うん)　藁[を]　持っていって

ナワモ　ナラエネベ　ダラー。
縄も　なえないだろう、　それでは。

(B　ウン　ホンダ　ホンダ　ホンダ　ホンダ　ウン　ハー)
(B　うん　そうだ　そうだ　そうだ　そうだ　うん　そうか)

ヤダコ゜ヤサ　エッテ　チョーズン　ツケデサ。
飼料小屋に　行って　提灯[を]　つけてね。

210B：ンダガラ　マエバンケ゜　ネッ　トギ　ハ　ジューズ
だから　毎晩　寝る　時[は]　もう　10時[を]

スキ゜ダンダモナ。
過ぎたもんな。

211A：ンダナ　ホドンット　ジューンズダッタ。
そうだ　ほとんど　10時だった。

212B：ウン。マズ　ジューンズメエニ　ネル　ゴダァ　ネンダモナ。
うん。まあ　10時前に　寝る　ことは　ないんだもんな。

213A：ウン　ウン。ハヤクテ　クンズ　ダッタンダンナー。
うん　うん。早くて　9時　だったんだな。

214B：クュンズニ　ネレネァナー。ヤッパリ。
9時に[は]　寝られないな。やっぱり

(A　ジューヌ　ウン)　ウン。
(A　12[時]。　うん)　うん。

215A：ンデモ　アサワ　トーッテモ　アノ　X8ズサマ
それでも　朝は　とっても　あの　X8おじいさん

ズ　シト　(B　ウン)　ハイェ　シトダッタヨー。
という　人[は]　(B　うん)　早い　人だったよ。

岩手 12-8

ソステ　エマッコロサ〔110〕　ナッツドナ、　（B　ウン）
そして　今頃に　なるというとね、（B　うん）

アノー　ズブンカ゜ー　アサスコ゜ドニサ、（B　アー）
あの　自分が　朝仕事にね　（B　ああ）

シットマル〔111〕　タネァンデ〔112〕　マヤサ　エレ
[朝草の]大束 1 束[を]　担いで　馬屋に　××

エレラレネヨーナ　マルナ〔113〕、　ヨンショイズズ
入れられないような　大束のもの[を]　4 背負いずつ

カッタンダンジョ　ウラノ　カンバラガラ。（B　ハー）
刈ったんだぞ。　裏の　河原から。　（B　そうか）

フッタマルズズ　ショッテクンジョ。　（B　ハー）
[それを] 2 束ずつ　背負ってくるんだぞ。（B　そうか）

ソスッテ　カマ　トエデラ　オドデ　メェ
そして　[舅が]鎌[を]　研いでる　音で　目[が]

サメンベ。　（B　{笑}）　アラッ。　オヤンズァ　オギデ
覚めるだろう　（B　{笑}）「あれっ　おとうさんは　起きて

カマ　トエデラフンダ　オレモ　オギデ　ハダクサ
鎌[を]　研いでるようだ。　私も　起きて　畑へ

エガネバネ　ド　オモッテ、
行かなくてはならない」　と　思って

(B　ウン)　ドゴガ　　オギデ　ミッツドァ、
(B　うん)　「どこか」[と]、 起きて　見るというともう

(B　ウン)　チャント　フタマル　トッテキテ　アノ
(B　うん)　ちゃんと　2束　　刈ってきて　あの

ホラメェ〔114〕サ　オエデサ、　　(B　ハー)
曲り家の角に　　置いて[いて]ね。(B　はあ)

ヌカエメノ　カマトキ゜ノ　ドギ　　コッツァ
2回目の　　鎌研ぎの　　時[に]　こっち[＝私]は

メェ　　サメルモンダ゛ンジェ。(B　ウーン)
目[も]　覚めるものだぞ。　　(B　うん)

ホンダガラ　　ソノ　カマ　　トエ゛ンデー、 クサガリヌ
それだからね　その　鎌[を]　研いで　　草刈りに

エグノ　　マッテサ　アノ　オ゛ンドノ　カケ゜゛ンデサ、
行くの[を]　待ってね　あの　お堂の　　陰でね、

(B　ウン　ウン　ウン)　アソゴサ　モモシギダノ、
(B　うん　うん　うん)　あそこに　股引きだの

(B　{笑})　オ゛ンビダノ　モッテキテオエデサ
(B　{笑})　帯だの[を]　持ってきておいてね、

(B　ウン　ウン　ウン　ウン)　ソゴ゛ンデ　カグレデデ
(B　うん　うん　うん　うん)　そこで　　隠れていて

オンビ　スメデナ、（B　アー）　ソノ、
帯[を]　締めてね、（B　ああ）　その

オヤズズァ　エグノ　マッテガラ
おとうさんというのが　[草刈りに]行くの[を]　待ってから、

クヮ　モッテ　ハダクサ　カグレデ　エッタモンダオン。
鍬[を]　持って　畑に　隠れて　行ったもんだもの。

（B　ウーン）　エヤー　ホントーニ　シンドガッタデバ
（B　うん）　いや　本当に　つらかったってば。
12↑13
ヌンゲ゜デ　アルガネワネクテ。
逃げて　歩かなければならなくて。

216B：フンダッタンダナー。
そうだったろうな

217A：ウン　ソーリェンヌ　ソノ、　ホンヌンノ、　（B　ウン）
うん　それに　その　本人[＝当人]の　（B　うん）

トドサマ　ナーニ　スタッテモ　シャベネンダガラ。
夫[は]　なに[を]　したとしても　しゃべらないんだから。

（B　ハー）　アガルグ　ナッタ　ドモ　ネデダ　ドモ、
（B　そうか）「明るく　なった」　とも　「寝ていた」　とも

（B　{笑}　ウン）　オンヤンズァ、　クサガリヌ　エッタジェ
（B　{笑}　うん）「おとうさんは　草刈りに　行ったぞ」

ドモ、 エッコ　　オシェデケネンダガラ。
とも、 いっこう[に]　教えてくれないんだから。

218B：トニカグ　ソノ、 ヨ　　アゲデガラ
とにかく　その　夜[が]　明けてから

オギル　ゴドァ　ネァガッタンダナ
起きる　ことは　なかったんだな？

219A：ネァガッタナー　（B　マズ　ウン）　ホドントナー。
なかったな、　（B　まあ　うん）　ほとんどね。

220B：ウン。 タスカニ。（A　ウン）　オラエノ　オフグロンドモ
うん。 確かに。　（A　うん）　私の家の　母たちも

ハヤガッタケガラ　　ホダッタンダガモシレネ
[朝は]早かったのだから　そうだったのかもしれない。

オラァ　キママモンデナ。
私は　気まま者でな。

221A：ステ、　マーンメダノ　ヘァサ　ッコー　　アノ
そうして　豆だの　　稗に　こう[やって]　あの

ホッカゲ〔115〕ス　ドギァナ、（B　ウン）　ウンネバラ
土寄せする　　時はね　（B　うん）　畝の腹[が]

メェネァデ　ハダクサ　エッタ　ッテヨー。
見えないで　畑へ　　行った　というよ。

（B　クラクテナー）　ウン　　ソンーデモ　トヌッカグ
（B　暗くてな）　　うん。　それでも　　とにかく

デハッデガネワナンネガッタンダオン。　（B　ウン　イガニモ）
出ていかなければいけなかったんだもの。（B　うん　いかにも）

マンツ　ハダクサ　エッテサー、（B　ウン）
まず　　畑へ　　行ってね　　（B　うん）

ヨカ゜ニ　カレナカ゜ラ　　ソノ、　アガリグ　ナルノ
蚊に　　食われながら　その　　明るく　　なるの[を]

マズマンデモナ、（B　ウン）　イガネワナガッタンダ。
待つまでもね　　（B　うん）　行かなくてはいけなかったんだ。

（B　ハー）　　{笑}
（B　そうか）　{笑}

222B：オメァダズ　　ドギァ
あなたたち[の]　時は[どうだったろうか]

アノ、　オレァ　　ドギモ　ハー　ナガッタカ゜ー、　アレンバ
あの　　私たちの　時も　　もう　なかったがね　　あれを

トッタンダンドモナ　　キネンシャスン　　ナンツノ
撮ったんだけれどもな　[結婚の]記念写真　などというもの[は]

ハー、　ヤッパリ　トッタッタ
もう、　やっぱり　撮った？

223A：ナガッタ　ナガッタ。　シャスン　トンナガッタ。
なかった　なかった。　写真[は]　撮らなかった。

（B　ハー）　ウン。　キネンシャスン　ッツ　モノァ
（B　そうか）　うん。　記念写真　という　ものは

ナガッタ。（B　フーン）　シャスン　トッタ　ゴドァ
なかった。（B　ふうん）　写真[を]　撮った　ことは

ネァオ。
ないもの。

224B：トンノニ　アッタンダンベ　ヤッパリ
遠野[の町]に　[写真屋が]あったんだろう　やっぱり。

アノ　ソノッコロワ　トンノニ　アッタッタナ。
あの　その頃は　遠野に　あったんだね。

225A：サー　アッタガモシエネ
さあ[どうだろう]　あったかもしれない

226B：ス　スドー　ナンテ　ヤ　アッタ　アッタンダンベ
×　須藤[写真館]　なんて　×　あった。　あったんだろう。

227A：オレャノ　X 1　ドギ　アッタッタ。
私の家の　X 1 [の結婚の]　時[は]　あった。

（B　ハー）　イモットノ　ドギァ　（B　ハー）　オレャノ
（B　そうか）　妹の　時は。　（B　そうか）　私の家の

X１　　ドギァ　ツノカ゜グス　　スタッタガラナー。
X１[の]　時は　　[頭に]角隠し[を]　したからね。

(B　ハー)　　ソスッテ　アノー　スンドーシャスンデナ、
(B　そうか)　そして　　あの　　須藤写真[館]でね

(B　ウン)　ツノカグス　ステ　　トッタ　シャスンカ゜
(B　うん)　角隠し[を]　つけて　撮った　写真が

アル。(B　ハーンー)　オレェノ　X１ワーナー、
ある。(B　そうか)　　私の家の　X１はね、

ナーンヌ　ゴネンク゜ンレァ　　オグレデガランダナ
なあに　　[私より]５年くらい　遅れてからだな、

アレァ。　　ハ
あれは[＝結婚したのは]。　もう

228B：ハタンズ　スキ゜デガラ。
　　20歳　　過ぎてから？

229A：ハンダズク゜レァダッタガモ　(B　ハー)　シエネナー。
　　20歳くらいだったかも　　(B　はあ)　しれないな。

(B　ハ　　ウン　ウン　ウン)　X２ァ
(B　そうか　うん　うん　うん)　X２[＝妹の夫]は

ヨホンド　アンドガラ
よほど　　あとから

230B：トニカグ　オラァ　ムゴヌ　ナル　アダリワ　ニンジューイズデバ、
とにかく　私が　婿に　なる　頃は　21[歳]といえば

（A　ウン）　マンズ　モゴニ　ナッタモンダナ。
（A　うん）　まあ　婿に　なったもんだな。

（A　ウン　ハンダズガンナ）　ウン　ヘァーテァケンサデバ
（A　うん。20歳かな）　うん。兵隊検査というと

ハー、（A　ウン）　ムゴニ　ナッタンダッケガラ
もう　（A　うん）　婿に　なったんだから

231A：ソステ　アノコロノ　ヘッテァケンサモー　オレャノ
ところで　あの頃の　兵隊検査も、　私の家の

トーサンダ　ヘッテァケンサニ　エグ　ドギァナ、
おとうさんたち[が]　兵隊検査に　行く　時はな、

（B　ウン）　ハオリハガマデ　エッタンダ。
（B　うん）　羽織袴で　行ったんだ。

（B　アー　エガニモ）　ウン　（B　ウン）
（B　ああ　確かに）　うん　（B　うん）

ハオリハガマンデネ。（B　ホナンダー）　ウン。
羽織袴でね。（B　そうだな）　うん。

232B：オラァドギワ　フグァ　アッタンダヨ。（A　ウン）
私の時は　服は　あったものね　（A　うん）

シェーネンカ゜ッ　（A　ウン）　セーネンクンレンジョガ。
青年×　　（A　うん）　青年訓練所か。

233A：アーラ　ホンダドモ　　アノ　センレン　（B　ウ）
あれは　そうだけれども　あの　××××　（B　×）

セーネンクンレンノ　ドギワナ、（B　ウン）
青年訓練の　　時はね　　（B　うん）

フグ　　キッテ　ウゲダッタッケ　　アー　アレンダ、
服[を]　着て　　受けていたものだ　ああ　あれだ、

アノドギモ　ズボンワ　アッタドモ　　ウエッカサ
あの時も　　ズボンは　あったけれども　上側[＝上のほう]に

ミズッケァ　キモノ　　キター。
短い　　着物[を]　着た。

（B　アー　アー　アー　アー　ア　ウン）　フガァ
（B　ああ　ああ　ああ　ああ　あ　うん）　服は

ナガッタ。（B　ウン　　アノ）　ホンダンドモ
なかった。（B　うん。　あの）　そうだけれども

フェッテァニ　エグ　ドギァナ、（B　ウン）　アノー
兵隊に　　行く　時はね、　（B　うん）　あの

ショーシュー　カガッテ　エッタカ゜サ、　コグミンフグ
召集[が]　　かかって　行ったがね、　国民服[を]

キテエッタッタヤ　（B　ハー）　コグンボーショグノ　ヤズナ。
着ていったな。　（B　そうか）　国防色の　やつな。

（B　ウン　ウン）　アレェーワ　ドッカガラ　ダスタッタンダガ。
（B　うん　うん）　あれは　どこからか　出していたのか。

（B　ウン　アノー）　ショーワジュークネンノ
（B　うん　あの）　昭和19年の

トスンダッタガラ。
年だったから。

234B：ウン　ウ　ゴシューギニ　ヨンバレデモヨ　タラッコショイ
うん。×　ご祝儀に　招かれてもな　俵背負い

ズノ　エズバン、　ヤンタ　ド　オモッタッタナ。
というの[は]　いちばん　嫌だ　と　思ったな。

13↑14

235A：イーガッタンベー　タラッコショイダラ。（B　イヤイヤ）
よかっただろう、　俵背負いなら。　（B　いやいや）

オラー　オタ　アー　アノー　オドゴデァバ
私は　××　ああ　あの　[私が]男であれば

タノマレテー〔116〕　ド　オモッタッタ　{笑}　（B　{笑}）
頼んでほしい　と　思った。　{笑}　（B　{笑}）

236B：タラッコショイ　ズ　ヤズワヨー、（A　ウン）
俵背負い　という　ものはな、（A　うん）

ミンナノ　ヤズ　　シヨッテクネバネンダガラ。
みんなの　もの[を]　背負ってこなければいけないんだから。

237A：ウーン　アノッコロワ　サガナ　ツゲデ　　オボデガッタ
うん、　あの頃は　　魚[を]　背負って、　重かった？

238B：サガナ　ツケッツド　　（A　ウン）　サガナノ　シルァ、
魚[を]　背負うというと　（A　うん）　魚の　　汁は

（A　ウン）　タッテヤ。
（A　うん）　垂れてな。

239A：アレバ　X２ヤー。
あれは　X２か？

240B：ホンダッタンダジェ？　ナヌモカニモ。
そうだったんだぞ　　なにもかも。

241A：オレー　ヨメコ゜ヌ　キッタ　ドギァア　ハナー、
私が　　嫁に　　来た　　時は　　もうね

（B　ウン）　ダーレガ　リヤカー
（B　うん）　だれかが　リヤカー[を]

シッパテキタンジョー。（B　ハー）　アンドキァ。
引っ張ってきたぞ。　　（B　そうか）　あの時は。

242B：ハー　　ソレワ　エガッタナー。（A　ウン）
そうか、　それは　よかったな　　（A　うん）

ショッタンダオン。　　ッスタ　アノー　オダズ〔117〕
[私は]背負ったんだもの。そして　あの、　お発ち

ズ　　モノ　　アッタンジェ　アレ、タッテクッ　トギ
という　もの[が]　あったぞ。　あれ　帰ってくる　時。

243A：ジス　ジェストモナァ。（B　ウン）　ジェストモ　ミミド。
××　必ずね。　　（B　うん）　必ず　　／／／

244B：ザスギデ　オマワリ〔118〕　マステヨー、（A　ウン）　ソノ
座敷で　お回り[を]　回してな　（A　うん）　その

オマワリモ　ッコンナナ　ドンブリンダモ。　（A　ウン）
お回りも　こんなに　[大きな]丼なんだもの（A　うん）

ンデネンバ　　バショニヨッテワ　アノ、ケァノ
そうでなければ　場所によっては　あの　貝の

サンガンズギッテ、ケァッコノ、サンガンズギ
杯といって、　貝の　杯。

（A　ナンニ　オラ）　アナノ　ツダ　タンビヌ
（A　なに　私は）　穴の　ついた。[その]度に

ユビ　サステサ、（A　ウン）　ツカ゜レッカラ
指[を]　指してね　（A　うん）　注がれるから

ノマネンデ　コー　ハナシェンバ　マガルスヨ、
飲まないで　こう　[指を]離すと　[酒が]こぼれるしね、

岩手 14-4

（A　ウン）　エーレァ　　ゴド　　ヤッタモンダッケンジェ？
（A　うん）　たいへんな　こと[を]　やったもんじゃないか。

（A　オラダ）　　ソステ　ヌワデ　ノマシェデ　コンドァー、
（A　私たち[は]）　そして　庭で　　飲ませて　　今度は

（A　ウン）　オニワデ　ホレ　　ノマシェル
（A　うん）　お庭で　　ほら[また]　飲ませる。

オダズ　ズ　　モノー。　（A　ウン　ウン）
お発ち　という　もの[は]　（A　うん　うん）

ソンゴンデ　ノンダガラ　エード　　オモッツード
そこで　　飲んだから　[もう]いいと　思うというと

コンドァ、　トノクズニ　エルモヤー。
今度は　　戸口に　　[飲ませる人が]いるからな。

（A　ウン　ウン）　フー。　ンネンサ
（A　うん　うん）　ふう。　いやね、

コンナナ　　ヤズデ
こんなふうな[大きな]　もの[＝器]で

フタッツモ　ミッツモ　ヤラエッカラ。
２杯も　　３杯も　　やられる[＝飲まされる]から。

イサ　エギダサネンデ、　タオレダンダオナ。
家へ　行き着けないで　倒れたもんだものな。

（A　ウン　アー　オラドゴデ）
（A　うん　ああ　私のほうで）

ムゲエサ　　ムゲエ
迎え[に行った人]に　[さらに]迎え[に行くという事態が]

オギダンダモノ　ホレ。
起きたんだもの、ほら。

245A：オラドゴデ　　ハー　オワンダッタナ。
私のほうで[は]　もう　おわんだったね

（B　ハー　　クロワンノナ）　ウン　（B　ウン）　クロワン
（B　そうか　黒わんのな）　うん　（B　うん）　黒わん。

アノ　オワン
あの　おわん

246B：アレダッテ　エズコ゜ーゴシェギー〔119〕ガ　ニコ゜ー
あれだって　1合5勺か　　2合[は]

ヘァンダモノ。
入るんだもの。

247A：ウン。　ソーンダナ　エズコ゜ーゴシェギワ　ハ　　ヘァッタナ。
うん。　そうだな、　1合5勺は　　もう　入ったな。

248B：ウン　ヘァル　ヘァル　ヘァル。　クロワンダズドァ、
うん　入る　　入る　　入る。　黒わんだというともう

（A　ウン）　ウン
（A　うん）　うん

249A：アーリェサ　エッショービンデ　ツンダンダオン。
あれに　一升瓶で　[酒を]注いだんだもの。

250B：ウン。　オラミンデァナ　エーフナ　ヤズンダズド
うん。　私みたいな　弱い　者だと

ミミ　オシェラエデサ、（A　ウン）
耳[を]　押さえられてね　（A　うん）

ノメネァ　ッタテ　キグモンデネ。
「[もう]飲めない」　と言ったって　聞くものではない。

（A　ウン）　ムリムリド　ノマシェッカラ　ハ　ソゴラヘンサ
（A　うん）　無理矢理に　飲ませるから　もう　その辺に

{笑}　エグ　ウズ、　タオレダモンダ　（A　ウン）
{笑}　行く　うち[に]　倒れたもんだ。　（A　うん）

タラッコショエ　エナグナッタ　ドッチャ　エッタ、
「俵背負い[が]　いなくなった、　どっちへ　行った」

ツッテ　ナヌ　ハ　ホガノ　ホーデ　{笑}
と言って　なに、　もう　ほかの　ほうで　{笑}

コレ　ヤッテルモンダモナ。　（A　ウン）
これ[＝嘔吐][を]　やってるものだからな。（A　うん）

ソレァ　ゴシュンキ゜ダッタンダモナ、　ヤッパリ。
それが　ご祝儀だったんだもんな、　やっぱり。

（A　ホーニサナァ）　{笑}
（A　本当にね）　{笑}

251A：アレァー　ホヌ。　マゲェデ　マゲェダリ　ノンダリ
あれは　本当に　こぼして　[酒を]こぼしたり　飲んだり

ホヌ　タエスッタ　サゲエ　スッテダモンダンドモー、
本当に　たくさんの　酒[を]　捨てたものだけれども

（B　ウン）　ソーレデネンバ　ゴシュキ゜ンダド
（B　うん）　それでなければ　ご祝儀だと

オモナガッタンダモナ。
思わなかったんだものね。

252B：ウンダ　ウンダー。　ス　ンダガラ　コカ゜ッコアレェ〔120〕
そうだ　そうだ。　×　だから　コガッコ洗い

ズノワ　ホレ　（A　ウン）　スッカリ
というのは　ほら　（A　うん）　すっかり

サエコ゜マデ　ハ　スッカリ　コカ゜ッコ
最後まで　もう　すっかり　桶[の中の酒を]

アラッテスマウマデ、　スンダ。
洗って[＝洗うように飲みほして]しまうまで　するんだ。

253A：ツク゜ノシァ　カナラズ　アドシギ〔121〕ダ　ッテ　ユッテサ。
次の日には　必ず　披露宴だ　って　言ってね。

（B　ソー　ソー　ソー　ソー　ウン）　ツキ゜ノシ
（B　そう　そう　そう　そう　うん）　次の日

254B：ソステ、　サドケ゜ァリ　ズーモノ　アッタンダンベ。
そして　里帰り　というもの[が]　あったんだろう。

255A：ウン。　ツク゜ノシァ　アドーオシギ　ステ　スケ゜ァダズァ
うん。　次の日は　披露宴[を]　して　親類たちは

オモナ　スケ゜ァダズァ　キテ　ヤッテサ、　（B　ウン）
主な　親類たちが　来て　[宴会を]やってね　（B　うん）

シテ　ユーグ　ユーカ゜ダサ　アノ　サ　サドゲァリサ。
そして　×××　夕方に　あの　×　里帰りね。

256B：ウン。　ソンドギァ　ナンニ　モッテタンダ
うん。　その時は　なに[を]　持っていったんだ、

サドケ゜ァリニァ　サゲッコガ。
里帰りには。　酒か。

257A：サ　サー　サッゲワ　エッショーサ。（B　ウン）
×　××　酒は　1升ね　（B　うん）

アノ　タルサ　ヘッタ　（B　ウン　ウン）
あの　樽に　入った[酒]。（B　うん　うん）

サゲ　エッショーサ。（B　ウン）
酒　　1升に　　（B　うん）

ソレサ　モーズ　ショワヘラエダンダデバ。
それに　餅[を]　背負わせられたんだってば。

（B　ウン　フンダ　フンダ　フンダ　フンダ）
（B　はあ　そうだ　そうだ　そうだ　そうだ）

チョッケ　ヌシャググ゜レァノナ、
直径　　2尺くらいのね

（B　ウン　トリモズ〔122〕）　カカ゜ミモズ。
（B　うん　とり餅）　　鏡餅。

（B　ア　　カカ゜ミモズ）　ウン。
（B　ああ　鏡餅）　　うん。

アレ　　ニメァ　ショワシェダンダデバ　ムゴヌヨ。
あれ[を]　2枚　　背負わせたんだってば　婿にね。

（B　ウン　ウン　ウン　ウン）　ソステ　サゲワ　エッショーサ。
（B　うん　うん　うん　うん）　そして　酒は　　1升ね。

（B　ウン）　ソレサ　アゲァ　サガナ　ニシギーサ。
（B　うん）　それに　赤い　　魚[を]　2匹ね。

258B：ウン。　ソステ　ナンスタッテ　ヘエッタケ
うん。　そして　なんと言って　[家へ]入ったのか、

ダナドノァ。
旦那様は。

259A：ナーヌガ　シテ　エアッテ　　ヘァッタンダカ゜
なにか　　して　[と]言われて　入ったんだか。

オラァ　キガ　キダ　　ゴド　　ネァナ
私は　　××　聞いた　こと[が]　ないね

260B：ウン。　コレァ　オシェデ　　ヤンダッケカ゜ナ。
うん。　これは　[だれかが]教えて　やるんだかな。

261A：オシェダガモシェネンドモ　　オラァ　ッシャネナ。
教えたかもしれないけれども　私は　　知らないな。

262B：ウン。　エヤ　アレダッケモヤ　アノー、
そう　　いや　あれだもんな。　あの
[14↑15]
エッショニ　エグ、　{笑}　ヨミァサ　エグド　チャッチャド
一緒に　　行く　　{笑}　嫁の家に　行けば　さっさと

ハ　　ヨメコ゜ァ、　ワレエンダガラ、　ベラリ
もう　嫁は　　自分の家だから　するり[と遠慮せずに]

ヘッケモナ　ハー、　ドッチャガ　エッタガ、
入るもんな　もう　　どっちへか　行ったのか

スカ゜ダ　メナグ　　ナル。　{笑}　ハヤグ
姿[が]　見えなく　なる。　{笑}　早く

263A：オラ　ハ、　オレァ　ハ　ソノ　タゲァ　アスンダ
私は　もう、私は　もう　その　[歯の]高い　足駄[を]

ハガシェラエデ、（B　ウン）　アールゲナガンベ。
履かせられて、（B　うん）　歩けないだろう？

オリャノ　モコ゜ァ　ハ　ゲッダ　ヘァダガラナ、
私の家の　婿は　もう　下駄[を]　履いたからな、

（B　ウン）　ハヤグ　エッテ　ズッケンモ
（B　うん）　早く　行って、10間も

サギヌ　エッテ。（B　{笑}）　{笑}
先に　行って。（B　{笑}）　{笑}

スッテ　ムコ゜ノホァ　サギヌ　エッタワンゲダ。
そして　婿のほうは　先に　[家に]行ったわけだよ

（B　アー　アー　ウン　ウン）
（B　ああ　ああ　うん　うん）

ヤッパル　サギ　エッタンドモ　ソノー
[でも]やっぱり　先[に]　行ったんだけど　その

（B　ウン）　ヨメコ゜ノ　ウツサ　（B　ウン）
（B　うん）　嫁の　家に　（B　うん）

ヘァラエネァガッタフンデ　アダァ、
[一人で]入れなかったようで　[その]あとは、

（B　ウンダ　ウンダ　ウン）　ジョノグズサ　エッタバ
（B　そうだ　そうだ　うん）　玄関口へ　　[私が]行ったら

タッテラッタナ。　（B　{笑}　ウン）　{笑}
[夫が]立っていたね　（B　{笑}　うん）　{笑}

（B　{笑}　ソーユーモンダー）　ソーステッガラ　ナニガ
（B　{笑}　そういうもんだ）　そうしてから　なにか

スッテ　ソシテ　ヘァーッタンダカ°　オラ　ッシャネー。
して　そして　入ったもんだか　私は　知らない。

オレァ　ハー　オンモデガラ　ヘァーッタスナー、
私は　もう　表から　入ったしな、

ヌワガラ　ヘァタッケナー。
庭から　入ったな。

264B：アノー、　ゴシューキ°ノ　チュー゛ンジャサマ〔123〕、
あの　ご祝儀の　中座様[というのは]

（A　ウン）　ナガナガ　モンク　ヨグ
（A　うん）　なかなか　口上[を]　よく

シャ゛ンベンダッケモナ。（A　ウン）　モッテァ゛ンブル
話すのだったものな。　（A　そう）　もったいぶり[を]

ツケデヨー、（A　ウン）　ウン。ソステ　チュ゛ンザサマノ
つけてね、　（A　そう）　うん。そして　中座様の

オススメァ　ワリズド　　（A　ウン）　カッテノ　ホーガラ、
勧めが　　悪いというと　（A　うん）　台所の　　ほうから

（A　ウン）　サゲ　　ウレネガラ、　　ドガッテ
（A　うん）「酒[が]　減らないから」　とかって

（A　ウン）　コンドァ　モンクァ　ツゲデ。　ソスズド
（A　うん）　今度は　　文句を　　つけて　　そうするというと

（A　ウン）　アラダメネワネァ　　ッテ。
（A　うん）「[やり方を]改めなければならない」　って。

ノミッテー　ヤズワ　ンデモ　　エグモナ　　アノー、
飲みたい　　人は　　それでも　行くものな、　あの

（A　ウン）　オンマワリヌァヨー。（A　ウン　ウンダ）
（A　うん）　お回りにはね。　　（A　うん　そうだ）

ナンボ　ノンデモ　タオレネァ　ヤズァ
いくら　飲んでも　倒れない　　人は

265A：ウダ。　ナーンヌ　オンマワリ　　スンベットー
そうだ。　なあに　　[その人たちは]お回り[を]　しようと

オガッテデ　ノマネンデンダ　　マーッテンダモ
台所で　　飲まないでいるんだ、　待ってるんだもの

ソレー。　（B　ノム　　ヤズナ）　ウン　ノム　ヤズ。
それ[を]。（B　飲める　人な）　そう　飲む　人。

（B　ツッカガラナ　ヤズデ）　ウン。　ソステ、
（B　／／／／／／　人で）　うん。　そして

アラダメンデーガラ　マスンダオン。
改めてから　[お回り酒を]回すんだもの。

266B：ウン。　ソノホガニァ　ソノ、　トジューサ　エンケ゜バ
うん。　そのほかには　その　途中に　行くと

カンプシェラエデナ、　（A　ウン）　マンダ　ソゴンデモ
[酒を]かぶせられてな、（A　うん）　また　そこでも

ヤッテー。
やっては[＝飲ませては]。

267A：ウン　ソンデモ　ジョーンブナ　ヤンズァンダ
うん。　それでも　丈夫な[＝酒に強い]　人たちは

ヤッタンダオノ
飲んだんだもの。

268B：ホンダ　ホンダー。　アナナ　ゴシューギ
そうだ　そうだ。　あんなような　ご祝儀[を]

ヤッテミテァナ　モイッカイナー。
やってみたいな　もう1回な。

269A：ウ　ナーンヌ。　オリェノ　ムスコンダー　ハー、
うん　なに[を言うのだ]。　私の家の　息子たち、　もう

アノ　ゴシューキ゜ノ　ドギヨルー、　テァンケ゜ァンデ
あの　ご祝儀の　　時より、　　たいがいで[＝普通に]

アレエンジョ　ノンデクンツィェ。
あれ以上　　飲んでくるぞ。

(B　エヤエヤ　ナーニ　ソンナ)
(B　いやいや　なあに　そんな)

ソノシノ　ウズニ　ケエッコドァ　　ホンドンット　ネァモノ。
その日の　うちに　帰るということは　ほとんど　　ないもの。

(B　{笑}　エヤ)　クルマーンバ　センターチャ、
(B　{笑}　いや)　車は　　[ここの]センター××

チューシャジョナフンデ　センターサ　　エッツモ
駐車場のようで　　[ここの]センターに　いつでも

オエデグ　　コサ　　キタンダラ　マーンツ。
[車を]置いていく　ここへ　来たなら　まあ。

(B　フー)　ソステ　アレァ　　エンデサ　カシェキ゜サ
(B　ふん)　そして　あれ[＝息子]は　飯豊へ　働きに

エグガラナー。　ソノ　ケァリンヌ　モッテグンダヨ。
行くからね。　その　帰りに　　[車を]持ってくるんだよ。

270B：ホ。　ホー　ホー　ホー　ホー。(A　X11ァ)
ほう。ほう　ほう　ほう　ほう。(A　X11の)

エンデサ　エッテラ。
飯豊へ　行ってる？

271A：ウン。　X11ァドゴサ
うん。［飯豊の］X11のところへ

エッテッケ。　ウン
行って［働いて］いるのだ。　うん

（B　ウン　ウン　ホー　ホー　フーン）
（B　うん　うん　ほう　ほう　ふうん）

アラダンメナクテモ　ケッコー　ノンデッテバ。
［特に］改まらなくても　けっこう　飲んでるってば。

（B　エヤヤ　ソノー）　ゴシュンキ゜デ　ナクテモ。
（B　いや、　その）　ご祝儀で［は］　なくても。

272B：ソステ　チューンジャサマサ　オサミェデ、（A　ウン）
そして　［酒を］中座様に　納めて　（A　うん）

ソステ　カッテサ　サガッテ、（A　ウン）　ソシェンバ
それから　台所へ　さがって　（A　うん）　そうすると

コンダァ、（A　ウン）　スコス　マダ　ズカン　タズド、
今度は　（A　うん）　少し　まだ　時間［が］　経つと

（A　ウン）　ヌンバンテノ、（A　ウン）　ヤズァ
（A　うん）　2番手の　（A　うん）　人は

クルモナー？　（A　ウン）　ウーン。　ッテ
来るもんな。　（A　うん）　うん。　そして

ツンブステガラー、　ヨロゴンデンダヨナ？　（A　ウン）
[飲ませ]つぶしておいて、　喜んでるんだよな。　（A　うん）

エァデオ　ツンブステスマッテガラ。（A　ウン）　{笑}
相手を　つぶしてしまっておいて。（A　うん）　{笑}

273A：オモリャサマンダノ　オギャクサマヌ　ナッタ　シトァ
おもらい様だの　お客様に　なった　人は

シンドガッタノサ　アレァ　サゲノ　フーニナラ、
たいへんだったのね。　あれは　酒の　／／／／／

（B　ウン）　ノマヒェラエルモノー。
（B　うん）　飲ませられるんだもの。

274B：ンダガラ　ソノ、　ムルナ　ゴドァ
だから　その　無理な　ことは[＝無理に飲ませるのは]

ホントァ　ヨグネァモンダンドモヨ、　（A　ウン）
本当は　よくないものだけれどもな。（A　うん）

トニカグ　ムルニ　ノマシェンダッケガラナ。
なにがなんでも　無理に　飲ませるんだからな。

275A：ウン。　ゼェーシトモンダッタンダモノ。
うん。　絶対[断れないこと]だったんだもの。

(B　ウン)　ゴシュンキ゜サ　　ソムグ　ゴドァ
(B　うん)　ご祝儀[のしきたり]に　背く　　ことは

デギネァ　ズ　　ワゲダッタンダオン。
できない　という　わけだったんだもの。

(B　ウン)　トテモサ、　ソレデモ
(B　うん)　とてもね　　それでも。

276B：デネンバ　　ヨメコ゜　ヤンネジョ　ナンッテナー
でなければ　嫁[を]　やらないぞ　なんてな

(A　ウン)　シャベラレッカラナ　ジェストモ
(A　うん)　言われるからな　　絶対に

ノマネバネンダケモナ、　　モラッテガネバ、
飲まなければいけないんだものな。[嫁を]もらっていかないと

(A　ソレ)　ソースド　　アサ　ハエダッケガラナー。
(A　××)　そうすると　朝　　早いんだからな。

277A：ソーレデモ　ソレガ　アダリメダ　　ド　オモッテ
それでも　　それが　あたりまえだ　と　思って

シキッタリンダガラ　ガンバッタンダオンノ。
しきたりだから　　がんばったんだものな。

278B：{笑}　ホンダー。ソステ　アンマル　オセェズドー、　コンドァ
{笑}　そうだ　　そして　あんまり　遅いというと　今度は

15↑16

コッツガ　オムゲー、（A　ウン）　オムゲァヌ
こっちから　××××　（A　うん）　お迎えに

279A：フンダ。　ジェスットモ　アレァ　アノー、　ィヨメムゲァ
そうだ。　必ず　あれは　あの、　嫁迎え

ズノァ　（B　ウン）　デハッタンダモノ　チョーズン
というのが　（B　うん）　出たんだもの。　提灯[を]

ツケデー。　ソースッテ　アノー、　ムガスノ　ヨメコ゜ー
つけて。　そして　あの　昔の　嫁

ズモノァ　ヤナムネ〔124〕ェ　メァル、　ンドギ、
というのは　「やな棟が　見える　時[は]

エレネァンダ　ッツッタンダモノ。　（B　ハー）
入れてはいけない」　って言ったんだもの。（B　そうか）

ヤナムネァ　メァナグ　ナッテガランバル　ソノ
[暗くなって]やな棟が　見えなく　なってからだけ　その

（B　ハーハーハーハ）　ヨメコ゜ニ　エグ　ドサ
（B　そうかそうか）　嫁に　行く　ところに

（B　ウン）　エグ　エグヨニ　エッタンダモノ
（B　うん）　××　行くように　行ったんだもの

クラグ　ナッテガランバリ　エッツモ。
暗く　なってからだけ　いつも。

280B：ソステ　アノ、　エンカ゜ワデ、（A　ウン）　エマノ
そして　あの　縁側で　（A　うん）　今の

コウデオ　ウダッテ、（A　ウン　ウン）　ソレガラ　テオ
小唄を　歌って　（A　うん　うん）　それから　手を

シカレデ、（A　ウン）　アノー、　デンドゴノ　ホーガラ
引かれて　（A　うん）　あの　台所の　ほうから

（A　ウン）　コー、　ヘァッテナー。
（A　うん）　こう　入ってな。

281A：ヨメコ゜ワ　デンドゴガラサ。（B　ウン）
嫁は　台所からね。　（B　うん）

ヌワノ　ホー　マッテ　シェラレダッタナ。
庭の　ほう[を]　まわって　入れられたな。

282B：ウン。　ソステ　エンダッケモナ。
うん。　そして　行くんだったものな。

283A：ウン。　オギャクサマダズ　ハー、（B　ウン）
うん。　お客様たち[は]　もう　（B　うん）

チョクセツ　ザスギノ　ホサ　ヘァル。
直接　座敷の　ほうに　入る。

（B　ソー　ソー　ソー　ソ。　ウン。　フン）
（B　そう　そう　そう　そう。　うん　うん）

ナーン　アー、　アレダッターナー　ゴシューキ゜
なあに　×　　あれだったね。　　ご祝儀[を]

スッテガラ　　アノ　オギャクサマダズヌ
してから[＝終わってから]　あの　お客様たちに

ケァラレダ　ドギァ　エズバン　サムスガッタナ
帰られた　　時は　　いちばん　寂しかったね

ナーンニモ　カンケ゜エデネァヨンタッタドモナ。
なにも　　考えていないようだったけれどもな。

(B　ウン　ウン　ウン　ウン　ウン)
(B　うん　うん　うん　うん　うん)

アノドギワ　ハ　　ナミダ　デギダッタナ。
あの時は　　もう　涙[が]　出てきたな。

284B：ソーラスナ。　　ウン　キーデモ
　　そうらしいな。　うん　聞いても

285A：サビスガッケナ　ヤッパリナ。
　　寂しかったな　　やっぱりな。

286B：ウン。　ドッカラ　キーデモ　ヤッパリ　キデモ　　ソーンダナ。
　　うん　　どっから　聞いても　やっぱり　聞いても　そうだな。

287A：ドゴサモ　デハッタ　ゴドァ　ネンダオンノ。
　　どこへも　出た　　ことは　ないんだもの。

（B　ウン　ウン　ウン　ウン　ウン）　ハースメデ、
（B　うん　うん　うん　うん　うん）　初めて

（B　ウン）　ホガノ　エサ　エングノダオン
（B　うん）　よその　家へ　行くんだもの。

（B　ウン　ホンットダ）　スッテ　オクッテキッタ　ソレ
（B　うん　本当だ）　そして　送ってきた　ほら

キョーンデァダズダノ　スンルインダズァ　ケァッテスマンベ。
姉妹たちだの　親類たちは　帰ってしまうだろう。

（B　ウン）　ナーン、ンジョニガ　スッタラ　エーンダンガナー、
（B　うん）　どのようにか　したら　いいんだかな、

アドサ　ノゴッテサ、（B　ウン）　アノドギァワ　サンビスナ。
あとに　残ってね　（B　うん）　あの時は　寂しいね。

（B　ウン）　ヒットノ　カオ　ミラエネァナ。
（B　うん）　人の　顔[を]　見られないね

（B　ウン　ウンダベナ）　ウン。
（B　うん　そうだろうな）　うん。

アノドギワ　イズバン　サンビスナ。
あの時は　いちばん　寂しいな。

288B：ウン。　ンダラ　アノー　オサン　ス　ドギァ
うん。　それなら　あの　お産[を]　する　時は

アレデァッタノガ　ソノー、　ア　サンバサンデ、
あれだったのか、　その、　×　産婆さんで

ソノコロワ　ソ
その頃は　×

289A：アノッコロァナ　オラァ　オサン　スッ　トギァ
あの頃はな　私が　お産[を]　する　時は

サンバ　ズノァ　ナガッタノ。　（B　ハー）
産婆　という人は　いなかったの。（B　そうか）

コナサシェ〔125〕　ッテナー、（B　ウン　コナサシェ）
子なさせ　といって　（B　うん　子なさせ）

ウン　（B　エガニモ）　ワンノーノ　X12ンズァ
うん　（B　確かに）　和野の　X12おじさんの

オフグロダ　フトァ　ジョーンズナ　ストンデサー、
おかあさんである　人は　上手な　人でね

（B　ハー）　アレァ　スナッパノ
（B　そうか）　あれは　砂場の

290B：ウン。　ソノ　メンキョノ　ネァ　シトダナ？
うん。　その　免許の　ない　人だな？

291A：ウン。　アレァ　X13バァ
うん。　あれは　X13おばあさん[が]

岩手 16-7

エッ　エッテッタナー。（B　ハハハー　ウン）
××　行っていたな。　（B　そうか　うん）

エンデガラヨー、（B　ウン）　アノシットーガ　エッタノ
飯豊からね　（B　うん）　あの人が　行ったの、

アノ　シュンドガガワ、（B　ハー）　メンキョァ
あの　姑は　（B　そうか）　[産婆の]免許は

ナガッタンダオン　（B　ウン）　ホンデモナ、
なかったんだもの。（B　うん）　それでもね

ジョーンズダッタンダモン。（B　ハー）　ソスッテ
上手だったんだもの。　（B　そうか）　そして

アレァ　エンナ〔126〕　ツンデ　アラッテナ、（B　ウン）
あれは　へその緒[を]　切って　洗ってね　（B　うん）

アノシトァ　ジョーンズダッタンダ。
あの人は　上手だったんだ。

（B　ハー　ハヤッタンダナ）　ウン
（B　そうか　評判がよかったんだな）　うん。

（B　ハー）　ソースッテ　アノーヒットーヌ、
（B　そうか）　そして　あの人に、

ヌンバンメモ　アノシトニ　アラッテモラッタンジェ
2番目[の子]も　あの人に　洗ってもらったぞ、

岩手 16-8

オラァ。（B　ハー）　X14モ。（B　ハハハハハ）
私は。　（B　そうか）　X14も。（B　そうかそうか）

ウン。（B　フーン）　アノシトニ　ヌッカイ
うん。（B　ふうん）　あの人に　　2回

ヤッテモラッテサ、（B　フーン）　サンッカイメノ　ドギァ
やってもらってね　（B　うん）　3回目の　　時は

ハー　シットリステ　ナスタノヨ。（B　ハー）
もう　[私]一人で　　生んだのよ。（B　そうか）

シ、　シトリダッタオノ。　（B　ハー）
×、[私]一人だったもの。（B　そうか）

ソスッテガラ　オレェノ　X10
それから　　私の家の　[長男の]X10[が]

ナナズダッタガナー、　　（B　ウン）
[あの時]7歳だったけどな。（B　うん）

オガァ　　ハラ　エデァ　ッテラッケ
「おかあさん[が]　腹[が]　痛い　って言ってるよ」

ッテ　アノ、（B　{笑}）
って　あの　（B　{笑}）

マルンゴダズノ　オンバサンサ　　エッテコ
「丸古立の　　おばあさん[のところ]へ　行ってこい」

ッテ　イャッタノー。　（B　ウン）
って　[お使いに]やったの。（B　うん）

オシェル　カシェデガラ。　（B　ウン）　ソースタラ
昼食[を]　食べさせてから。（B　うん）　そうしたら

ドーンデモ　エッタンダフンデ　オフグロァ
どうにかして　[長男が]行ったようで　母は

マルンデ〔127〕　ハシェデキタッタ。（B　ウン）
本当に　走ってきた。（B　うん）

ナンボックレァガ　エデンダガ　エダグ　ナット
どのくらい　痛いんだか、　痛く　なると

デルモンデネァガラナ、　（B　ウーン）
生まれるもので[は]ないからな、（B　うん）

ガギノ　ゴドダス、　オレァ　ハーシェデ〔128〕キタ
「子どもの[言う]　ことだし　私は　走ってきた」

ッテ　マルンデ　ハシェデキタッタ。
って。本当に　走ってきた。

16↑

岩手県遠野市1980注記

〔1〕オンバ

「名前＋オンバ」で，「～おばさん」。伯母・叔母という意味のほか，一般的な女性の呼び名としても使われる。ここでは，話し手A氏の妹のことを言っている。

〔2〕ゴダ

「名詞相当の語＋ゴダ」で，「～というのは」の意であると思われる。「～のことは」の縮約形か。

〔3〕オンズ

「名前＋オンズ」で，「～おじさん」。伯父・叔父，または次男以下の男子や，中年の男性の総称としてもよく使われる。ここでは，話し手A氏の妹の夫のことを言っている。

〔4〕ハー

もう。すっかり。副詞として句と句の間に用いられる。「ハ」などと短く発音されることもある。

〔5〕オストムゲ

「お人好し」の意か。

〔6〕ケァネー

劣っている。「ケネァ」「ケネ」とも言う。

〔7〕ムンゴデモ　トッテー

結婚でもして。「婿をとる」という言い方で，婿または嫁に行くこと，婿または嫁をもらうことの意味で使う。

〔8〕ササコ゜ヤ

笹小屋。みすぼらしい家。笹の枝や葉で造ったような簡単な小屋のこと。

〔9〕ベッケ

分家。別家。ここでは，別棟の一軒家を建ててやる，という程度の軽い意味である。

〔10〕ノサギ

遠野市土淵字野崎。

〔11〕オラー

私は。自称詞「オレ」に助詞「ワ」がついた形「オレワ」の助詞の子音が脱落し，母音のみが残った「オレァ」の縮約形。「オラ」とも発音されるが，自称詞単独の「オレ」とは発音上，明確に区別される。

〔12〕ヤズ

者。人。当該方言では必ずしも相手を見下すだけではなく，親しい相手，普通の人にも使う。

〔13〕ワガネ

だめだ。いけない。「ワガンネ」(理解できない) とは区別される。

〔14〕ンズ

という。引用に用いられる。「ズ」「ツ」「ッツ」などとも言う。

〔15〕デー

いて。もとの形は「イデ」で，「イ」が脱落したとみられる。

〔16〕メンガンワ

不明。「面眼」あるいは「目が」の「が」を「は」に言い直したとも考えられる。文脈としては，「お前を案じるからこそ決めた結婚相手だ。親の目には狂いはないからその家に嫁に行け」という意味。

〔17〕カッテケッ

「動詞連用形＋テ＋ケル（くれる)」で，「～してやる」の意。

〔18〕サゲタンデ

酒立て。結納。「サゲタデ」とも言う。「サケタンデスル」「サケタンデル」で，「結納する」の意。婚約の儀式の一つで，相手をもらい受ける家が相手方へ酒を持参し，婚約のしるしとする儀式。

〔19〕オリェ

私の家。「オレ＋イエ」。「オレャ」とも言う。

〔20〕キリノ　ギ

桐の木。昔は，女の子が生まれると桐の木を植えて育て，嫁入りする時はその桐の木で箪笥を作ってやるという風習があった。

〔21〕サンタヤ

三田屋。遠野市の老舗呉服店。

〔22〕シェンダング

着物。「セダグ」「セタゴ」とも言う。

〔23〕オンベンデラ

知っている。覚えている。もとの形は「オベデイダ」で，「オベデダ」「オベデラ」とも言う。

〔24〕オモレァオギャグ

おもらいお客。婚礼時に相手側に出向く主客。一般に，「オモレエサマ」「オモリャサマ」などと呼ばれる。伯父・伯母などの親戚夫婦が，もらい受ける側の主人の代理として，相手方の家に出向く。

〔25〕アレー

ほら。「アレ」とも言う。談話においては指示詞としての使い方ではなく，相手の記憶や注意を喚起するために用いられる。

〔26〕タラッコショイ

俵背負い。「タラ」は俵のこと。婚礼時に，俵を背負う係として相手をもらい受ける側の一行に参加する若者。行きはこまごまとした荷物を運び，帰りには一行の膳についた品や残りのごちそう，餅などを俵に詰めて持ち帰る。このほか，三三九度に使う清酒を運ぶ「タルッコショイ」（樽背負い）がある。

〔27〕タンスカズキ゜

箪笥担ぎ。婚礼時に，箪笥を運ぶ係として相手をもらい受ける側の一行に参加する若者。通常は二人一組で，衣類を詰めた箪笥に渡した棒を担ぐ。この箪笥の数で貧富の程度を言い合ったりしたという。このほか，布団を担ぐ「トゴセオイ」（床背負い）などの名称もある。

〔28〕オドモ

お供。婚礼時，もらい受ける側が相手を迎えに行く行列に付き添う人。

〔29〕フッタフル

２竿。当該方言では箪笥を「～フル」と数える。上下二つ重ねで「ヒトフル」となる。

〔30〕ケルホーデァ　カ゜

くれるほうが。嫁ぐ側が。「（くれるほう）では」と言ったあと，「（くれ

るほう）が」と言い直している。

〔31〕マニャボ

ここでは，嫁の付け人のこと。婚礼時に，もらい受ける人の弟妹や従弟妹が務めることが多い。小荷物を持つこともある。本意は，ごく内々に略式結婚した女房を指すという。

〔32〕オラホ

私のほう。当方。「オリャ」（私の家）とは区別される。

〔33〕マカ゜テ　ミダ

のぞき見した。「マカ゜テミル（マカ゜ッテミル）」で，「のぞき見する」の意。立ち寄って安否を問う時などにも使う。

〔34〕ウラッチャノマ

裏茶の間。曲り家のジョイ（常居）と座敷の間にある小部屋で，家人の寝室や物置きとして用いられることが多く，窓がない場合が多い。

〔35〕ソンゴンデ　ヨンメコ゜ンバ

裏茶の間に嫁を置いたのでのぞき見などできなかった，の意。

〔36〕オンバサン

おばあさん。伯母・叔母とはアクセントが異なる。「名前＋バ」で，「～おばあさん」。

〔37〕カミクムチョ

上組町通り。遠野市の中心部。

〔38〕ガッタルハンベー

がったり半兵衛。別名「ブッカレハンベー」「ガタガタハンベー」。旧・遠野町の三浦半兵衛氏の自動車業のこと。大正５年頃，ガソリンで点火し，薪のガスで走るエンジンを搭載した旧式の中古２ｔトラックを使って，三浦氏のこのトラックが周辺地域のタクシー兼宅配便の代わりを務めていた。遠野周辺ではとても有名で，「ブッカレハンベー　ガタハンベー」という囃し歌などもあった。名や歌詞の由来は，未舗装の凸凹道をガタガタと走る様子や，当時のトラックによく起こったエンジントラブルの様子などによるという。

〔39〕クツトリ

口取り肴の略。供応の始めに，吸物と一緒に出す皿盛りの料理。この地方では，祝儀の本膳に吸物（青菜・大根・ごぼう・豆腐・栗茸・アサリ），皿（刺身・玉子千切り・ことしらが・きくらげ・あかのり），壺（ホタテ・いものこ・椎茸・すだれふ），ほかに奈良漬け，飯などが用意される。

〔40〕ノーサギ

遠野市土淵字野崎。ここでは，婿の家の意味で使っている。

〔41〕フッタドリ

二振り。当地方の着物の数え方。

〔42〕ガガ

妻。女房。「ガガ　トッタ　ドキァ」で，「嫁をもらった時は，結婚した時は」という意味。

〔43〕トゴエレ

床入れ。婚礼の儀式で，宴席がたけなわの頃，新郎新婦，謡い手，カリムコ・カリヨメを務める親戚夫婦が寝室で行う。床に入る前に謡を行い，カリムコ・カリヨメが三三九度をし，横たわる婿・嫁の下に男帯・女帯を敷き，二人を包むように帯を結び，打ち掛けをかける。儀式の後，謡い手，カリムコ・カリヨメを務めた夫婦は宴に戻る。翌朝，起床する際に新郎新婦が帯を解くことで儀式として完成する。

〔44〕アサマガンズギ

夜明け。明け方。

〔45〕オナラ

大槌。地名。

〔46〕ウマカ゜マ

馬釜。馬の飼料を煮るための大きな釜。直径１ｍほどの釜が，曲り家のほぼ中心部にある内土間に地面に埋まった状態で設置されており，その上には神が祀られている。冬には，ここで馬を洗う大量の湯を沸かすほか，飼料や豆を煮ることもある。

〔47〕ソエガ

言うか。動詞「ソー」は，「言う，話す」の意。

〔48〕トッパジョサンネバ

取り落とさなければ。「トッパジョサ（動詞トッパジョスの未然形）＋ネ（否定の助動詞）＋バ（接続助詞）」。「トッパジョス」で「取り落とす（取り外す）」の意。

〔49〕ハラハラッタッタ

はらはらした。北東北方言では，「擬態語（擬音語）＋ッタ（ッテル，ッタッタ，ッテタ，ッテタッタ）」で，その状態にある（あった）ことを表す。この談話ではほかに，「ウルウルッテル」（ウロウロしている），「ナミナミッテル」（なみなみとしている）がある。

〔50〕マゲンデワ

こぼしては。動詞「マケル」は，「撒く（播く）」の他動詞として用いられる。

〔51〕ツクタ　サゲ

自分の家で作った濁り酒，どぶろくのこと。

〔52〕コカ゜コ

大型の桶。大桶。「コカ゜コ」「コカ゜コサゲ」は，大桶に作られた酒，つまり自分の家で作った濁り酒，どぶろくを指すことがある。

〔53〕シシテ

一日中。「ヒヒテ」とも言う。

〔54〕ダース

だし。通常は「ダス」と発音される。都合のよい手段，口実のこと。ここでは，宴席を開くための口実として親類たちに嫁と婿（つまり婚礼）が使われた，という意。

〔55〕ワレエンド

自分たち。我々。「～ド」は「～たち」の意味で，「ダチ」「ダズ」「ダツ」「ダ」「ダー」などと発音される。

〔56〕スカグ

酸っぱく。形容詞「スカイ」の連用形。

〔57〕グヤメガエダリ

愚痴や小言を言われたり。「グヤメグ」は「愚痴や小言を言う」の意。

〔58〕ヤマクゞズ

山口。地名。土淵の字名。Bは，「山口（Aの実家）から婚礼行列が来る時には，箪笥担ぎたちがご祝儀の主役として，野崎（Aの嫁ぎ先）に来る前から酒を飲んで大騒ぎをしながら歩いてきたのだろう」というようなことを話している。

〔59〕カグマギ

角巻。四角形の毛布で，主に女性の外出用の防寒毛布として，身体に巻きつけたり頭からかぶったりして腰までを覆うストールとして使う。ここでのように，掛け布として使う場合もあった。

〔60〕ヌカゞズクンダリ

2月下り。2月下旬の意。

〔61〕サンズン

3寸。約9 cm（1寸は約3.03cm）。ここでは，Aが履かされた足駄の歯が約9 cmと高いものだったという話である。

〔62〕ヨージャス

両差し。花嫁が，高島田に結った髪の両方に差す髪飾りで，当時はべっ甲の立派なものだった。

〔63〕スズダカダマ

ありったけ。「イチダン」（1駄）とは，4斗入り米俵（4斗俵）を馬の背の両側に1俵（約60kg）ずつ結わえつけたもののことだが，スズダは7駄のことで，計14俵。「カダマ」は「カタウマ」，つまり片馬のことで，1駄（2俵）の半分の1俵。「スズダカダマ」は15俵で，5人家族が2年間ほど食べていけるほどの量となるが，そこから，「たくさん，どっさり」という意味で用いられる。なお，1駄はものによって異なり，米の場合は4俵，馬に使う秣や茅などは6個で1駄と呼ぶ。

〔64〕ボカゞ　フガネワネァ

「ホカゞ」は，嘘。「フガネワネァ」は，吹かねばならない。「フガネバネァ」とも言う。「ボンカゞ　フグ」で「嘘をつく」の意。

〔65〕ミミンズロ

耳白。昔，もんぺや男物の股引などを作った黒木綿の布地で，端に白い

線がついていたことから耳白と言う。

〔66〕モンペ

もんぺ。主に女性が用いる野良着の下衣で，裾がすぼまっているズボンの一種。着物の上から履き，腰のあたりで袴のように結ぶ。

〔67〕ナカ゛ミンツカ

裾が短めの着物。膝くらいの丈の着物のこと。仕事着のほかに，よそゆきなどでもこの長さの着物があり，作業やぬかるみの徒歩の際に便利な長さであった。

〔68〕キンク゛

『キング』。講談社の大衆向け月刊総合雑誌。1925(大正14)年創刊，1943(昭和18)年に『富士』に改題，1957(昭和32)年廃刊。

〔69〕モドスグ

本宿。土淵町内の地名。

〔70〕タントーグ

担当区。営林署の駐在員が駐在していたところ。林業は，遠野の主要産業でもある。

〔71〕キギワダサ

不明。文脈から，夕食時のことか。

〔72〕ウルウルッテ

ウロウロして。「ウロウロッテル」で，「ウロウロしている」の意。

〔73〕サガム

叫ぶ。大声でしかる。「サガブ」とも言う。

〔74〕ジョーメァ

正面玄関。錠前のこと。「ジョノグズ」(錠の口) とも言う。

〔75〕コーヤッテ

こうやって。Aは，逃げていこうかそれとも家に入ろうか，という身振りをしている。

〔76〕シェシェー

不明。「セセ」(スルの命令形を2回繰り返す) か。

〔77〕シェズシェズノ

節々の。季節ごとの。

〔78〕アダコ゜サマ

愛宕神社（火防の神様）の縁日。

〔79〕ワンノ

和野。土淵町山口の地名。

〔80〕ヨミヤ

宵宮。お祭りの前夜祭で，神楽や饗応が行われる。

〔81〕アサナカ゜ス

朝流し。朝食前の軽い食事のことで，団子，キリセンショ（粉を小判型に練って黒砂糖と胡桃を入れ，胡麻をかけたもの），カニナリなど。結いの当番が田畑に持ってきて，畑などで慌ただしく食べることもあった。「アサノカ゜ス」とも言う。もとの語形は朝の菓子か。

〔82〕オマッコツナキ゜

馬繋ぎ。田植えのあと，旧暦6月15日に，農作業を休んで行われる行事。早朝に，20cmほどの2頭（乗用と荷付け馬）の藁製の馬（または版木で紙に刷った馬）と，藁包みにオシトネを入れたものを，田の水口・畑の畦頭・分かれ道の角などに置く。

〔83〕アラモド

荒もと。砕け米。唐臼で米を製粉した際に，コロシ（小さい網目の篩）に残る荒い米粒のこと。料理に使う。

〔84〕オギリ

火種。残り火。釜，こたつなど，炭を使い終わった時に残しておく小さな火種のこと。

〔85〕ソナンダ

「そうなんだろう」の意。東北北部の談話では，「ソーナンダ」「ソナンダ」「フンナンダ」などが推量表現として用いられることがある。

〔86〕ツルベインド

つるべ井戸。滑車や石の重りで桶を上下させ，水を汲みあげる井戸。

〔87〕エンド

井戸。井戸水を汲み置くことから，大桶（コカ゜）を指す場合もある。

〔88〕カズキ゜ボー

天秤棒。肩にかけて物を運ぶ棒のこと。

〔89〕キッカゲ

土寄せ作業。畑の畝の間の土を鍬で起こす作業。「ツチカケ」「ホッカゲ」とも言う。

〔90〕ユルグネエ

苦しい。たいへんだ。

〔91〕タガギ

田掻き。田起こし。水を入れた田の泥を柔らかくして田を起こす作業で，正式には「チューコー」（中耕）と呼ばれる。その前にアラオゴシ（荒起こし），馬に引かせた細い針のような器具でのハロカギ（田砕き）をし，水を入れたあとでタガギ（田掻き）に至る。タガギのあとで，オタウエ（田植え）を行う。

〔92〕サシェドリ

させどり。田起こしの作業の一つで，通常，二人一組の夫婦などが行う。一方がマンガ（ウマボイに使う長い鋤のようなもの）で鋤鍬を引かせた馬を追い，もう一方が馬の手綱を取って泥田の中を歩く。一方は田の外から全体を見ながらもう一方に指示を出すのだが，水の中で歩き回る者との間に作業の進め方に食い違いが生じ，けんかになることが多かったという。

〔93〕ゴシェッパラヤゲル

腹が立つ。しゃくにさわる。

〔94〕ユーギン

力む。荒声を立てること。怒ること。「ユギム」とも言う。

〔95〕ヨゴアスゼン

横足膳。毎日の食事の時に使われる一人用の食膳で，横長の足が2本ついている。

〔96〕コー　ヘッテ

このあたりでは，四角い横足膳を田に見たて，その上を箸でなぞりながら，母が嫁ぐ娘にサシェドリの方法を教えたということである。

〔97〕エヌェデレバ

動いていれば。「エヌグ」は，「動く」の意。

〔98〕マブッテ

守って。「マブル」は，「守る，見張る」の意。

〔99〕シェンドナ

先だって。この間。

〔100〕サカッデァ

酒代。こづかい銭。

〔101〕ズェースットモ

ぜひとも。絶対に。必ず。

〔102〕アドノゲァリガラ

今度の次からは。しまいには。もとの形は「アドノカエリガラ」。

〔103〕エスホドゲ

石仏。田と田の間の，やや広くなっているところなどに，立っている墓石のことで，この地方では，よく見かける風物である。

〔104〕タ　オギッデ

田が起きて。「タ　オギル」で新しく田が作られること。

〔105〕ジャー

共通語の「ええっ」「それはそれは」「そりゃたいへんだ」などを意味する嘆声。よい場合にも悪い場合にも使う。

〔106〕ツマコ゜

藁靴。藁で編んだ雪靴のこと。

〔107〕ハンズァ　ワリ

きまりが悪い。ばつが悪い。

〔108〕ヤダコ゜ヤ

飼料小屋。牛馬の飼い葉を保管する部屋で，曲り家の厩部分の土間にある2～3㎡程度の小さな板の間のこと。そこに，与えるばかりに切って

おいた数日分の飼い葉を保管しておく。

飼い葉は，ノギハ（軒下）や梁に掛けて乾燥させたあと，厩の2階に積んでおき，与える2週間ほど前までに降ろして，一度に数日分を切り刻み，稗・粟などと合わせてヤダコ゜ヤに積む。

〔109〕ヤダキ゜リ

飼料切り。飼い葉を切る作業を指す。

〔110〕エマッコロサ

今頃に。録音は8月上旬だったので，夏の盛りのことを言っている。

〔111〕シットマル

大束の1束。「ヒトマル」「ヒトマルギ」とも言う。「マル」は，ツナギ（120cmの藁ひも）でマルゲル（結べる）程度の束で，ホタバ（直径15cmほどの小束）の12〜16束を合わせた大きな束。動詞「マルグ」（ガ行五段活用。可能動詞「マルゲル」も用いられる）は，「束ねる」の意。ここでの作業は，馬に与える朝草を刈ることで，農家ではこれを「朝飯前の仕事」と言って，どこの家でもやっていた。朝露にぬれた新鮮な朝草は，牛馬の大好物である。

〔112〕タネァンデ

担いで。「タナグ」は「担ぐ，持ち上げる」の意。

〔113〕マルナ

大束のもの。乾燥していない草は体積も重さもあるので，大束（マル）にして人間が背負えるのは通常はせいぜい二つだが，ここでは，舅が相当大きなマルを背負っていたという。

〔114〕ホラメェ

曲り家の角の内側を「ホラ」と言い，「ホラメェ」とは「ホラの前」を指す。通常，ホラの左側には曲り家の中心部にあるニワ（土間）に続く入り口の一つがあり，入ると左に厩，右に台所や常居・茶の間，奥座敷，大座敷，床の間がある。正式な玄関はホラの右側に，別に設置されている。

〔115〕ホッカゲ

土寄せ作業。「キッカゲ」と同じ。

〔116〕タノマレテー

（自分に）頼んでほしい。（自分が）頼まれたい。東北方言では受身表現で「～てほしい」の意味を表すことがある。

〔117〕オダズ

お発ち。ここでは，婚礼行事の一つで，もらい受ける側が相手方の家を出る時，酒を振る舞われることを指す。一般には，調子づいて大騒ぎをすることも言う。

〔118〕オマワリ

お回り。「オンマワリ」とも言う。祝儀の後半，客が帰る頃に振る舞われる酌の儀式。大きな器に酒をなみなみと注ぎ，それを少しずつ飲みながら，隣の人へ次々に回す。酒は普通の酒だが，容器は大きなわんや掌大の大きな貝で，底に穴が空いており，穴を指で押さえて酒がこぼれないうちに飲みほす。何回も回ってくる杯を全て飲みほすのはたいへんなので，屋外で行う際には穴を指で押さえずにこぼしながら飲んだふりをする場合もあったという。

〔119〕エズコ゜ーゴシェギ

１合５勺（約0.27リットル）。１合は約0.18リットル，１勺は１合の10分の１。

〔120〕コカ゜ッコアレェ

どぶろくを飲みほすこと。どぶろく酒が入った大桶（コカ゜）を洗うように酒を飲みほすことを指す。

〔121〕アドシギ

婚礼の儀式のあとの，披露宴のこと。「アドーオシギ」とも言う。

〔122〕トリモズ

とり餅。つきたての餅をまるめたものだが，鏡餅よりは小さめのもの。

〔123〕チューンジャサマ

中座様。婚礼の宴の進行役であるとともに，宴が賑やかになるよう，芸能の司会や主役も務める。両親ではなく，オモレァサマの次席にあたる親族が務める。宴の前に夫婦の契りを交わす時，清酒入りの２樽を合わせて三三九度に使うなどの役目があり，婚礼のしきたりをよく覚えてい

る必要がある。

〔124〕ヤナムネ

やな棟。藁ぶき屋根のてっぺんに，雨よけのために細長く作ってかぶせた木の屋根。

〔125〕コナサシェ

子なさせ。子どもを生ませること。このあたりでは，子どもを生むことを「コ［オ］ ナス」と言っている。

〔126〕エンナ

へその緒。「エナ」とも言う。

〔127〕マルンデ

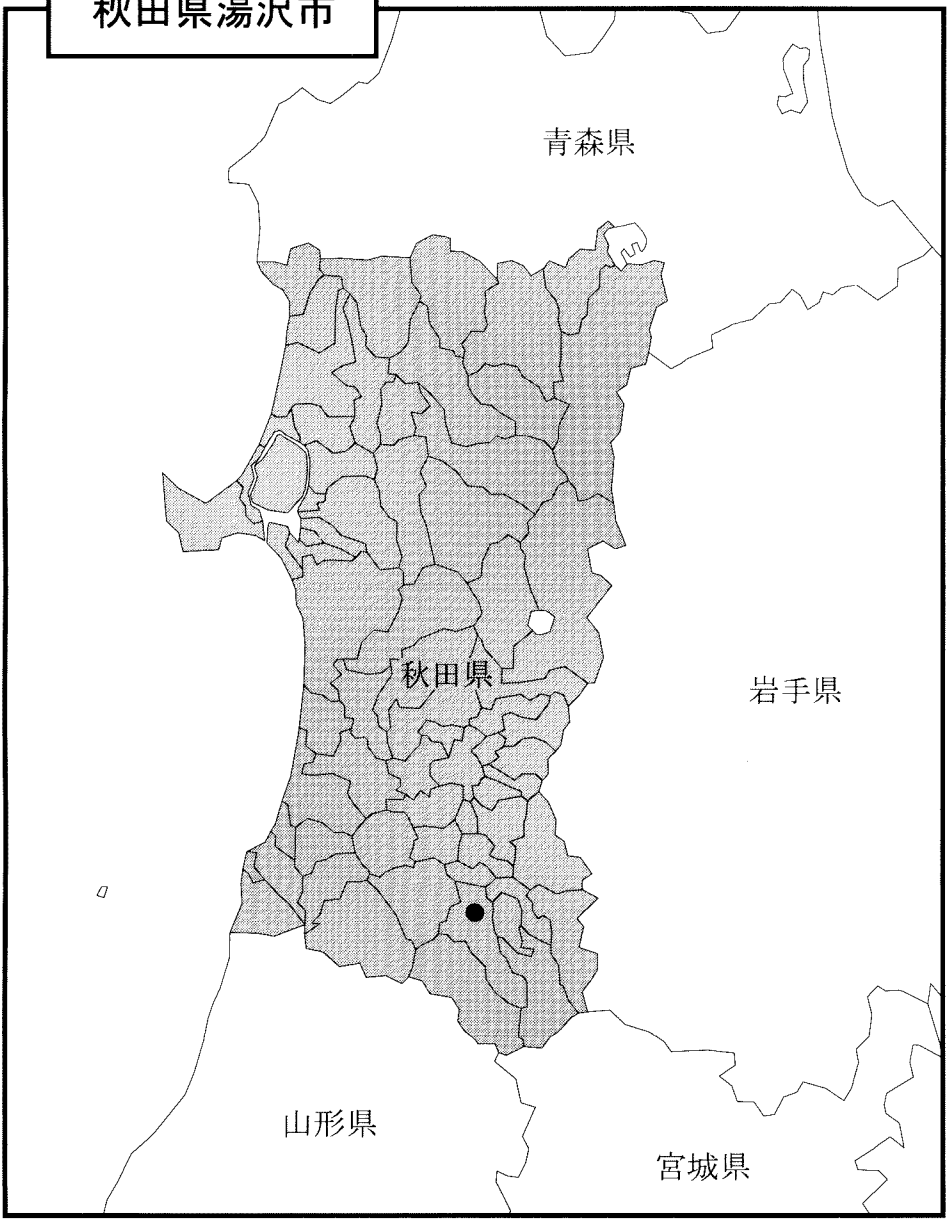
本当に。

〔128〕ハーシェデ

走って。「動詞ハセル＋助詞テ」。

Ⅱ．秋田県湯沢市
1977

秋田県湯沢市



秋田県湯沢市1977話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	伊藤 ナカ
	伊藤 ヨシノ
	佐藤 久四郎
収録担当者	高橋 旭兵
文字化担当者	高橋 旭兵
共通語訳担当者	高橋 旭兵
解説担当者	高橋 旭兵

（敬称略　項目別50音順）

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	佐々木 一枝
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

秋田県湯沢市1977解説

収録地点名　秋田県湯沢市角間

収録地点の概観

位置

秋田県は，大きく県北・中央・県南の三つの地域に分かれる。湯沢市は，県南内陸部の横手盆地の南端に位置する。

交通

湯沢市は，県南の中心地である横手市から奥羽本線で南へ30分のところにある。また国道13号線が市内を走っている。

地勢

横手盆地の南端に位置し，東は奥羽山脈の断層崖に面し，西は雄物川が北上している。鉦打沢川によって作られた扇状地上に立地し，典型的な内陸性気候で積雪量も多い。

行政区画

1889(明治22)年，町村制施行により，湯沢町が設置された。1954(昭和29)年，近隣の岩崎町，山田村，三関村，弁天村，幡野村と合併して湯沢市となった。1955(昭和30)年，須川村を合併した。

戸数・人口

1978(昭和53)年1月末現在，世帯数10,209戸，人口38,385人。

産業

豊富な森林資源を背景とした木工業が古くから盛んである。農業も産業において大きな比重を占めており，良質の米や清酒の産地として知られている。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

秋田方言は，雄物川沿いの秋田方言，米代川沿いの鹿角方言，子吉川沿いの由利方言の三つに大きく分類される。湯沢市のある雄物川上・中流沿い（行政区画上は仙北，平鹿，雄勝の3郡）の方言は南部方言と呼ばれ，雄物川下流の

秋田市中心の方言とともに秋田方言に分類される。

音韻

（1）「イ」と「エ」との区別がない。

エシャ（医者）

カエコン（開墾）

（2）母音の交替が見られる。

ウ → イ

キソリ（薬）

ウ → オ

キソリ（薬）

オーノマ（大沼）

オ → ア

ミダナデ（見たので）

アッタナダ（あったのだ）

オ → イ

アシブ（遊ぶ）

オ → ウ

マナグ（眼）

ヌル（乗る）

フルシギ（風呂敷）

（3）「アイ」「アエ」が「エァ」となる。

タゲァ（高い）

トラネァ（取らない）

ネァ（苗）

メァ（前）

（4）「オイ」「オエ」が「エ」となる。

クレ（黒い）

キゲル（聞こえる）

（5）「イエ」が「エ」となる。

メル（見える）

ケル（消える）

（6）「ウイ」が「イ」，「ウエ」が「エ」となる。

サミ（寒い）

ヌギ，ヌゲ（暖かい）

ケ（食え）

（7）語中・語尾のカ行音・タ行音が濁音化する。

ムガシ（昔）

サゲ（酒）

カダ（肩）

（8）清音化する語が認められる。

ハシマル（始まる）

アンチコド（心配事）

（9）語頭以外のガ行音は，鼻音で発音される。

ハリカ゜ネ（針金）

オナコ゜（女子）

（10）入りわたり鼻音が観察されることがある。

カ゛ンジェ（風，風邪）

マ゛ンダ（まだ）

ナ゛ンベ（鍋）

（11）「シ」と「ス」，「チ」と「ツ」の区別がない。

シシ（鮨）

シシ（煤）

チジ（筒）

チノ（角）

（12）「セ」を「シェ」「ヘ」，「ゼ」を「ジェ」と発音する。

シェゲン（世間）

シェンシェ，ヘンヘ（先生）

カ゛ンジェ（風，風邪）

（13）「ヒ」「ヘ」を「フィ」「フェ」と発音することがある。

フィ（火）

フェンビ（蛇）

(14)「レ」が「エ」,「ワ」が「ア」と発音される傾向がある。

ソエ（それ）

ユアエダ（言われた）

オーサアギ（大騒ぎ）

(15) 長音・促音・撥音が短く発音されたり，脱落したりする。

ウンドバ（運動場）

アテミレ（会ってみろ）

シンブ（新聞）

文法

（1）主格助詞「が」，提題助詞「は」は省略されるか，前接する語と融合する。

ヌグミ　アレバヨ（暖かさ［が］あるとね）

ミンジア　キテ（水が来て）

アンメァ　フテコエバ（雨が降ってくれば）

ジゾサンナ　チデエタ（地蔵さんが連れていった）

（2）対象格助詞「を」は省略される。また，主に人間に用いられる対象格助詞「ドゴ」がある。身近な動物に人格的なものを認める場合も「ドゴ」が使える。

オメァドゴ　ムシサエネァ（あなたを無視しない）

オレァドゴ　ハダエダ（私をなぐった）

アマリ　ネゴドゴ　カモウナ（あまり猫をかまうな）

（3）方向を示す格助詞は「サ」である。

ガエコグサバリ　エテダベッタ（外国へばかり行ってたろう）

（4）受身文の動作主を表す表現として「ニガッテ」が用いられる。

オメァニガッテ　ユアエダ（あなたに言われた）

（5）連体格の「ヌ」がある。

ナシヌ　ギ（梨の木）

リンゴヌ　ギ（リンゴの木）

（6）副助詞として「グレァ」（くらい），「タゲ」「ダゲ」（ほど），「バリ」「バシ」（ばかり）がある。

ゴカ゜ングレァノ（護岸くらいの）

オモシエダゲ（おもしろいほど）

チジムダゲ（縮むくらい）

ミジチギニバシ　アテ（水害にばかり遭って）

（7）形式名詞（準体助詞）に「オノ」「ゴデァ」がある。文末詞的に用いられることもある。

ドデコニ　ナテルオノ（土手になっているもの）

ユアレダオナ（言われたものね）

オレァ　アシタ　エグゴデァ（私が明日行くよ）

ワー　ヤッテミルゴドンダゴデァ（自分でやってみることだ）

（8）五段活用動詞連用形のイ音便・促音便は脱落する傾向にある。

ミンジァ　チデキタ（水はついてきた［＝水浸しになってきた］）

エサ　エテ（家へ行って）

（9）一段活用動詞の命令形は仮定形と同じ「～レ」となる。

オキレ（起きろ）

ネレ（寝ろ）

(10) 一段活用動詞，カ変動詞に使役の助動詞がつく場合，動詞がラ行五段活用未然形と同じ形をとり，「～ラシェル」の形をとることがある。

キラシェル（着させる）

オボラシェル（覚えさせる）

コラシェル（来させる）

(11) サ変動詞「シル」（する）の否定形は「サネァ」「シネァ」，意志形は「ソ」（しよう），連体形は「シル」「シ」，条件形は「シェバ」，命令形は「シェ」「シエタ」となる。

(12) カ変動詞の仮定形は「コエ」「ケーバー」（来れば），命令形は「コエ」「ケー」（来い）となる。「ケーバー」「ケー」はあまり用いられない。

(13) 形容詞は，それ自体では活用せず，終止形に直接助詞や助動詞がつくことが多い。

シレー（白い）

シレ　ハナ（白い花）

シレバ（白ければ）

シレベェ（白いだろう）

シレグネァ（白くない）

シレクテ（白くて）

(14) 形容動詞も，それ自体では活用せず，終止形に直接助詞や助動詞がつくことが多い。

キレーダ（きれいだ）

キレーダ　シト（きれいな人）

キレーダンバ，キレーダゴッタバ（きれいならば）

キレーダベ（きれいだろう）

キレーダッケ（きれいだった）

キレーニ（きれいに）

(15) 過去・過去完了は「タタ」「ダタ」「テァッタ」などで表す。

オメァモ　イッタタガ？（あなたも行ったか）

ソインタ　ドゴニ　エダタンダナー（そういったところにいたんだね）

アコナ　エニ　アッテァッタゴデァ（あそこの家にあったことだ）

(16) 意志の助動詞は「ベシ」「ロー」である。

シヌベシ　ダテ（死のうと言って）

ニゲァサ　アカテロア（2階へ上がっていよう）

(17) 推量・推定の助動詞に「ベ」「ベシ」「ベタ」「ラシ」「ベデァ」「ゴデァ」などがある。「ベタ」は「ベ」「ベシ」より確認の気持ちが強い。

キソリモ　ネァガタベシ（薬もなかっただろうし）

モテキタナダベタ（持ってきたのだろう）

ワガルベデァナ（わかるだろうね）

ンダゴデァナー（そうだろうね）

(18) その他，次のような助動詞がある。

ベゴエ　ニダエンタオンダノモ（牛に似たようなものだが）〈比況〉

クンモミデァンタ（クモみたいな）〈比況〉

イッタド（行ったそうだ）〈伝聞〉

ユキ　フルドナ（雪［が］降るそうだ）〈伝聞〉

ハシテエタ　テ　ユーケド（走っていったと言ったそうだ）〈伝聞〉
ミダジョーナ（見たそうだ）〈伝聞〉
ミンジ　テ　ユー　オダケジョン（水というものだったそうだ）〈伝聞〉
ムジガシガタチケナ（難しかったということだったね）〈伝聞〉
ハヤグ　ミデァ（早く見たい）〈願望〉

(19) 逆接の接続助詞に「タテ」「ダテ」「ナッテ」「ノモ」などがある。
クァネァタテ（食わなくても）
ミジダダテ（水［害］であっても）
コゴサ　チガネァダテ（ここがつからなくても）
エマナッテ　カワラネァ（今だって変わらない）
ネァグナタベノモヨ（なくなったろうがね）

(20) 原因・理由の接続助詞に「ナデ」「ガラ」「エンテ」「ドテ」などがある。
ミダナデ（見たので）
ヤンブレダガラ（破れたから）
ショーバエダエンテ（商売だから）
ササレルドテ（刺されるから）

(21) 仮定条件を表す表現が多様である。
ムガシナンバ，ムガシダンバ（昔ならば）
オンベデララ（覚えていたら）
オンベデラバ（覚えていれば）
オンベデラケァ（覚えていたら）
オンベデルゴッタラ，オンベデルエンタラ，オンベデルエンタバ
（覚えているなら）

(22) 文末助詞には次のようなものがある。
オンベダガ（知っているか）〈質問〉
メルゲァ（見えますか）〈丁寧な質問〉
ンダガタオナヤ（そうだったものね）〈同意要求〉
ヤッパシヨ（やっぱりね）〈詠嘆〉
オカネァガタデァ（こわかったなあ）〈詠嘆〉
エデナヤ（いてね）〈確認〉

シタバシャ，シタバシァ（そしたらね）〈強調〉〈念押し〉

(23) 連体詞，接続詞は語形の縮約によってできたものが多い。

ナタゴド（どういうこと）

ソンタオダ（そういったものだ）

ソインタオノシカ（そういったものしか）

シテ（そして）

シエバ（そうすれば）

シタバシャ（そしたらさ）

シタンバ（そうしたら）

ンダノモ（そうだけれども）

ンダダテ（そうであったとしても）

語彙

（1）自称の代名詞は「オレ」「オエ」「オラ」を用いる。助詞「の」「は」「が」が続く場合は，「オレァ」となることが多い。

（2）対称複数の代名詞として「オメァダ」を用いる。

（3）「あやつ」「あいつ」「きゃつ」（彼奴）から転じたと言われる「シャジ」が「そのこと」「そのもの」の意で用いられる。

（4）指小の接尾辞「コ」が盛んに用いられる。

太郎コ

鳥コ

（5）擬声語・擬態語に断定の助動詞「ジ」「デ」「デァ」がついて形容動詞となる。

テカテカジ（テカテカだ）

デンデンデ，デンデデン（すっかり）

（6）「たもれ」から転じたと言われる尊敬の依頼表現「タンシェ」「タンエ」「タエ」がある。

ミデタンシェ（見てください）

トテタエ（取ってください）

（7）その他，特徴的な表現に次のようなものがある。

シキラジ（ひっきりなしに）

ベァッコ（少し）
ナンジモ　シェネァ（なんともできない）
シタニ，シタエ，ソタダエ（そんなに）
ナンデカンデ（必ず）
ナジシテシァ（どうしてもね）
ソタダニナ（それほどにはね）

（以上の解説は，基本的に，「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿による。）

秋田県湯沢市1977凡例

談話資料は，方言談話音声，方言談話音声の文字化，方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには，ページ単位で切った方言談話音声を，CDには，方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し，方言談話の共通語訳は，漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは，対照ができるように，上下２段を１組として示した。上段が文字化，下段がその共通語訳である。

文字化については，表音的カタカナ表記を用いている。つまり，長音は「ー」で示し，助詞「は」は「ワ」，助詞「を」は「オ」，助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ゜」「キ゜」「ク゜」「ケ゜」「コ゜」はガ行鼻濁音を表す。

また，分かち書き，句読点などは，便宜的なもので，厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における，方言談話音声の文字化の方法は，後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし，今回，「全国方言談話データベース」として公開するにあたり，文字化・共通語訳を整備する際には，当時のマニュアルにはとらわれず，読みやすさ，意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また，この文字化は，時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって，発話の重なりや，複線的な会話の進行の構造が，文字化からは読み取れない。データを使用する際には，文字化・共通語訳を見るだけではなく，実際に，音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している，話者が交替するまでの連続した発言を１発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号　　〈半角〉

発話の通し番号を，各発話の話者記号の前に付した。

例：１Ａ

話者記号　　〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。（句点）　　〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス　　ソーデス

そうです。　そうです。

、（読点）　　〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？　　〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

↓　　〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ　ヤッタンダナー↓

よく　やったんだな。

（　）　　〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり，口をはさんだりした個所。

（A　……）のように，開き括弧の次にあるアルファベットは，発言している話者を示す。（　）の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお，（　）内のあいづちと，独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：（A　アー　ソーデスカ）

｛　｝　　〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：｛笑｝

｛咳｝

｛手を叩く音｝

×××　　〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム　ム　ムツカシー

×　×　難しい

＊＊＊　　〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

／／／　　〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ　モジナンデスナ、

／／／／／「文字」なんですね。

［　］　　〈全角〉

方言音声には出てこないが，共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン　　ノセテ

みかん［を］　乗せて

＝　　〈全角〉

［　］内の＝は，意味の説明や，意訳であることを示す。

例：イマ　ユー

今　　いう［＝今話題にあがった］

｜　｜　　〈全角〉

注意書きなど。

例：｜Aに対して｜

〔　〕　　〈全角〉

注記。方言形の意味・用法，特徴的音声などについて説明し，文字化・共通語訳の後にまとめてある。〔　〕内の半角数字は，注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ〔1〕

音声

CD-ROMには，冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに，方言音声をリンクさせていて，各ページにある再生の部分をクリックすると，そのページの音声を聞くことができる。

CDには，談話全体の音声を収録している。以下にあげるように，適当な個所で，トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは，方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「秋田17-1」はCDトラック番号が17で，その1ページ目ということである。「秋田17-1」「秋田17-2」……「秋田17-9/18-1」……「秋田25-6」

のように表示される。

また，文字化・共通語訳部分には，CD のトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し，その両側の数字はトラック番号である。↑17，17↑18，……24↑25，25↑のように表示される。

第 2 巻の CD（72分41秒）には，秋田県湯沢市の談話，【水害，ツツガムシ，地域の昔の様子】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラック No.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
17	p. 197・ℓ. 1	p. 205・ℓ. 5	0:02:59
18	p. 205・ℓ. 7	p. 212・ℓ. 15	0:03:04
19	p. 212・ℓ. 17	p. 220・ℓ. 15	0:03:04
20	p. 220・ℓ. 17	p. 228・ℓ. 1	0:02:59
21	p. 228・ℓ. 3	p. 235・ℓ. 3	0:03:00
22	p. 235・ℓ. 5	p. 240・ℓ. 7	0:02:55
23	p. 240・ℓ. 9	p. 246・ℓ. 13	0:03:02
24	p. 246・ℓ. 13	p. 254・ℓ. 15	0:03:03
25	p. 254・ℓ. 17	p. 259・ℓ. 17	0:01:43
計			0:25:49

秋田県湯沢市1977談話

収録地点　　秋田県湯沢市角間（あきたけんゆざわしかくま）

収録日時　　1977(昭和52)年11月13日

収録場所　　秋田県湯沢市角間　角間会館

話題　　水害，ツツガムシ，地域の昔の様子

話者

A	男	1898(明治31)年	(収録時79歳)	農業
B	女	1904(明治37)年	(収録時73歳)	農業
C	女	1909(明治42)年	(収録時68歳)	農業

調査者

D	男	1937(昭和12)年	(収録時40歳)	教員

収録時間（CD）　　25分49秒

秋田 17-1

【水害，ツツガムシ，地域の昔の様子】

話し手

A	男	1898(明治31)年生	(収録時79歳)	
B	女	1904(明治37)年生	(収録時73歳)	
C	女	1909(明治42)年生	(収録時68歳)	
D	男	1937(昭和12)年生	(収録時40歳)	調査者

1 B：マジー　ムガシナンバ　シキーランジ
まあ　昔は　ひっきりなしに
↑17
ミジチギ〔1〕ニバシ　アテ　ホントエ　カエコン
水害にばかり　遭って　本当に　開墾[をして]

ツグテラ　シトラジ　フィンドエガタゴデァ
[田畑を]作っている　人たち[は]　たいへんだったでしょう

2 A：ンダ　ンダ
そうだ　そうだ

3 C：ンデァタンダナ
そうだったろうな

4 B：マジ　アダリメァニ　(A　アンシナネァガタオン)
まあ　あたりまえに　(A　安心できなかったもの)

アダリメァニ　サグトル　チュ　ゴドダンバ
あたりまえに　収穫する　という　ことは

ホントエ　ネァガタラシ
本当に　なかったらしい

5 A：ンダガラ　アンシナネァガタタ　（B　ン）　ンデァタ
だから　安心できなかったのだ（B　うん）そうだった

6 B：オレァエノ　トショリダジー　エダ　ジキナバナ
私の家の　年寄りたち[が]　生きていた　時ならばね

（C　ン）　コノコ゜ロナンバ　マンジ　アンチコドァ
（C　うん）最近は　まあ　心配事は

ネァグナタベノモ　マジ　アノ　ミジ　シトチ
なくなっただろうけれど　まあ　あの　水[を]　ひとつ[＝ちょっと]

ミダナデ　オラナ　ホントエ　フルタ
見たので　私など　本当に　震えた

7 A：ナジシテシァ　カワノ　フジノ　カダメガダ〔2〕ー
どうしてもね　川の　縁の　護岸のしかたは

ムガシダバ　ア　ネァガタダオン　（B　ンー　ン）
昔は　×　なかったもの　（B　うん　うん）

ソタダニナ　ゴカ゜ングレァノモンデシャ　（C　ンー　ンダ）
それほどにはね　護岸くらいのものでね　（C　うん　そうだ）

アーユ　オーギダ　テーンボモ　ネァベシヨ
ああいう　大きな　堤防も　なかろうしね

8 C：ンダガタオナヤ
そうだったものね

9 A：ヤブレ　シデァニ　ヤンブレダガラ
[川の縁が]破れ　次第に　破れたから

アンシナネァガタアゲヨ　(B　ンー)
安心できなかったわけよ　(B　うん)

10C：ンーダ
そうだ

11A：ンダ　ハダゲノ　サーグ　サンネニ　エジドシカ
そうだ　畑の　収穫[は]　3年に　1度しか

トラエネァド　シタモンダオン　(C　ン)
とれないと　していた[=考えていた]ものだもの　(C　うん)

12B：ホントエ　トルエネァガタンダナ
本当に　とることができなかったんだね

13A：ンダ　ンダ　トルエネァガタ　(B　ン)
そうだ　そうだ　とることができなかった　(B　うん)

14C：ンダタンダナ
そうだったんだね

オラ　オベデ〔3〕ガラノ　ミジダダテ
私[が]　物心がついてからの　水[害]であって

ナントシテ　ンマ　トロンノ　ハダゲサ　ウエダ　ナシヌ　ギー
なんと　沼[の]　ところの　畑に　植えた　梨の　木が

デンデンデン〔4〕　ミナ　ナガ゜サエダアトナ　ン
すっかり　全部　流されたものね　うん

15A：シェーッカグ　エグ　シジ　シジゲレバ
せっかく　よく　××　[作物を]据えつける[＝植えつける]と

ミンジア　キテ　デラリ　ンメラエダリ　ナガ゜サエダリ　シテシァ
水が　来て　すっかり　埋められたり　流されたり　してね

16B：ホーントエ　アノジ　アノ　アノ　ミンジチギニ　アテガラナンバ
本当に　×××　××　あの　水害に　遭ってからは

オラー　シモサ　エタ　ゴドァ　ネァオノ　（A・C　ン）
私は　下へ　行った　ことは　ないもの　（A・C　うん）

マージ　ミデァグネァフテハ　（C　ンーダ）
まあ　見たくなくてね　（C　そうだ）

ホーントニ　ホントニ　コーゲァシタオンダナ
本当に　本当に　難儀したものだな

アレタゲァ　（C　ンー）
あれだけは　（C　うん）

17C：アノ　ミジンデダベタナ　シモノ　エノ　ハダゲノ　アダリガラ
あの　水でだろうな　下の　家の　畑の　あたりから

チジァ　ナカ゜レデ　キンカラノ　ターサ　コー
土が　流れて　金川原の　田へ　こう

（A　ンーダ　ンダ　ンダ）
（A　そうだ　そうだ　そうだ）

ミナ　チジガラ　ナンエガラ　オジダナナ
全部　土から　なにから　落ちたのはね

ン　（A・B　ン）　リンゴヌ　ギガラ　モンモヌ　ギガラ
うん　（A・B　うん）　リンゴの　木から　桃の　木から

ミナ　コンケ゜デ　ナカ゜エダオン
全部　根こそぎに　流れたもの

18A：アレー　アレヨ　ニ　ニンジューニンネンド　サンネンド
あれ　あれだ　×　22年と　3年と

ニンネン　チジゲダオン　（C　ンー）
2年　続きだもの　（C　うん）

19B：オレァーノ　シェナ〔5〕
私の　兄[は]

（A　ソノアドー　デゲダ　テーボーダオン）（C　ンダオナ）
（A　そのあと　できた　堤防だもの）（C　そうだものね）

オレァ　エサ　エテ　モンドテ　キ
私は　家へ　行って　戻って　×

アエ〔6〕 ヒェナ ム オグテキタ ジギナ （C ン）
いや 兄[が] × 送ってきた 時ね （C うん）

アノ エワサギノ ハシノ ウエンデヨ ナーント カグマダンバ
あの 岩崎の 橋の 上でね なんと 角間は

カワノ ナガダシァヨ テ ユアレダオナ （C ン）
川の 中ではないか と 言われたものね （C うん）

ケンダニー〔7〕 エダド シル カワノ ナガサ エー タデデ
ツツガムシ[が] いたと する 川の 中に 家[を] 建てて

クォー〔8〕 ナタゴド シルオダンベ マジ
ほう なんということ[を] するのだろう まあ

ナンテ ユーケァ ヤパシヨ
などと 言ったが やっぱりね

オコ゜ド〔9〕 シタエンタゴド ユテ
たいへんなこと[を] したようなこと[を] 言って

ハナシ シルオンダケタ
話[を] するものだった

20A：ンダ ンダ アチガラ ミエバ ンダンナ
そうだ そうだ あっちから 見れば そうだね

21B：マン アノ カ イワサギガラ ミレバ マッチグ マンナガダオナ
×× あの × 岩崎から 見れば ちょうど 真ん中だものね

カワノ　(A　ンダ　　ンダ)　(C　ンダ)
川の　　(A　そうだ　そうだ)　(C　そうだ)

ン　　ホントニナー　ナンテ
うん　本当にね　　などと

エッチモ　ソーユ　　ゴド　　ユーケァ
いつも　　そういう　こと[を]　言っていた

22A：ニシノ　ホーノ　ヤマサ　アガテミルド　　エジバ　　フィグエオダ
西の　　ほうの　山に　　上がってみると　いちばん　低いものだ

ココ゜ア　(B　ハー)　(C　ホー)
ここは　　(B　はあ)　(C　ほう)

エワサギガラ　ダーンダエ　フィググ　ナテキテ　　(B・C　ンー)
岩崎から　　だんだん　　低く　　なってきて　(B・C　うん)

マダ　ダンダエ　タゲァグ　ナテエグワゲヨ　　(B　ンー)
また　だんだん　高く　　なっていくわけよ　(B　うん)

(C　ホー)　ミアノ　ホサ　　エゲンバナ　(C　ンー)
(C　ほう)　三輪の　ほうへ　行けばね　　(C　うん)

アノ　オモノカ゜　コエデ　(C　ンー)
あの　雄物川[を]　越えて　(C　うん)

オーグンボ　キョージガ　ソエガラ　ジート　コー
大久保　　京塚　　それから　ずっと　こう

ダンダエ　ヤマサ　　タゲァグ　ナテエグオン　（C　ホー）
だんだん　山へ[向かって]　高く　　なっていくもの　（C　ほう）

コゴア　エジバン　フィグエンダ　（C　ホー）
ここが　いちばん　低いのだ　　（C　ほう）

エワサギガラ　コー　シカシカド〔10〕　メルオンナ
岩崎から　　こう　はっきりと　　見えるものね

シート　　ナテ
すうっと　なって

23B：ホントエ　カグマダンバ　エー　ゴドア　ネァガタ
本当に　　角間は　　よい　ことが　なかった

シコーシ　デファレンバ　ケンダニ　　エデナヤ
少し　　出ていくと　　ツツガムシ[が]　いてね

（A　ンダ）　（C　ンー）　ケンダニニ　　ササレルドテ
（A　そうだ）（C　うん）　ツツガムシに　刺されるから

ケンダニ　　オカネァガタベシ　　ホーントニ　ミンジァ
ツツガムシ[が]　こわかっただろうし　本当に　　水は

エッカダ〔11〕　チグンベシ
しょっちゅう　つくだろうし[＝水にしょっちゅうつかるだろうし]

ホントニ　オカネァガッタ
本当に　　こわかった

エグ　エードーシタエンタモンダナ
よく　住み続けたようなものだね

24A：フルエ　ゴド　　エバ　　タエショーノ　ミンジア
古い　　こと[を]　言えば　大正の　　水[害]が

エジバン　ヨゲァダタナ　（C　ンー）
いちばん　多かったな　　（C　うん）

17↑18

アレナンバ　ナント　タエシタモダタオン
あれは　　なんと　たいしたものだったもの

ソノコ゜　ナンクゥエモ　ミンジ　　アタノモヨ
その後　何回も　　水害[が]　あったけれどね

マンジ　コゴサ　ミンジ　チーダ　　チュー　ゴドア
まあ　ここが　水[に]　つかった　という　ことは

タエショージダエダ　（C　ンー）　ナンボガダンバ
大正時代だ　　（C　うん）　いくらかならば

コゴサ　チガネァダテ　　カミコマギアダリナンバ　エッカダ
ここが　つからなくても　上小牧あたりならば　　しょっちゅう

チグオンデアタ　　（B　ハー）（C　ンー）
つかるものだった　（B　はあ）（C　うん）

25B：オランダテ　アノー
私だって　　あの

26A：カシラガラ　ヘァテナ　（C　ンー）
川上から　入ってね　（C　うん）

27B：アノー　アノー　ウンドバノ　オレァエノ　キシマンデ
あの　あの　運動場の　私の家の　そばまで

タパタパド〔12〕　ミンジァ　チデキタ
ひたひたと　水は　ついてきた[＝水浸しになってきた]

ジギダンバ　コレァー　オンドゲァナネァ〔13〕　ドダンバ
時は　これは　油断ならない　とは

オモテアタ　（A　ン）
思っていた　（A　うん）

28C：アノジギナンバ　オカネァケナヤ　ン　ホーントエ
あの時は　こわかったな　うん　本当に

29B：オカネァガタデァ　マンジ
こわかったなあ　まあ

30C：ドデサ　コー　ミンジ　キタガタオンナ
土手に　こう　水[が]　来たのだものね

31B：イヨイヨ　デハル　チタタテ　ナーント　デハルモナラネァ
いよいよ　出ていく　と言っても　なんと　出ることもできない

イヤー　ドデァコデァハ　ニゲァサ　アカ゜テロア
いや　どうにかして　2階へ　上がっていよう

ミンナ　トモシニ　シル　シヌベシ　ダテ
みんな　共死に　する　死のう　と言って

ニゲァサ　ミナ　アカ゜テアタ　ソクット
２階へ　みんな　上がっていた　そっくり[＝全員]

32C：{笑}　ンーダ
{笑}　そうだ

33B：ンデモ
だけど

34A：ムガシァ　オラ　ワラシ゛ンダ　ジギ
昔は　私[が]　子どもだった　時

サン　サンケ゜ーシカ　エー　ネァ　ジギア　エッカダヨ
××　３軒しか　家[が]　ない　時は　いつもだったよ

オメァダ　シラネァゴドダノモ
あなたたち[は]　知らないことだけれども

(B　ンダ　ナンジシテ　シラネァ゛ンダ)
(B　そうだ　どうしても　知らないのだ)

(C　ンダンダナ　ン)　シェ゛ンバ　アー　ミ゛ンジ　エー
(C　そうなのだな　うん)　そうすれば　ああ　水　ええ

アンメァ　フテコエバ　ネケ゜デクルナシァ
雨が　降ってくれば　逃げてくるのね

(B　ンダ　　ンダ　　ナーントシテ)
(B　そうだ　そうだ　なんとかして)

エーサ　カチケデ〔14〕ナ　(B・C　ン)
家に　　かこつけてね　　(B・C　うん)

シテー　キタオダオン　　アノ　ミンジァ　(C　ホー)
そして　[水が]来たのだもの　あの　水は　　(C　ほう)

オメァエノ　　エマデァ　ミンジ　ナチシマタノモ
あなたの家の　今では　　道[に]　なってしまったが

アレァ　ドデコンデヨ　(C　ン)
あれは　土手でね　　(C　うん)

アコ　　クエダ〔15〕オダオン　(B　ハー)　(C　ホー)
あそこ[を]　閉めたのだもの　　(B　はあ)　(C　ほう)

クエダタテ　アンシナネァガラ　ネゲデキタアゲヨ　(C　ンダ)
閉めても　　安心できないから　逃げてきたわけよ　(C　そうだ)

アコ　　ムシロデシァ　チグシ〔16〕　ブテ
あそこ[は]　筵でね　　杭[を]　　打って

ムシロデ　コー　トメデナー　(B・C　ンー)
筵で　　こう　止めてね　　(B・C　うん)

テ　　コチャ　　ヘァラネァヨニ　シタオダオ
そして　こっちへ　入らないように　したものだ

35B：アコア　マンダヒャー　アノ　サグラヌ　ギノ　ネコシァ
あそこは　まだね　あの　桜の　木の　根っこね

ドデコニ　ナテルオノ
土手に　なっているもの

アコア　ムガシカラノ　ドデンデアタベタ　アレァナ
あそこは　昔からの　土手であったろう　あれはね

36A：ンダ　ンダ　ドデシァ　シタノ　カラノ
そうだ　そうだ　土手ね　下の　河原の

シタノ　シタノ　カラノ　ドデ　ドテ　カンミガラ　ジートシァ
下の　下の　河原の　土手　といって　上から　ずっとね

37C：ンダゴデァナー　カミガラ　コー　（B　ンー）
そうだろうね　上から　こう　（B　うん）

ドデコダオンダケァ　オラー　エンカエ　キタ　ジギアナー
土手だったなあ　私が　////　来た　時はな

38B：ンダ　ンダ　アレァ　マンダ　ドデコニ　ナテルオノ
そうだ　そうだ　あれは　まだ　土手に　なっているもの

（C　ンー）
（C　うん）

39A：アノー　シモノ　エノ　ハダゲノ　チッカゲマンデ　アレマンデ
あの　下の　家の　畑の　とっかかりまで　あれまで

（C　ンー　ンー）
（C　うん　うん）

テボーノ　シタノ　カラノ　ドデド　ユタオダオン
堤防の　下の　河原の　土手と　言ったのだもの

（C　フーン）　ジート　アタナダ
（C　ふうん）　ずっと　あったのだ

40B：ソエデモ　アノ　ドデコノ　シタサ　オリレンバ　ケンダニ
それでも　あの　土手の　下に　降りると　ツツガムシ[が]

エダモンダケドナ　（A　ソー　イタオンダ）
いたものだったそうだよ　（A　そう　いたものだ）

ンー　エダオンダケド　ヤッパシ　（C　ンーダ）
うん　いたものだったそうだ　やっぱり　（C　そうだ）

41A：アレサ　マ　ナージ　クサガリ　シニ　エグ　ジギア
あそこに　まあ　夏　草刈[を]　しに　行く　時は

ミナ　ヨンボーシテ　エタモダオン　（C　ホー）
みんな　予防して　行ったものだ　（C　ほう）

エネァテダンバ　ユアエネァガタ
いないとは　言われなかった

42B：オレァエノ　バッパダ　アノ　クサコ　タカ゜エデ
私の家の　おばあさんたち[は]　あの　草[を]　持って

アノ　ケンダニー　ササエダタナ　ナテ　シタゴド
あの　ツツガムシに　刺されたな　なんて　そういうこと[を]

ユテローダケオン
言っているものだった

43A：ソーユ　ゴドア　アル　アル　アタオダ
そういう　ことは　ある　ある　あったものだ

44B：ン　アノー　ベゴサ　ケルドテ　クサ　ト　タカ°エデンダド
うん　あの　牛に　やるため　草[を]　×　持っていたのだそうだ

（C　ホー）　ヘァテ　ケンダニー　ササレダガッタ　ナンテ
（C　ほう）　そして　ツツガムシに　刺されたのだ　などと

シタゴド　ユッテァ
そんなこと[を]　言って

45C：ンーダ　アエナ　ホントノ　カワノ　ナガンダオノナ
そうだ　あれなど　本当の　川の　中だものね

カラナガダオン　（B　ンダガラ）　ン
河原の真ん中だもの　（B　だからね）　うん

46B：アンマリ　カワノ　ハダデァッタンダガラ　ホントエナ
あまり　川の　そばであったので　本当にね

（C　ン）
（C　うん）

47A：ミジ　シーカ゜エダンバ　ソンタオダ
　　水　　水害は　　そういったものだ

シェンシェ〔17〕
｜Dに対して｜先生

48D：ケダニー　　テ　ユーナワ　マナグニ　メルゲァ
　　ツツガムシ　と　いうのは　目に　　見えますか

49A：メネァンシ　チチカ゜ムシ　チューナナ
　　見えません　ツツガムシ　というものね

50D：ナッタゴドシテー　　ササレダ　バーイ
　　どういうこと[を]して　刺された　場合

ナッタゴドシテ　　ナオスナゲァ
どういうこと[を]して　治すのですか

51A：ナオスデーバ　ヤッパリ　シンドグ　ナレバ　ソノ　ドグダオナ
　　治すというと　やっぱり　ひどく　なれば　その　毒だものね

ドグチューダガラ　ドグムシダアゲヨ
毒虫だから　　毒虫なわけよ

18↑19

ソノ　ドグカ゜シァ　ナボガ　　ドグダオナンダガ　ソノ
その　毒がね　　どれだけ　毒なものなのか　　その

ニンケ゜ノ　カラダサ　ヘァル　ド　ユード　ネジ
人間の　　体へ　　入る　　と　いうと　熱[が]

オギデクルアゲヨ　ダー　ソエ　ヨンボースニ
出てくるわけよ　だから　それ[を]　予防するのに

ヤッパリ　エシャデネァー　デゲネァグ　ナテクルアゲヨ
やっぱり　医者でなければ　できなく　なってくるわけよ

52B：エシャダテ　ムンジガシガタ　チケシャナ
医者だって　難しかった　ということだったね

（A　ムジガシガッタナ）　オレァエノヨ　ダレダンベ
（A　難しかったね）　私の家のね　だれだったろう

オレァエノ　（A　オメァエノ）　ジサノ　オヤジ
私の家の　（A　あなたの家の）　おじいさんの　父親

（A　オヤジ　オヤジ）　オヤジダ　シトダベガ　（A　ン）
（A　父親　父親）　父親である　人だろうか　（A　そうだ）

ソノシトダンバ　ケンダニニ　ササレデ
その人は　ツツガムシに　刺されて

オガ　ネジ　アテ　シンジ〔18〕サ　エテ
あまりに　熱[が]　あって　泉へ　行って

（A　ンダ　ンダ）　ヘァテダ　テ　ユ　ハナシダガラナ
（A　そう　そう）　入っていた　と　いう　話だからね

53A：ソエデ　ソーシテ　エギダ　シトーナン
それで　そうして　生きた　人を

オラ　サンニバシ　オベダ
私[は]　3人ほど　知っている

54B：ンダチケ　(A・C　ンー)　ヤパシ　ソノシァ
そうだという　(A・C　うん)　やっぱり　そのね

ホラ　ナガラハチケ〔19〕　ネジ　ホラ　トル　テエーバ
ほら　中途半端に　熱[を]　ほら　とる　といえば

ホラ　ナガラハチケダ　シトア　シヌアゲヨ　(C　ンー)
ほら　中途半端な　人は　死ぬわけよ　(C　うん)

ソエデシァ　ソノ　シンジサシャ　シァ　アノ　ヘァテダ　シトカ゜ー
それでね　その　泉に　××　あの　入ってた　人が

タシカタオダタゴジヤ　(C　ホー)
助かったことになるだろうね　(C　ほう)

55A：エショケンメー　ソノ　ソノ　トージア　エンマミデアニ　ホレ
一生懸命　その　その　当時は　今みたいに　ほら

(B・C　ンー)　コーリブクロ　アルノ　アレァ　アルノ
(B・C　うん)　氷袋[が]　あるの　あれが　あるの

ジュ　ゴドー　ミンジデ　フィヤスナ　テデァタダオン
という　ことは[なく]　水で　冷やすのが　手であったものだ

(B・C　ンー)　ソエシカ　ネァガタアゲヨ　(C　ンー)
(B・C　うん)　それしか　なかったわけよ　(C　うん)

ンダエンテ　テヌゲドガ　　ナンドガデ　フィタシテエダベ
そうだから　手ぬぐいとか　なにかで　　浸していたろう

（B・C　ン）
（B・C　うん）

56B：シンジサ　ドブント　ヘァテラタオンダケタ　（C　ン）
泉に　　ドブンと　入っていたものだった　（C　うん）

57A：ソシテシァ　マエバン　ヨルフィル　ソアベァニ　　シタオンダガラ
そしてね　　毎晩　　夜昼　　そういうふうに　したものだから

（B・C　ンー）　アジガイットア〔20〕　チカレデ
（B・C　うん）　看病する人は　　疲れて

ネチャタアゲヨ　　（C　ンダ）
眠ってしまったわけよ　（C　そうだ）

シタバ　　ホレー　エギデァクテ　ホデァネァガタゴデァ
そしたら　ほら　　行きたくて　　しかたがなかったであろう

ホンニンナ　（B・C　ホー）
本人は　　（B・C　ほう）

ソノ　シンジノ　ミンジサ　ヘァリン　（B・C　ホー）
その　泉の　　水に　　入りに　　（B・C　ほう）

ハコエガタダオン　　（B　ハー）（C　ンダ）
冷たかったのだもの　（B　はあ）（C　そうだ）

ドーンドド　デダオダオン
どんどんと　出たのだもの

（B　ンダ　　ナーント　デダダオナ）　シタバシァ
（B　そうだ　なんと　　出ただろうね）　そしたらね

（B　ンー）　メー　サマシテミダンバ
（B　うん）　目を　覚ましてみたら

ソノー　ビョーニンナ　エネァオダワゲヨ　（C　ン）
その　　病人が　　いないわけよ　　（C　うん）

サー　オーサアギシテ　エテミダンバ
さあ　大騒ぎして　　行ってみたら

シェキリ　フィヤシテ　ミンジ　ノンデ　アノ　シンジノ　フジサ
精一杯　　冷やして　　水[を]　飲んで　あの　泉の　　縁に

ドンゲァリ〔21〕　フィクリゲァテ
仰向けに　　ひっくり返って

エー　キモジデ　ネテラケド　　（B　アラー）（C　ホー）
よい　気持ちで　寝ていたそうだ（B　あら）　（C　ほう）

デルエンナテラケド
[病原体が体から]出そうになっていたそうだ

58B：ソ　ソアテ　　ナオテナ？
×　そのようにして　治ってね

59A：ソエデ　コンダ　オーサアギシテ　チデキタゴデアヤ
それで　今度は　大騒ぎして　　連れてきたことだろうよ

（B　{笑}）　シター　　ソエガラ
（B　{笑}）　そしたら　それから

シカシカー　ナオタアゲヨ　（B・C　ホー）
どんどん　　治ったわけよ　（B・C　ほう）

アレァー　X1ッコダテ　　オベンダガ
あれは　　X1というの[を]　知っているか

60B：オンベダ
知ってる

61A：アノシトモ　ソエデ　タシカタナダ
あの人も　　それで　助かったのだ

62B：ホー　（C　ンー）
ほう　（C　うん）

63A：キンカラニ　イデ　（B　ンー　ン）　（C　ン）
金川原に　　いて　（B　うん　うん）（C　うん）

アノ　アラ　　テラマジノ　（B　ンダ）　X2コ　ジョーデンナ
あの　あれは　寺町の　　（B　そうだ）X2　　というのだね

ソノシト　　カガンデシャ　（B・C　ン）
その人[が]　妻でね　　（B・C　うん）

秋田 19-7

アジガテダアゲヨ　（C　ン）
看病していたわけよ　（C　うん）

シター　コエモシァ　クタビエデ　ネダ
そしたら　これもね　くたびれて　寝た

ソエー　オメァダエノ　シュードダ　シトノ　アエ
それが　あなたたちの家の　舅である　人の　あれ

キーデダオンダタゴデァヤ　（B　ハーン）
聞いていたものだったことだろうか　（B　はあん）

エギデァシテ　ホンデァネァダテ　（B　ン）　ダサネァアゲヨ
行きたくて　しょうがなくても　（B　うん）　出さないわけよ

（B　ン）　シンジノ　ミンジ　シジノ　ミンジ　テ　ユー
（B　うん）　泉の　水　泉の　水　と　いう

オダケジョン　（B　ハーン）（C　ンー）
ものだったそうだ　（B　ふうん）（C　うん）

ソシタバ　コソット　ネゲデエテ　（B　ン）
そうしたら　こっそりと　逃げていって　（B　うん）

エグ　ジギア　アシァ　コロフテ〔22〕シァ　（B　ン）
行く　時は　足が　軽くてね　（B　うん）

オモシエダゲ　ハシテエタ　テ　ユーケド
おもしろいほど　走っていった　と　言ったそうだ

64B：ハー　ハー　（C　ホー）　ムジューナテ　エタガラダゴデァナ
はあ　はあ　（C　ほう）　夢中になって　行ったからだろうね

65C：ンダゴデァナ　（B　ンー）
そうだろうね　（B　うん）

66A：ムジューナテ　ンダガラ　ソノ　トージワ　（B・C　ンー）
夢中になって　だから　その　当時は　（B・C　うん）

ジゾサンナ　チデエタ　ナンテ　ユタオダワゲヨ　（B　ハー）
地蔵さんが　連れていった　などと　言ったわけよ　（B　はあ）

オラナ　ケンダニノナ　（B・C　ンー　ン）
私は　ツツガムシのね　（B・C　うん　うん）

ソーシァ　シンジダオダワゲ　ジンゾサン　アリガデァクテナ
そうね　信じたわけ　地蔵さん[が]　ありがたくてね

（B・C　ン　ンダ）　ソシテ　エテシァ　ミンジ　ノンデ
（B・C　うん　そうだ）　そして　行ってね　水[を]　飲んで

ソノー　ヘァテ　フィヤシタゴデァ　（B　ン）
その　入って　冷やしたろう　（B　うん）

ソデ　ネジア　ガラリ　サガタンベ　（B　ン）
それで　熱が　すっかり　下がったろう　（B　うん）

シテ　エー　キモジンデ　エダケドタ
そして　いい　気持ちで　いたそうだ

ヤッパリ　ソエモヨ　（C　ン）
やっぱり　それもね　（C　うん）

67B：ヤッパシ　キソリモ　ネァガタベシ
やっぱり　薬も　なかっただろうし

エシャー　ナントモ　シェネァモンダ
医者は　なんとも　できないものだ

68A：アータノモ　ソノー　エシャノヨ　（B　ン）　ソーイ
あったけれど　その　医者のよ　（B　うん）　そういう

ヨンボーシル　メイシャ　エネァガタアゲヨ　（B　ン）
予防する　名医者[が]　いなかったわけよ　（B　うん）

ンダガラ　トーンジガラ　アノー　ケンダニノ　ホンバナベノモ
だから　当時から　あの　ツツガムシの　本場だろうが

シンモエメァジミノ　エシャ　ジョアナ　ソノホノ　（B　ホー）
下今泉の　医者　というのが　そのほうの　（B　ほう）

ヒェンヒェデァタアゲヨ　（B・C　ン）
先生であったわけよ　（B・C　うん）

19↑20

ンダガラ　アノ　ユザアノ　エマノ　X 3 イインノシァ
だから　あの　湯沢の　今の　X 3 医院のね

オンジサンダ　エマデ　ユエバ　（B・C　ン）
おじいさんだ　今で　言えば　（B・C　うん）

秋田 20-2

エマノ　イインチョヒェンヒェノ　オンジーサンダ　（B　ン）
今の　医院長先生の　おじいさんだ　（B　うん）

（C　ンダ）　ソノシトァ　ケンダニハガヒェンダワゲ
（C　そうだ）　その人は　ツツガムシ博士なわけ

（B　ハ）　（C　ンダチュー　ハナシダケナ　ン）
（B　はあ）（C　そうだという　話だったね　うん）

（B　ハー）　エショケメー　ケンキュシテシァ　（B　ンー）
（B　はあ）　一生懸命　研究してね　（B　うん）

ハガシェゴー　トタワゲヨ　ケンダニノナ
博士号[を]　取ったわけよ　ツツガムシのね

ナ　ナジフユ　ヤマダカラサ　エテ　シラベデルケド
×　夏冬　山田川原へ　行って　調べていたということだ

（B　ハハー）（C　ンー）
（B　ははあ）（C　うん）

オラ　ヒョーホン　ナンボモ　ミダ　（B・C　ンー）
私[は]　標本[を]　いくつも　見た　（B・C　うん）

アノ　ケンビキョサ　チケデララナ　（C　ンー）
あの　顕微鏡に　つけていたのをね　（C　うん）

クンモミデァンタモンダナ　（C　ホー）（B　ンダンダドナー）
クモみたいなものだよ　（C　ほう）（B　そうだってね）

ンー
うん

69B：ハリカ゜ネミデァタモンダド　コーテ　アノ
針金みたいなものだと　こう　あの

（A　エカエカデァ〔23〕モンデヨ）
（A　とげの出ているものでね）

エカエカデナダバナ　（C　ン）　ンー
とげとげしているのならばね　（C　うん）　うん

70A：ソーエナ　オラー　メシェラエダ　（B・C　ン）
そういうの[を]　私は　見せられた　（B・C　うん）

71B：オレァエノ　アノ　コーンベノ　オドサンナ　アノ　ソノ
私の家の　あの　神戸の　おとうさんが　あの　その

ケンダニ　マンダ　エル　アダリダオナ
ツツガムシ[が]　まだ　いる　あたりだものね

72A：ア　ゼンゼ　ニグカンデア　メネァ　テ　ユタテ　エオンナ
あ　全然　肉眼では　見えない　と　言っても　いいものね

73C：シェバ　ソレ　カラダガラ　トレンバ　ナン
そうすると　それ[を]　体から　とれば　××

ナントガ　カントガ　ベジ　ナテ　ワガルベデァナ
なんとか　かんとか　違うように　なって　わかるだろうね

74A：ンー　ソノ　ニンゲンノ　ヒャ　チー　　スウ　テ　ユータオダノン
うん　その　人間の　　××　血[を]　吸う　と　言ったものだが

ナントガシタオダヤラナ　（C　ン）　ササッテエレバ
どうしたのだろうね　　（C　うん）　刺さっていれば

オーキグ　ナルアゲヨ　（B・C　ハー）
大きく　　なるわけよ　（B・C　はあ）

ソノ　ムシガナ　（B・C　ンー）　ソーシエンバー
その　虫がね　　（B・C　うん）　そうすれば

メル　　チェバ　　エガ　　メネァ　　チェバ　　エガ
見える　と言えば　いいか　見えない　と言えば　いいか

マ　マンズ　メル　　ジューゴドダゴデァナ　（B・C　ンー）
×　まあ　　見える　ということだろうね　　（B・C　うん）

75C：シロエ　カミサ　オゲンバ　メダオダ　　ドダテーケ
白い　　紙に　　置けば　　見えたものだ　と言っていた

76A：シレー　カミサ　ヌヒェネァバ　メネァアゲヨ　　（C　ン）
白い　　紙に　　のせなければ　見えないわけよ　（C　うん）

ソエダテ　　カダジナ　メルオンデネァ　　（B　ンダダナー）
それだって　形など　　見えるものではない　（B　そうだろな）

タンダ　ポチット　ア　コレガ　テエンタ
ただ　　ぽつりと　あ　これか　というような

秋田 20-5

ゴミコミデァンダオン　（B・C　ン）
ごみみたいなものだもの　（B・C　うん）

ンデァタ　（C　ン）
そうだった　（C　うん）

ンダガラ　カミソリドガ　ケヌギドガ　テ　ソーユナデネァバ
だから　かみそりとか　毛抜きとか　と　そういうのでなければ

トラエネァガタワゲ　（C　ン）
とれなかったわけ　（C　うん）

ソヤテ　カミサ　アエ　シェバ　コノー　ヤッパリ
そうやって　紙に　あれ　すれば　この　やっぱり

イダマネァンバ　ハウ　チュタオンダノオ
[ツツガムシは]傷ついていなければ　這う　と言ったものだけれど

オラー　ハウナ　ミダ　ゴド　ネァナ　（C　ホー）
私は　這うのは　見た　こと[が]　ないね　（C　ほう）

サンドバリ　ミダ　ジギ　アル　（B　ハー）
３度ばかり　見た　こと[が]　ある　（B　はあ）

ソノー　トタ　ヤジナ　（B・C　ン）
その　取った　やつね　（B・C　うん）

ソー　ワガルナナバ　エガタアゲヨ
そう　[刺されたということが]わかるのならば　よかったわけよ

（B　ンダ）　ワガラネァナ　アテァタオン　（C　ン）
（B　そうだ）わからないのが　あったもの　（C　うん）

ユード　ナダドモ　オモワネァデヒァー
そういうと　なんとも　思わないで

ワゲァオノダダオノ　ホレ　ヨアソビ　テバ　エガ
若い者たちだもの　ほら　夜遊び　といえば　いいか

ヨル　ソド　エデ　シジンダリ　ナンカシテ　（B　ンー）
夜　外[に]　いて　涼んだり　なんかして　（B　うん）

ソノー　ネジア　キデァシテ　ホデァネァシテ　エルナダオナ
その　熱が　出だして　しかたなくて　いるのだものね

（B　ン）　ソエサ　ホレ　カンジェ　フィダリ　ナンカ　シェンバ
（B　うん）それに　ほら　風邪[を]　ひいたり　なんか　すれば

タオエダワゲヨ　（B　ンダ　ナンデカンデ　ンダダオナ）
倒れたわけよ　（B　そうだ　必ず　そうだったものね）

（C　ン）　ソー　イデァフテ　ワガルナナンバ　ホレー
（C　うん）そう　痛くて　わかるのならば　ほら

77B：ンデモ　コー　サワ　サワレンバ　ビリッテ　ユーオンダドーナ
でも　こう　××　さわれば　びりっと　いうものだそうだね

78A：ンダチケ　オレァ　ササエダ　ゴドー　ネァオン
そうだといった　私は　刺された　ことは　ないもの

79B：オレァエノ　バッパヨー　（A　ヨンボー　シタガラ）
私の家の　おばあさんね（A　予防　したから）

シュードバッパ　ユーオンダケタ　（C　ホ）
姑[が]　言うものであった（C　ほう）

ナンデオ　オナコ゜ダジダンバ　コーエ　アノ　ヤッコエ　ドゴサナ
なんでも　女たちならば　こういう　あの　柔らかい　ところへね

（C　ン）（A　コゴシァ）ササルフンデヨ（C　ン）
（C　うん）（A　ここね）刺さるようでね（C　うん）

ソエデ（A　ミミノ　シリドガ　コエナ）（C　ン）
それで（A　耳の　後ろとか　これね）（C　うん）

ンー　チョエト　ナンデルドヨ（C　ン）
うん　ちょいと　なでるとね（C　うん）

ビリーッテ　ユーオンダド　（C　ンー）
びりっと　いうものだって（C　うん）

80A：チジムダゲ　イデァオンダ　ジュゴッタ　（B　ンダド）
縮むくらい　痛いものだ　ということだ（B　そうだって）

オレァ　ソユ　ヤジア　ワガラネァオン（B・C　ンー）
私は　そういう　やつは　わからないもの（B・C　うん）

ナーント　オレァエノ　トショリダジア　ヤガマシオンデシァ
なんと　私の家の　年寄りたちは　うるさいものでね

（B　ン）　エショーケメー　ヨボシェ　ドテ　ユオンデ
（B　うん）一生懸命　　予防せよ　と　　言うもので

（C　ン）　ンダガラ　キオノダテ　ナエダダテ
（C　うん）だから　　着物だって　なんだって

ソノー　カラサ　エグ゜　　キルオノァ
その　　河原へ　行く[時に]　着るものは

ベジデ　アタンダ　　ドゴーノ　エ
別で　　あったものだ　どこの　　家[だって]

81B：ンダ　ンダ　ドゴノ　エダタッテナ　（A・C　ン）
そう　そう　どこの　家であってもね　（A・C　うん）

82A：ヘァジ　ソート　キテエタオダオン
そいつ　相当　　着ていったのだもの

83B：ン　　イオー　　エブシテ
うん　硫黄[を]　いぶして

（A　テ　　コエバ　　ヌエデ）
（A　そして　[帰って]くれば　脱いで）

ムシロンデ　（A　ンダ　　ンダ）　バダッバダッバダド　ヤテ
筵で　　（A　そうだ　そうだ）バタバタバタと　　やって

ソエテ　　アノ　ムシオンダケオナ　　（A　ンダテー）
そうやって　あの　蒸すものだったものね　（A　そのとおり）

キサ　カッテコエンバ　(A・C　ン)
草[を]　刈ってくれば　(A・C　うん)

20↑21

シテ　オレァエノ　オドサンナ　アノ
そして　私の家の　おとうさんが　あの

サエガグ　ヨゴ　ジオノ　オグテヨゴシタケオナ
犀角　××　というもの　送ってよこしたことだった

(A　ン　ン　ン)　ソノヨ　モシヨ　(A　キシリナ)
(A　うん　うん　うん)　そのね　もしね　(A　薬ね)

ン　サエガグ　ソレ　モシ　ソノ　ケンダニー　ササレデ
うん　犀角　それ　もし　その　ツツガムシに　刺されて

ネジ　アル　ジギア　コレオ　シェンジデ　ノメ　ドテ
熱[が]　ある　時は　これを　煎じて　飲め　と言って

アノ　ベゴノ　チノミデァタオンダナ　(C　ン)
あの　牛の　角みたいなものだね　(C　うん)

アレァー　エッポシカ　ネァオンダドナ
あれは　1本しか　ないものだとね

84A：サエガグ　チュー　ヤパシ　チノダ　(C　ン)
犀角　という　やっぱり　角だ　(C　うん)

85B：ン　チノナ　コー　エッポーシカ　ネァンダド
うん　角ね　こう　1本しか　ないんだって

サエガグ　ッテ　（C　ホ）
犀角　　って　（C　ほう）

86A：サ　サエガグ　ッテ　ユー　ケ　ケンダモノノ　チノダアゲヨ
×　犀角　　って　いう　×　獣の　　角なわけよ

（C　ン）
（C　うん）

87B：ンー　ソレ　ナンボ　　ヨンジューネンノホガエ　ナルンベガ
うん　それ　どれくらい　40年以上に　　なろうか

ソレ　マンダ　ソノマンマ　シマテダ？　　（A　ホ）
それ　まだ　そのまま　しまっているよ　（A　ほう）

（C　ン）　ンー　ソノ　ソイ　マンジ　イザ　テユ
（C　うん）うん　その　それ　まあ　いざ　という[時の]

ネジサマシダゴデァ　ソレア　（C　ン）
熱さましだろうね　それは　（C　うん）

ナボガー　エオダダガ　　アデァ　ネァオンダド　（C　ン）
どれくらい　いいものなのか　あてが　ないものだと　（C　うん）

X４ノ　エンデ　エジド　モラテッテ　モラテエテ
X４の　家で　一度　××××× もらっていって

ノマシェダ　ゴドア　アルケナ
飲ませた　ことが　あったね

88A：ネジサマシダベオン　（C　ン）
　　熱さましだろうよ　　（C　うん）

89B：ネジサマシ　（C　ン）
　　熱さまし　　（C　うん）

90A：アレシァ　アノ　シーキ゜ュミデァンタモンダフダナ
　　あれね　　あの　水牛みたいなもののようだね

　　ミジサ　ヘァテロフンネァガ　　アレァ　（B　ハー）
　　水に　　入ってるようでないか　あれは　（B　はあ）

　　ソノー　エギモノカ゜ナ
　　その　　生き物がね

91B：ハ　（C　ン）　　エギンモノーナ　（A・C　ン）　　ン
　　は　（C　うん）　生き物がね　　（A・C　うん）　うん

　　マルンデ　コー　ナンテ　ユエバ　エガヤ
　　まるで　　こう　なんと　言えば　いいかな

　　ヤパシ　　アエダシァ　ベゴエ　ニダエンタオンダノモ
　　やっぱり　あれだろう　牛に　　似たようなものだが

　　タッタ　エポシカ　ネァオナ　　マンーナガニ　エポシカ
　　たった　１本しか　[角が]ないものね　真ん中に　　１本しか

92A：カダジー　ンダ　　ンダ　　マンナガニ　エポシカ　ネァ
　　形は　　そうだ　そうだ　真ん中に　　１本しか　ない

（B・C　ン）　アノ　ホンモノ　ミダオンデァネァノモ　アノ
（B・C　うん）　あの　本物[を]　見たものではないが　あの

93B：ソノ　サ　ンー　コンキャバリ　アルオンダ　ソノ　チノナ
その　×　うん　これくらいばかり　あるものだ　その　角ね

（A　ン）　（C　ホ）　ソエシァー　（A　チョコット　コー）
（A　うん）（C　ほう）　それね　（A　ちょっと　こう）

ヨンジューネンノホガ　ナルンダナ　ヨゴシテガラ
40年以上に　なるのだな　[父が]よこしてから

（A・C　ホー）　ン　ソエ　マジ　ダエジニ　シテ　トテダ
（A・C　ほう）　うん　それ　まあ　大事に　して　取ってある

94A：アレァ　アエダベオノ
あれは　あれだろうよ

ナンヨーノ　ホーサ　エガネァバ　エネァナンデネァガ
南洋の　ほうへ　行かなければ　いないのでないか

（B　ンー　ンダンダナー）　ニホンニナ
（B　うん　そうなんだね）　日本になど

95B：アノシト　ホラ　ガエコグサバリ　エテダベッタ
あの人　ほら　外国へばかり　行ってたろう

96A：ンダガラヨー　ニホンニナ　エダオンデネァ　アレァ
そうだからね　日本になど　いたものではない　あれは

（B　ン）　ンー
（B　うん）　うん

97D：カランダノ　ナガサ　ヘァルナダゲァ
体の　中へ　入るのですか

98A：ンデネァンシ　ヤッパリ　ハンダサ　ソノー
そうではありません　やっぱり　肌に　その

ノミー　シラミンミデアンタオンダアゲ　ソノー　ムシノ　アレカ゜ナ
ノミ　シラミみたいなものなわけ　その　虫の　あれがね

99C：コノー　ハンダノ　ケアナサ　ヘァルモンダテナ　（B　ン）
この　肌の　毛穴へ　入るものだというね　（B　うん）

100A：ソシテ　クジューオ　ソソエデシァー
そして　口を[＝口から]　注いでね

ドグ　フッカゲルオンナ　デンバ　ダスオンダゴデァ　アレァ
毒[を]　吹きかけるものな　といえば　出すものだろう　あれは

101B：コノ　ケアナサ　ヘルオンダド　ヘァルオンダドナ
この　毛穴へ　入れるものだと　入るものだとね

（A　ンダド　ンダド　ケアナンダド）
（A　そうだと　そうだと　毛穴だって）

（C　ンダチケナ）　ケアナサ　ン
（C　そうだといったね）　毛穴へ　うん

ソノ　ドグ　　サシテエグオンダゴデァナ？　ンー
その　毒[を]　刺していくものだろうね　　うん

102A：チシァーモ　チシァー　ンダガラ　アノ
小さいも　　小さい　　だから　　あの

ロッピャグンバエダタガノ　ケンビキョーデ
600倍だといったかの　　顕微鏡で

コレク゜レァバリノ　　ガサエナルオナ
これくらいばかりの　大きさになるものね

ソノ　カランダジェンタエカ゜　アシガラ　コー　アエシタ　オゴ
その　体全体が　　足から　　こう　あれした　ところ

ロッピャグンバエダチケ　（B・C　ホー）
600倍だって　　（B・C　ほう）

ソノ　X3ハガシェノ　オレァ　ナンクゥエモ　ミダナ
その　X3博士の　　私は　　何回も　　見たね

（B・C　ンー）　メ　メヒェラエダ　テバ　　エガ
（B・C　うん）　×　見せられた　　と言えば　いいか

103B：アヤ　コドシ　ナンダガヨ　ドゴンダガ　アノ　ケンダニニ
あれ　今年　　なんだかね　どこだか　　あの　ツツガムシに

ササレデ　アレー　デハタケナ
刺されて　あれ　　出ていたね

104A：ンー　エルヨー　アチノ　　ホーニ　シリサ　エゲバ
うん　いるよ　　あっちの　ほうに　下へ　　行けば

105B：ン　　ナンダガ　ドゴンデアッタガ
うん　なんだか　どこであったか

ケンダニニ　　ササレダ　ドテナ
ツツガムシに　刺された　と言ってね

106A：エダケ
いたね

107D：ヌマンダデデ　ネァケゲァ
沼館で[は]　　ありませんか

108A：ナンダガ　アチノ　　ホーダタナ　　（B　ンー　ナンダガ）
なんだか　あっちの　ほうだったね　（B　うん　なんだか）

シリサ　サカ゜ッテ
下へ　　下がって

109D：シ　シンダ　シンダ　シト　　エダンシケナ
×　死んだ　死んだ　人[も]　いたそうですね

110B：ハー　ンダンダ　ンダンダ　ヤッパシ
はあ　そうだろ　そうだろ　やっぱり

111A：シンダガヤ　（D　アー）　アレァ　フィトリバリデ　ネァケド
死んだかね　（D　ああ）　あれは　一人だけで　　なかったよ

（B　ン？）　フィトリバリデ　ネァケ　（B　ン）
（B　うん？）一人だけで　なかった（B　うん）

ンー　テレビホーソシタオン
うん　テレビ放送したもの

21↑22

112B：ンー　ナンダガ　ンダケナ
うん　なんだか　そうだったね

113A：シンブサモ　デダケシシァ（B　ン）
新聞にも　出ていたしね（B　うん）

114D：シェバ　ムシコワ　コー　オジルワゲダンシナ　アドワ
そうしたら　虫は　こう　落ちるわけですね　あとは

115A：ン　ンダガー　エッタンヨ（D　ンー）フッチグッチマエバ
うん　だから　いったんね（D　うん）くっついてしまえば

シジェンニ　オジル　ゴドァ　オジルアゲヨ　ンダノモ
自然に　落ちる　ことは　落ちるわけね　そうだが

ドグカ゜ヒァー　トエネァアゲダ　カラダサ　ヘァルダンテナ
毒がね　とれないわけだ　体へ　入るんだからね

116B：ドグ　オエデエグゴドンダゴデァナ
毒[を]　置いていくことだろうね

（D　デ　ネツガ　デル）
（D　それで　熱が　出る）

117A：ンダガー　ソエオ　ヨンボーシル　チューゴドダ　（B　ン）
だから　それを　予防する　ということだ　（B　うん）

ンダガー　ソノ　ワガラネァ　ササレダ　ワガラネァナド
だから　その　わからない　刺された[ことが]　わからないのと

ワガルナド　エルンダドヨ　ンダガー　ワガラネァナワ
わかるのと　いるんだとよ　だから　わからないのは

ナントモ　オモワネァデルド　ソノ　ビョーギー　オギデクルアゲダ
なんとも　思わないでいると　その　病気[が]　出てくるわけだ

ワガルナダンバ　ホレ　エマ　サッキ　ユートーリシァ　カランダサ
わかるのならば　ほら　今　さっき　言うとおりね　体に

フィ　フィビル〔24〕ダゲノ　イダミ　アルオンダガラ
××　びりっと体を走るほどの　痛み[が]　あるものだから

チューイシルワゲヨ　コンダ　ヨンボーシルアゲダ　（B　ンー）
注意するわけよ　今度　予防するわけだ　（B　うん）

エー　キシリドガ　イロロ　カランダ　ダエジニ　スドガ　ッテ
ええ　薬とか　いろいろ　体[を]　大事に　するとか　って

ソエデ　フィニジー　タデバ　ケロット　マンジ　ナオルアゲヨ
それで　日にち[が]　経てば　けろりと　まあ　治るわけよ

ユド　ワガラネァデデ　ビョーギニ　ナル　ド
[そうは]いっても　わからないでいて　病気に　なる　と

秋田 22-3

ユード　ソレ　　ナオスニ　　ナンキ゜シルゴドダアゲヨ
いうと　それ[を]　治すに[は]　難儀するわけよ

ハヤグ　エバ　　デ　　クイモノガラ　コゴデンダバ　ンダナ
早く　　言えば　それで　食べ物から　　ここでなら　　そうだね

ンート　ヘァクショノ　タノ　クサドリァ　デゲルド
ええと　百姓の　　田の　草取りが　　できると

シ　シジク゜ァジノ　シエンダナ？　ナレバ　マ　マジ　モジ
×　7月の　　末だね　　すると　×　まあ　餅

ナンチュオナ　　カレネァゴドハ　　チガネァシ
などというものは　食べられないことだね　つかないし

クァヒェネァシ　クァネァシダ　ソレァー　ソノ　ネジ
食わせないし　　食わないしだ　それは　　その　熱[を]

モジドテダ　　カラダサ　クァシェラエネァオンダ
持つというので　体に　　食わせられないものだ

ソシテ　クガズ　キュー　クガズノ　シェックダダーテバ　コンダ
そして　9月　　旧　　9月の　　節句だといえば　　今度は

モジチギア　ハシマルダカ゜ラ　ソエマデ　モジドナ
餅つきが　　始まるんだから　　それまで　餅というものは

オ　オドゴノ　ワゲァオンダバ　ミルエ　　ネァガタナ
×　男の　　若い者なら　　見ることが　なかったね

クゥシエラエネァオンダタ　ソ　ソーイ　　ソノ　モジワナ
食わせられないものだった　×　そういう　その　餅はね

ソノタ　アブラコエオノ　　クナドガ　　アエダドカ　テ
その他　油っぽいもの[を]　食うなとか　あれだとか　と

ソノ　クイモノニ　ウント　チューイシタオンダ
その　食べ物に　　うんと　注意したものだ

ヤ　ヨンズユニ　アダラエネァノン
×　夜露に　　あたられないの

マズ　カジェ　　フィグナ　エジバン　デゲネァゴドダッタナ
まあ　風邪[を]　ひくのが　いちばん　いけないことだったね

マンジ　ササレデモ　ササエネァテモ　チューイシルゴドダッタ
まあ　刺されても　刺されなくても　注意することだった

ソユー　　ゴド　　ヤガマシグ　ユアレダオンダオン
そういう　こと[を]　やかましく　言われたのだもの

118D：タンボニワ　エネァガッタゲァ
田んぼには　いなかったですか

119A：タンボー　フチーノ　タンボニア　エネァガッタナ
田んぼ　　普通の　　田んぼには　いなかったね

ソノー　カシェン　カワラサ　チケァ　ホノ　　タンボダンバ
その　　河川　　河原に　　近い　　ほうの　田んぼであれば

エネァ　ドァ　イエネァガタナ　バショニヨッテ
いない　とは　言えなかったね　場所によって

120B：コー　ヤ　ヤチケ〔25〕ンダエンタ　クチャクチャデー〔26〕
こう　×　谷地のような　ぐちゃぐちゃで

ソインタ　ドゴニ　エダタンダナー　ソノー
そういった　ところに　いたんだね　その

121A：コッチノ　タンボア　ナ　ナンネート　ナグ　ホレ
こっちの　田んぼは　×　何年と　なく　ほれ

タエフィ　チカウドガ　イロイロ　チカオダガラ
堆肥[を]　使うとか　いろいろ　使うもんだから

シンジェンニ　ヨンボーデゲダオダゴデァ
自然に　予防できたものだったろう

ンダエ　エネァガタダ
だから　いなかったのだ

ヤパリ　ソノー　カワラ　カワノ　ホサ　チケァ　ホノ
やっぱり　その　河原　川の　ほうに　近い　ほうの

ンダガラ　ドゴニモ　カコニモ　テ　ユーンデネァー
だから　どこにも　かしこにも　と　いうのではない

ヤパリ　バショニモ　アタオダアゲヨ
やっぱり　場所にも　あったものなわけよ

ジート　ムガシナンバ　ドゴニモ　エデァッタンダナー
ずっと　昔ならば　どこにも　いたもんだったろうね

（B　ンダダナー）　（C　ンー）　オメァエノ
（B　そうだったろうな）（C　うん）　あなたの家の

シグ　ウラ　シゲ　エダオダオン　（C　ン）
すぐ　裏[に]　すぐ　いたのだもの　（C　うん）

122B：コシ　ンダゴト　ンダゴンダガラ　アノ　ホレ
××　そういうこと　そういうことだから　あの　ほれ

22↑23

シグ　ソドサ　デファレバ　シグ　ソサ　アレダオ
すぐ　外へ　出れば　すぐ　そこに　あれだもの

123A：ソー　ユタオンダ　（B　ン）　ンダガラ
そう　言ったものだ（B　うん）だから

124B：マンジ　オレァエンデダバ　ホントノ
まあ　私の家では　本当の

125A：サゲァ　ドデダオンデ　サグラヌ　ギノ　ソバナ　アレサシァー
境が　土手だもので　桜の　木の　そばね　あれにね

126B：エッケンヤデ　アッタゴデァヤ　カ　カマケァシテ
一軒家で　あっただろう　×　破産して

オジビド〔27〕デ　{笑}
落人で　{笑}

127A：エグ　ジギア　タダ　　エガエネァド　テ　ユタオダオン
行く　時は　ただ[では]　行かれないよ　と　言ったのだもの

ンダー　オラー　ワラシンダ　ジギー
だから　私は　子どもの　時

アノ　エンマダンバ　ダレァ　エノ　アドダヤ
あの　今なら　だれの　家の　あとかな

X5オンツァ〔28〕　エノ　アダリニ
X5おじさん[の]　家の　あたりに

X6ァエ　ドナ　アタナ　アレァ　X6　X6　ナエ
X6の家　というのが　あったね　あれは　X6　X6　なに

X7ダタダガ　X8ダタダガ
X7であったのか　X8であったのか

128B：アコナ　エニ　アッテァッタゴデァ
あそこの　家に　あったことだ

オX9サンダ　アノ　ソノアドサ　ネマタ〔29〕ナデネァ
おX9さんたち[は]　あの　そのあとに　住んだので[は]ないか

129A：アッドモ　アド　ムガシノ　アドダオノ
あとも　あと　昔の　あとだもの

130B：ンー　ンダベ　アド
うん　そうだろ　あと

ナンダガ　ソノ　ソノ　アドーサ　タ　タデダエン
なんだか　その　その　あとに　　×　建てたよう[だ]

131A：ソノ　アドガラ　ド　シトチ　エマ　ユタ　　アレァー
その　あとから　と　ひとつ　今　　言った　あれは

キンカラノ　X１　デ　ユーナ　　エコ　　タデダ　ジギ
金川原の　　X１　と　いうのが　家[を]　建てた　時[が]

アローナ　　（B　ン）　ソノアドンダオノ　（B　ホー）
あるものね　（B　うん）　そのあとだもの　（B　ほう）

ソレァ　ホッカイドーサ　オジデエッチャッテ
それは　北海道へ　　落ちていってしまって

エネァグ　ナタアゲヨ　　（B　ン）
いなく　　なったわけよ　（B　うん）

ソノジギド　ソエガラ　アレー　アノ　タガデノ　エンダ
その時と　　それから　あれ　　あの　高台の　　家だ

タガデノ　エーワ　オメァダエノ
高台の　　家は　　あなたたちの家の

エマノ　X10コ　　エダナ　（B　ンダ　ンダ）
今の　　X10[の]　家だね　（B　そう　そう）

アコサ　　ベッケ　　ナテ　　（B　ン）　　ヒュ　サンゲンシァ
あそこへ　分家[に]　なって　（B　うん）　××　3軒ね

ソエガラ　コンダー　エッケンナ　ネァグナテ　ニゲン　ナテ
それから　今度は　1軒は　なくなって　2軒[に]　なって

ソエガラ　カアリカ゜ワリ　エッケン　エッケン　フエダリ
それから　かわるがわる　1軒　1軒　増えたり

エネー　ネァグナタリ　シタナダオン
いない、　なくなったり　したのだもの

132B：オレァ　キタ　ジギ　ゴゲンダガエンテ　ネァケタテ
私が　来た　時[は]　5軒とかしか　なかったが

エマダンバ　ジューナンゲン　ナタガラナ　{笑}
今ならば　10何軒[に]　なったからね　{笑}

（C　ンダ）　シトムラコエ　ナタオンダ　（C　ホントダナ）
（C　そうだ）　1村に　なったものだ　（C　本当だね）

133A：サンゲンナ　ニゲン　ナタリ　ソンタオダタ
3軒が　2軒[に]　なったり　そんなものだった

オラ　ワラシダ　ジギナバナ　（B　ンデァタンダナ）
私[が]　子どもの　時はね　（B　そうだったんだね）

（C　ン）　ジューシジハジゲン　アルベ　エマダンバ
（C　うん）　17、8軒　あるだろう　今ならば

（B　ンダベ　ンー）（C　ンダベナ）
（B　そうだろう　うん）（C　そうだろうね）

オレァ　ギョーヒェー　ヤテル　　ジギ　デンバ　（B　ン）
私が　行政[を]　やっている　時　というと（B　うん）

ブラグカエチョド　ギョシェー　ヤタ　ジギデ
部落会長と　行政[を]　やった　時で

ジューシジゲンダオノ（B　ンダベナ　ンー）（C　ン）
17軒だもの　（B　そうだろうね　うん）（C　うん）

ソエガラ　フエ　フエダ　フエネァンタオンダナ
それから　××　増えた[ような]　増えないようなものだね

X 5オンツァ　エー　エジバン　アドデネァガヤ
X 5おじさん[の]　家[は]　いちばん　あとでないかね

134C：オラ　キタ　アダリーダダテ　ハジゲン　キューケンバシシカ
私[が]　来た　頃だって　8軒　9軒ばかりしか

ネァガタベオン　（A　ンダベナ）　ン
なかっただろうよ（A　そうだろうね）うん

バンニ　ナルド　コー　タシポシー〔30〕ンタ
晩に　なると　こう　心細いような

ホントエ　サミシネァンタ　ドゴダッケオナ
本当に　寂しいような　ところだったものね

135A：ンダタナ　バショア　オッキナサ　エー　ネァガタガラヨ
そうだったね　場所が　大きいのに　家[が]　なかったからだ

（C　ン）
（C　うん）

136B：アノ　ウンドーバ　マンダ　シキ゜バヤシデァタンダガラ
あの　運動場[は]　まだ　杉林だったんだから

（A　ンダ）　オラ　ホントエ　コゴロボソグ
（A　そうだ）　私[は]　本当に　心細く

クラシタエンタオデァタナ　キタ　アダリナンバ
暮らしたようなものであったよ　来た　頃は

（C　ン）
（C　うん）

137A：ムガシノ　ワゲァオノダジッテ　ワレワレノ　オヤジ　ジダエニ
昔の　若い者たちって　我々の　父親[の]　時代に

ウエダ　シギデアッタ　アレァ　（C　ン）
植えた　杉だった　あれは　（C　うん）

138B：ンー　ンダベナ
うん　そうだろうね

139A：エジネンニ　ナンボ　テ　マエトシ　ウエダオンダワゲヨ
１年に　いくら　と　毎年　植えたわけよ

（B・C　ン）
（B・C　うん）

140C：オレァ　キタ　ジギナバ　アコ　　デンデデン
私が　来た　頃は　あそこ[は]　すっかり

ハダゲ　ナテ　ミンナ　ワゲーパダゲ〔31〕ダケナ　ン
畑[に]　なって　全部　分け畑だったな　うん

141A：ン　ソレァー　ゴー　ゴーチ〔32〕デァタアゲヨ　（C　ンー）
うん　それは　××　村有地であったわけよ　（C　うん）

アコノ　バショガナ　（C　ン）
あそこの　場所がね　（C　うん）

デ　ジユーニ　シタゴドダヨモヨ
それで　自由に　したことだけれどもね

ソレオ　ンダガラ　ユワヤノ　ジサマド
それを　だから　岩谷の　おじいさんと

アノ　X11ク゛ミノ　アノ　X12ジサマドテ
あの　X11組の　あの　X12おじいさんと
23↑24
（C　ン）　ダレァ　オンデモ　ネァグ
（C　うん）　だれの　ものでも　なく

ジンジャノ　オンニ　シタホー　エ　ドテ　エデ
神社の　ものに　したほう[が]　いい　と言って　それで

エガタコデァ　（B　ンダゴデァナ）　（C　ン）
よかったことだ　（B　そんなことだね）　（C　うん）

ジンジャノ　オンニ　シタナダオン　（B　ン）　（C　ン）
神社の　ものに　したのだもの　（B　うん）（C　うん）

142B：シカーシ　ンダノモヤ
しかし　そうだがよ

オーキタ　キバシ　アル　ドゴデァッタナ？　ヤナキ゜ダッテナ
大きな　木ばかり　ある　ところだったね　柳でもね

143A：ヤナキ゜ナー　アレァ　シトリシテ　オエダ〔33〕ナダワゲヨ
柳ね　あれは　自然に　生えたわけよ

（B　ン）
（B　うん）

144B：タエシタ　タエボグバシ　アルオンダケシァー？
たいへんな　大木ばかり　あるものだったね

ナーント　ヤモジア　ナラネァダゲノ　ハヤシダオダケド
なんと　山持ちが　ならないほどの　林なんだって

（C　ン）　ン
（C　うん）　うん

145A：ソレ　ソレー　キリガダ　ハシメダナ　エショーケメ
××　それ[を]　切るのを　始めたのは　一生懸命

X13コ　エノ　ジサシァ　（B　{笑}）（C　ホー）
X13[の]　家の　おじいさんね　（B　{笑}）（C　ほう）

ノミデァクテ　ハシメルオンデァタオ　（B　ンダ　　ンダ）
飲みたくて　　始めるのだったよ　　（B　そうだ　そうだ）

146C：アノ　X14ジサ
あの　X14おじいさん

147A：ンデネァグ　（C　ホ）
そうでなく　（C　ほう）

X15ジサ　　ドテシァー　（C　ホー）
X15おじいさん　といってね　（C　ほう）

X16　デュー　シトダ　（C　ホー）　エアンベァ
X16　という　人だ　　（C　ほう）　いいあんばい[に]

ナレバシァ　イロエロナ　ゴド　カンガエデヨ　（C　ン）
なればね　　いろいろな　こと　考えてね　　（C　うん）

ハシメルオンデァタオンヤ　（C　{笑}）
始めるのだったのだよ　　（C　{笑}）

シト　　アジメデナ　（C　ン）　　トナリブレ〔34〕ダー
人[を]　集めてね　　（C　うん）　伝令だ

テシァー　ナンジモ　シェネァオンダワゲヨ
なんてね　なんとも　できないわけよ

ソノ　ジ　ソノ　トージノ　ムラヤグニンダテナ？
××　×　その　当時の　　村役人だってね

（C　ン）　ト　ユー　ゴドー　ズンブンダジモシァー
（C　うん）と　いう　こと[は]　自分たちもね

オゲァシケ゜ダ〔35〕ゴド　シテルガラー
妙な　　こと　してるから

シャジ　オンベデデ　ヤルナダオン　カダッポデー
そいつ[を]　覚えていて　やるのだもの　片一方で[は]

（B　ン）　シェバシァー　ワゲバンメァ　モラワネァホンド
（B　うん）そうすればね　分け前　　もらわないほど

ソンダガラ　ナギネーリニ　ネッテ
損だから　泣き寝入りに　寝て

シテ　ユー　ゴド　キーデラオノ
そして　言う　こと[を]　聞いていたもの

ソシテア　ノミガタ　シルオンノ　（C　ン）
そして　飲み会　するもの　（C　うん）

148B：ダレモ　カンケー　サネァガタオノナ
だれも　関係　しなかったものね

アレァオノ　タエショーミデァ
荒い者[の]　大将みたい

149A：シッテルダテ　シェネァデ　（B・C　ン）
知っていても　できないで　（B・C　うん）

150B：アレァオノ　タエショーミデァンタオンデ
荒い者[の]　大将みたいなもので

151A：ンダ　ンダ　ソーユーゴド　ンダー　エショケメシァー
そうだ　そうだ　そういうこと　だから　一生懸命

ゴマガシシューギア　アタアゲヨヤ　（B　ンダ　ンダ）
ごまかし祝儀が　あったわけだよ　（B　そう　そう）

ウジアンデナ　（B・C　ン）　ソエダガラ
内輪でね　（B・C　うん）　それだから

モンク　ユエネァアゲヨ　（B　ン）　（C　ンダ）
文句[を]　言えないわけよ　（B　うん）（C　そう）

ソエ　オベデデ　ヤルナダオ　カダポデア　{笑}
それ[を]　知っていて　やるのだもの　片一方では　{笑}

モノ　エーネァ　ドゴ　オベデデ
もの[が]　言えない　ところ[を]　知っていて

イダジラハンブニ　ハシメルモンダーゲ　{笑}
いたずら半分に　始めるわけ　{笑}

（C　ン）　ンダー　アーユー　タエボク
（C　うん）　だから　ああいう　大木[を]

ミナ　キチャタアゲヨ
全部　切っちゃったわけよ

152B：ンダ　タエーシタ　オンデァッタベタナ
そうだ　たいした　ものであったろうね

153A：タエシタ　オンデァタナ　（B　ナーント）
たいした　ものであったね　（B　なんと）

ソノジギノ　ヤナキ゜ノ　イダナノ　マンダ　アルデァ
その時の　柳の　板など　まだ　あるよ

オラ　ドゴエダンテ　（C　ホ）
私[の]　ところにでも　（C　ほう）

154B：ンダ　オレァエニモハ　アル　アノ　ジョーンバン〔36〕
そうだ　私の家にも　ある　あの　裁縫台

155A：ンダ　ンダ　ソユナ　ント　コシャダオンダ
そう　そう　そういうの[を]　うんと　作ったものだ

156B：ソインタナ　コシャダオダオンナ　（A　ン）　ン
そういうの[を]　作ったのだものね　（A　うん）　うん

157A：ソイガラ　ショージボネシァ　（C　ン）　ヤナキ゜ナバ
それから　障子骨ね　（C　うん）　柳なら

チエー　ナンテナ　（C　ン）　（B　ホントエナ）
強い　といってね　（C　うん）（B　本当にね）

アノ　イダ　マンダ　オレァニナ　アルナ　＊＊＊
あの　板[は]　まだ　私の家になど　あるね　＊＊＊

158B：ソレー　オレァエノ　カーヨ　ウエンダノ　エンデ　カテエテ
それ　私の家の　母ね　植田の　家で　買っていって

ソエァテ　オレァエノ　カー
そうやって　私の家の　母

コンダナ　ワ　オレァエサ　モテキタナダベタ
今度は　私　私の家へ　持ってきたのだろう

ソレー　サエホードーク°　{笑}　（C　{笑}）
それ　裁縫道具　{笑}　（C　{笑}）

159A：ジョーンバンガ
裁縫台か

160B：ジョーバン　{笑}　（C　{笑}）（A　ホー）
裁縫台　{笑}　（C　{笑}）（A　ほう）

ソレ　エマ　チケオノー　キルナサ　チカワレデルシテ
それ[は]　今[は]　漬物を　切るのに　使われているから

161C：ホー　アノ　ジョーブンダナナ
ほう　あの　頑丈なのがね

162A：ヨエ　タジシァ　シェンバ
役に　立つね　そうすれば

163B：モッテァネァンタオンダノモヨ　（C　ン）　ンダテ
もったいないようなものだがね　（C　うん）　しかし

164A：コシァー　コシァネァ　　イダ　　オレァーエニ
　　××××　加工していない　板[が]　私の家に

　　ニンメァ　アルタ　（C　ホー）
　　２枚　　あるよ　（C　ほう）

165B：ナンジオ　シヨーネァオダオン
　　なんとも　しようがないのだもの

166A：ニシンバシノ　アジサデンナ　（B・C　ン）
　　２寸ばかりの　厚さでね　　（B・C　うん）

　　シタェ　　フィログー　ネァノー
　　そんなに　広く[は]　　ないが

　　エッシャグ　ナンボ　アルベ　　（C　ホー）
　　１尺　　いくら　あるだろう　（C　ほう）

　　アエ　ホントノシァ　タジバン〔37〕　テーバ
　　あれ　本当のね　　裁ち板　　といえば

　　ニシャグ　ネァーバデゲネァ　チタオダオ　　（C　ンダ）
　　２尺　　なければいけない　と言ったものだもの　（C　そうだ）

167B：ンダノモ　ヤナキ゜ア　エーナ　ヤッパシナ
　　そうでも　柳は　　いいね　やっぱりね

168A：フクフクデーオンダオン　　（B　ン）
　　ふくふくしているのだもの　（B　うん）

169B：トデモ　エーオンダ　ナーンニ　チケオノキリンデハー
とても　いいものだ　なに　　漬物切りでね

170A：ヤナギノ　シャバンナ　エー　チタオダオン
柳の　　菜板が　　いい　と言ったのだもの

（B　ン）　タダノ　ヒャバンダテナ　（C　ンダナ）
（B　うん）普通の　菜板だってね　（C　そうだね）

171B：ソタダエ　フェロオンデ　ネァシヨ　（C　ン）
そんなに　減るものでも　ないしね　（C　うん）

172A：カナオノー　キジマネァ　チタオダ
金物が　　傷まない　　といったものだ

キー　ヤッコエガラ　（C　ン）
木が　柔らかいから　（C　うん）

173B：ンダ　ホージョーア　イダマネァデナ？　（C　ン）　ン
そう　包丁が　　傷まなくてね　　（C　うん）　うん

174A：ンダガラ　カナオノア　キジマネァ　チタ
だから　　金物が　　傷まない　　と言った

24↑25

175D：コドシワ　チケオノ　チ　コシァ　ハジマタシカ
今年は　　漬物　　×　作り[は]　始まりましたか

176B：マーンダダンシナ
まだですね

177C：コノシトノ　エデナラ　ネンジュ　ヤテルベタナー
この人の　家でなら　年中　やってるよね

178A：ンー　アレガー
うん　あれか

179B：オレァエンデハ　マンジ　ショーバエダエンテ
私の家でね　まあ　商売だから

180A：アノー　チケオノ　デンバ　フユ　クナゲァ？
あの　漬物　というと　冬[に]　食べますか

マンダダナ
まだだね

181B：マダ　マダ　ン
まだ　まだ　うん

182C：マダ　ハシマラネァンシナー
まだ　始まらないですね

183A：ヤパリ　ヌグミ　アレバヨ　シカグ　ナルオナ？
やっぱり　暖かさ[が]　あるとね　酸っぱく　なるものね

ソエデ　マジデルナダベ　ホントダバシァー
それで　待っているのだろう　本当ならね

184B：エマナノ　ナンーボ　チケネァ　ムガシド　チカ゜テナ
今など　いくら[も]　漬けない　昔と　違ってね

（A　ンダ）
（A　そうだ）

185C：ホント　トーンザ　クダゲ　　チケレンバナ
本当　　当座　　食べるだけ　漬ければね

186A：シタニヒャー　オーギダ　コカ゜〔38〕サ　チケデー
そんなに　　大きな　　桶に　　漬けて

ンメァグ　ネァグシテ　クワネァタテ　エーデー
うまく　　なくて　　食わなくても　いいという

カンジョダヤラ　（C　ン）
つもりだろう　　（C　うん）

187B：ンダーテ　ンダノモヤ　オラ　　モーエジンド
そうでも　そうだがね　私［は］　もう一度

アーヤッテ　アノ　コカ゜サ　チケダ　ナジゲ〔39〕
ああやって　あの　桶に　　漬けた　菜漬け［を］

クデア　　ド　オモオーンダ
食いたい　と　思うのだ

188A：ンメァオーンダデァナー　（C　{笑}）
うまいものだったね　　（C　{笑}）

189B：ンメァーナー　（A　ン）　　アノ　ミソオゲサ　チケダナヨ
うまいね　　（A　うん）　あの　味噌桶に　　漬けたのね

190C：ショデンナ　ナンデカンデ　ミソオゲサ　（B　ンー）
以前は　必ず　味噌桶に　（B　うん）

チケネァバ　デゲネァオノミデァンナ
漬けなければ　できないものみたいにね

191A：オッキナサナー　（C　ン）
大きいのにね　（C　うん）

192B：ソエテ　コダチデ　シェーペァ　アダテガラ　クー
そして　こたつに　精一杯　あたってから　食う

ソノ　カギ　アインダ　アインダサ　シェデオグンシベ〔40〕
その　柿［を］　間　間に　入れておくでしょう

（C　ン）　ナンボー　サンビタテ　キガネァデ
（C　うん）　いくら　寒くても　かまわずに

トリ　エタオンダ？　（C　ン）
取り［に］　行ったものだ　（C　うん）

193A：ク　クデァシテガー　{笑}　（C　{笑}）
×　食いたくてか　{笑}　（C　{笑}）

194B：ンダテ　ソレァー　エジバンノ　タノシミデァタオノ
だって　それが　いちばんの　楽しみであったもの

195C：マダ　チケオノー　ンメァオンデアッタオンナヤ
また　漬物が　うまいものであったものだね

（B　ン）　ン
（B　うん）　うん

196A：エショッケメー　クー　ゴドア　タノシミシァ　（C　ン）
一生懸命　食う　ことが　楽しみね　（C　うん）

197B：ナンニモ　ンメァオノ　オガシー
なんにも　うまいもの　お菓子[を]

カテオグワゲンデモ　ネァベシナ　（C　ンダ）
買っておくわけでも　ないだろうしね　（C　そう）

ソインタ　オノシカ　ネァオダタ
そういった　ものしか　ないものだった

198C：エマミデァンシテ　クッシンダナテ　フダンニ
今みたいに　菓子だなんて　ふだんに

ネァガタベタナ　（B　ンダー）　ン
なかったものだったね　（B　そう）　うん

199A：ネァー　ネァ　ナーント　クッシ
ない　ない　なんと　菓子

200C：チケオノ　アッテ　エジバンノ　ゴッツォーデハ
漬物[が]　あって　いちばんの　ごちそうでね

（A　ンダ　ンダ）　ン
（A　そう　そう）　うん

201B：ンダガラ　サマザマ　コレァ　ナエナエデ　チケダナダ
だから　さまざま　これは　何々で　漬けたのだ

コレァ　ナエナエノ　チケオノダ　テ　（C　ン）
これは　何々の　漬物だ　と　（C　うん）

チケモノノ　カンジ　イロイロダ　オノ
漬物の　数[は]　いろいろな　もの[が]

ミーシナモ　ヨーシナモナ　（C　ンダ）
3品も　4品もね　（C　そう）

ダシテ　ソイテ　オジャ　ノンダ
出して　そうやって　お茶[を]　飲んだ

コレァ　ンメァノ　アレァ　ンメァグ　ネァノ　ッテ
これは　うまいの　あれは　うまく　ないの　と

ノンダゴデァヤ　（C　{笑}　ン）　ン
飲んだことだよ　（C　{笑}　うん）　うん

ソインタオノグレァノオンデァッタ　タノシミッテ
そういったものくらいのものであった　楽しみって

（C　ン）
（C　うん）
25↑

秋田県湯沢市1977注記

〔1〕ミジチギ

水漬き。水害。洪水。

〔2〕カダメガダ

護岸のしかた。

〔3〕オベデ

物心がついて。

〔4〕デンデンデン

デンデで。すっかり。「デンデ」は，視界を遮るものがない状態のこと。

〔5〕シェナ

親しみをこめて弟妹から兄を呼ぶことば。古語の「せな」に由来する。

〔6〕アエ

いや。「ちょっとまちがった」「しくじった」という気持ちを表す。「アレ」「アエット」とも言う。

〔7〕ケンダニー

ツツガムシ。恙虫。

〔8〕クォー

ほう。あきれ，驚く場合の感嘆詞。

〔9〕オコ゜ド

たいへんなこと。残念なこと。失敗。

〔10〕シカシカド

はっきりと。目に見えてどんどん進捗する状態。

〔11〕エッカダ

しょっちゅう。いつも。毎度。

〔12〕タパタパド

ひたひたと。容器などに水がいっぱいになった様子。

〔13〕オンドゲァナネァ

油断ならない。冗談でない。容易ではない。ぼやぼやしてはいられない。「オンドゲル」は，「おかしいことをして笑わせる」という意味。

〔14〕カチケデ

かこつけて。「カンチケル」は，「口実にする」「(原因や責任を) 転嫁する」という意味。

〔15〕クエダ

閉めた。「クエル」は，「ふさぐ」「閉める」という意味。

〔16〕チグシ

杭。「クイ」「クエ」も使うが，「チグシ」は，短いものを指すようである。

〔17〕シェンシェ

先生。話し手D氏に対する呼びかけ。

〔18〕シンジ

泉。湧水。掘抜井戸。

〔19〕ナガラハチケ

中途半端に。「ナガラナマジ」とも言う。

〔20〕アジガイットア

看病する人は。「アジガウ」には，「看護する」「動物を飼育する」の二つの意味がある。

〔21〕ドンゲァリ

仰向けに倒れる様子。「ドゲァント」とも言う。

〔22〕コロフテ

軽くて。「コロフテ」は，「カロクテ」からの音変化。

〔23〕エカエカデァ

とげが出ていて，物にひっかかる感じ。「エカエカジ」とも言う。

〔24〕フィビル

びりっと痛さが体を走る。

〔25〕ヤチケ

谷地気。谷地。低い土地でいつも湿っぽいところ。

〔26〕クチャクチャデー

ぐちゃぐちゃで。水っぽいことを形容したもの。

〔27〕オジビド

落人。

〔28〕オンツァ

おじさん。長男は「アンツァー」，次男以下は「オンツァ」と言う。

〔29〕ネマタ

住みつく。居をかまえる。本来，「ネマル」は，「腰をおろす」「すわる」という意味。

〔30〕タシポシー

静かで寂しい。心細い。

〔31〕ワゲーパダゲ

分け畑。入会畑。官地であったところに杉を植え，その杉がなくなったので畑地にした。

〔32〕ゴーチ

合地。郷地。官地ではなく，村有地。

〔33〕オエダ

生えた。「オエル」は，「芽を出す」「生える」という意味。

〔34〕トナリブレ

伝心。伝令。

〔35〕オゲァシゲ゜ダ

妙だ。不思議だ。「オガシゲァンダ」とも言う。

〔36〕ジョーンバン

定盤。裁縫台のこと。「バンイダ」（盤板）とも言った。

〔37〕タジバン

裁ち板。裁縫板。

〔38〕コカ゜

普通の漬物桶よりひとまわり大きい味噌桶。

〔39〕ナジゲ

菜漬け。白菜漬け。最近は「ハクサイジゲ」（白菜漬け）であるが，昔は「チフジゲ」と言った。

〔40〕カギ　アインダ　アインダサ　シェデオグンシベ

白菜を漬ける時に，柿をむいた皮を白菜のあちこちに入れておくことを指す。

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて，文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは，「全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，これを記録・保存する」目的で行われた，全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は，文化庁の要請により，この調査の計画段階から，指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は，全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は，実施時期ごとに，第1次（昭和52(1977)～54(1979)年度）から第7次(昭和58(1983)～60(1985)年度）に分けられ，それぞれ3年計画で，収録を行った。

各都道府県教育委員会は，言語学，国語学，方言学の専門家から調査員として，主任調査員2名と調査員若干名を選出し，さらに，専門家や学識経験者を交えて，調査地点，具体的な調査方法，全国共通の場面設定会話項目などについて検討し，その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

(1) 調査目的

全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し，後世に残す。

(2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって，1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち，自然な方言会話の部分を3時間程度選んで，文字化を行い，共通語訳をつけて，記録として残す。

(3) 調査内容

①老年層の男女各1人による対話，または，男女を含む3人の会話（2時間）

②老年層の男性2人の対話，または，老年層の男性3人の会話（1時間）

③老年層の女性２人の対話，または，老年層の女性３人の会話（１時間）
④老年層と若年層との対話，または，両者を含む３人の会話（１時間）
⑤老年層の男性２人の，目上の者と目下の者の対話（２時間）
⑥場面設定の対話（１時間，各場面につき１～３分程度）
場面に応じて，老年層の男性２人の対話，または，老年層の男女各１人による対話
⑦当該地域に伝わる民話（１時間）
民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は，
⑧老年層の女性２人の，目上の者と目下の者の会話，（１時間）
または，
⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の，2人の対話（１時間）
を収録する。

①～⑤，⑧，⑨については，話題は自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は，自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ，「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各都道府県教育委員会が協議して，全国共通の数場面を設定する。

(4) 調査地点

調査地点は，各都道府県について５地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて，各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上，複数の区域に分かれる場合は，方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に，離島など，特色の認められる方言は可能な限り収録する。

(5) 話者

その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，よそ

の土地に住んだことがあっても，その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は，原則として，老年層の場合は，収録時において60歳以上とし，若年層の場合は，20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

(6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため，使用する録音機の性能，マイクの種類・配置，テープの長さ，収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には，採録地点，採録年月日，話題，時間，話者，採録機種などを記入する。

録音テープは，収録したオリジナルのテープ（正）を1本，正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

(7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は，原則として，カタカナ書きとし，方言の音声的特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について，場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記，表記法についての説明などを行う。各地点ごとに，収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など，収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には，話者の氏名・性・生年・経歴，録音内容などを記入する。

文字化原稿は，手書きのオリジナル原稿（正）を1部，正の複製（副）を2部作成する。

調査は，各都道府県教育委員会と連携のうえ，全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果，地域的密度，収録量，方言的内容のいずれの面からも，他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後，これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は，各教育委員会から，「各地方言収集緊急調査」報告として，文化庁に提出され，永久保存されることとなった。

なお，調査実施からかなりの時間が経過しているため，当時の関係文書の入手は困難であったが，文化庁，各都道府県教育委員会の協力により，部分的には手に入れることができた。得られたものを，資料として，この章の末尾に掲げたので，ご参照いただきたい。

「各地方言収集緊急調査」地点一覧

北海道
01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
01b 十勝支庁中川郡豊頃町
01c 渡島支庁亀田郡椴法華村(→函館市)
01d 渡島支庁松前郡松前町
青森県
02a 下北郡川内町（→むつ市）
02b 北津軽郡市浦村（→五所川原市）
02c 上北郡野辺地町
02d 三戸郡五戸町
02e 弘前市
岩手県
03a 久慈市
03b 宮古市
03c 遠野市
03d 大船渡市
03e 一関市
宮城県
04a 本吉郡本吉町・歌津町
04b 栗原郡築館町（→栗原市）
04c 仙台市
04d 亘理郡亘理町
04e 刈田郡七ヶ宿町
秋田県
05a 鹿角市
05b 能代市
05c 仙北郡西木村（→仙北市）
05d 河辺郡雄和町（→秋田市）
05e 湯沢市
山形県
06a 新庄市
06b 寒河江市
06c 東田川郡櫛引町
06d 東田川郡朝日村
06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町
福島県
07a いわき市
07b 大沼郡会津高田町
07c 大沼郡昭和村
茨城県
08a 高萩市
08b 久慈郡里美村（→常陸太田市）
08c 水戸市
08d 鹿島郡大野村（→鹿嶋市）
08e 古河市
栃木県
09a 大田原市
09b 日光市
09c 宇都宮市
09d 芳賀郡益子町
09e 安蘇郡田沼町（→佐野市）
群馬県
10a 利根郡片品村
10b 吾妻郡六合村
10c 前橋市
10d 邑楽郡大泉町
10e 甘楽郡下仁田町

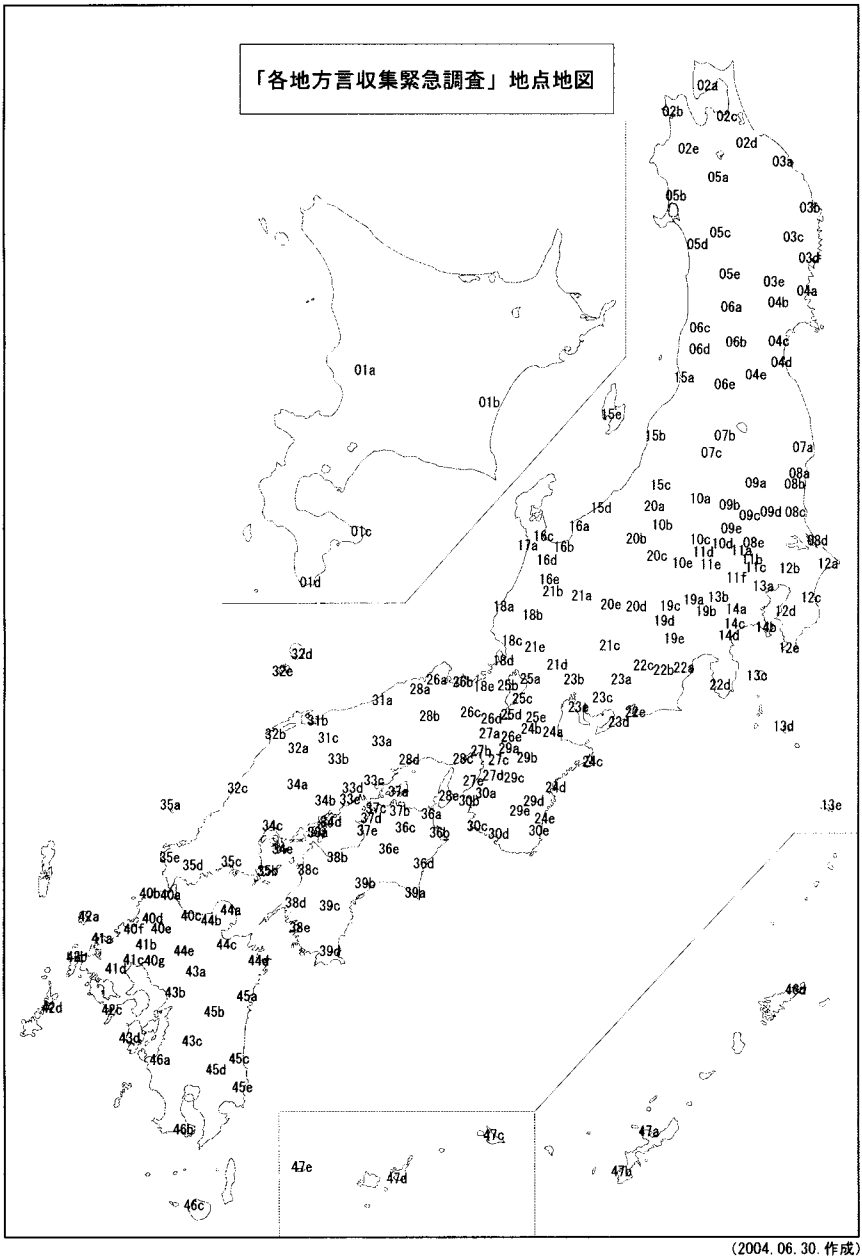
埼玉県
11a 加須市
11b 南埼玉郡宮代町
11c 春日部市
11d 児玉郡上里町
11e 秩父郡長瀞町
11f 入間郡大井町
千葉県
12a 海上郡飯岡町（→旭市）
12b 印旛郡印西町（→印西市）
12c 長生郡長生村
12d 木更津市
12e 館山市
東京都
13a 台東区
13b 西多摩郡檜原村
13c 大島町
13d 三宅村
13e 八丈町
神奈川県
14a 愛甲郡愛川町
14b 横須賀市
14c 秦野市
14d 小田原市
新潟県
15a 村上市
15b 西蒲原郡分水町
15c 十日町市
15d 糸魚川市
15e 佐渡郡佐和田町（→佐渡市）
富山県
16a 黒部市
16b 富山市
16c 氷見市
16d 砺波市
16e 東礪波郡上平村（→南砺市）
石川県
17a 羽咋郡押水町（→宝達志水町）
福井県
18a 坂井郡芦原町（→あわら市）
18b 勝山市
18c 南条郡南条町（→南越前町）
18d 敦賀市
18e 遠敷郡名田庄村
山梨県
19a 塩山市
19b 大月市
19c 韮崎市
19d 南巨摩郡早川町［奈良田］
19e 南巨摩郡身延町
長野県
20a 下水内郡栄村
20b 長野市
20c 小諸市
20d 伊那市
20e 木曽郡開田村

岐阜県
21a 高山市
21b 大野郡白川村
21c 中津川市
21d 岐阜市
21e 揖斐郡徳山村（→揖斐川町）
静岡県
22a 静岡市
22b 榛原郡本川根町（→川根本町）
22c 磐田郡水窪町（→浜松市）
22d 賀茂郡松崎町
22e 浜名郡新居町
愛知県
23a 北設楽郡設楽町
23b 西春日井郡師勝町
23c 岡崎市
23d 豊橋市
23e 常滑市
三重県
24a 安芸郡美里村
24b 阿山郡阿山町（→伊賀市）
24c 志摩郡阿児町（→志摩市）
24d 北牟婁郡海山町
24e 南牟婁郡御浜町
滋賀県
25a 長浜市
25b 高島郡安曇川町（→高島市）
25c 神崎郡能登川町
25d 大津市
25e 甲賀郡甲賀町（→甲賀市）
京都府
26a 中郡峰山町（→京丹後市）
26b 舞鶴市
26c 船井郡丹波町
26d 京都市
26e 相楽郡山城町
大阪府
27a 高槻市
27b 大阪市
27c 八尾市
27d 河内長野市
27e 泉佐野市
兵庫県
28a 豊岡市
28b 朝来郡生野町（→朝来市）
28c 神戸市
28d 相生市
28e 洲本市
奈良県
29a 大和郡山市
29b 宇陀郡榛原町
29c 五條市
29d 吉野郡下北山村
29e 吉野郡十津川村
和歌山県
30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町
30b 和歌山市
30c 御坊市
30d 田辺市
30e 新宮市

鳥取県
31a 鳥取市
31b 米子市
31c 日野郡日野町
島根県
32a 仁多郡仁多町（→奥出雲町）
32b 出雲市
32c 浜田市
32d 隠岐郡西郷町（→隠岐の島町）
32e 隠岐郡西ノ島町
岡山県
33a 勝田郡勝央町
33b 新見市
33c 岡山市
33d 小田郡矢掛町
33e 笠岡市
広島県
34a 三次市
34b 府中市
34c 広島市
34d 因島市
34e 安芸郡倉橋町（→呉市）
山口県
35a 萩市
35b 大島郡大島町（→周防大島町）
35c 徳山市（→周南市）
35d 美祢市
35e 豊浦郡豊北町（→下関市）
徳島県
36a 鳴門市
36b 阿南市
36c 美馬郡脇町（→美馬市）
36d 海部郡海南町
36e 三好郡東祖谷山村
香川県
37a 小豆郡土庄町
37b 木田郡三木町
37c 丸亀市
37d 仲多度郡多度津町
37e 観音寺市
愛媛県
38a 越智郡大三島町（→今治市）
38b 西条市
38c 松山市
38d 大洲市
38e 宇和島市
高知県
39a 室戸市
39b 高知市
39c 高岡郡檮原町
39d 幡多郡三原村
福岡県
40a 北九州市
40b 遠賀郡芦屋町
40c 築上郡新吉富村
40d 飯塚市
40e 嘉穂郡稲築町
40f 福岡市
40g 八女市

佐賀県
41a 東松浦郡鎮西町（→唐津市）
41b 鳥栖市
41c 佐賀市
41d 武雄市
長崎県
42a 壱岐郡芦辺町（→壱岐市）
42b 平戸市
42c 長崎市
42d 南松浦郡奈良尾町(→新上五島町)
熊本県
43a 阿蘇郡阿蘇町（→阿蘇市）
43b 熊本市
43c 球磨郡錦町
43d 天草郡天草町
大分県
44a 東国東郡国東町
44b 宇佐市
44c 大分郡挾間町
44d 佐伯市
44e 日田郡前津江村（→日田市）
宮崎県
45a 延岡市
45b 東臼杵郡椎葉村
45c 宮崎市
45d 北諸県郡山田町
45e 日南市
鹿児島県
46a 出水市
46b 揖宿郡頴娃町
46c 熊毛郡上屋久町
46d 大島郡龍郷町
沖縄県
47a 国頭郡今帰仁村
47b 那覇市
47c 平良市
47d 石垣市
47e 八重山郡与那国町

(2005.09.30.作成)



（2004. 06. 30. 作成）

各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

1．年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

2．調査県一覧

第1次 (S.52～54)	第2次 (S.53～55)	第3次 (S.54～56)	第4次 (S.55～57)	第5次 (S.56～58)	第6次 (S.57～59)	第7次 (S.58～60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8県	8県	6県	8県	10県	3県	4県

各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年5月1日
文化庁長官裁定
（昭和62年6月1日廃止）

1．趣旨

全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し，必要な事項を定めるものとする。

2．補助事業者

補助事業者は，都道府県とする。

3．補助対象事業

補助対象となる事業は，当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

4．補助対象経費

補助対象となる経費は，次に掲げる経費とし，その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

5．補助金の額

補助金の額は，補助対象経費の2分の1以内の定額とし，750千円を最高限度額とする。ただし，沖縄県については，別途協議して定めるものとする。

（別紙）

名称	対象経費の区分		項	目	目の細分	説　明
各地方言収集緊急調査事業	主たる事業費	調査経費	各地方言収集調査	報償費	○○謝金	調査員,調査補助員等謝金
					○○文字化謝金	
					○○協力謝金	資料
				旅費	普通旅費	
					費用弁償	
					特別旅費	
				需用費	消耗品費	野帳等文具,録音用テープ
					印刷製本費	調査報告用紙
					会議費	企画委員会打合会
				役務費	通信運搬費	郵便，電信電話料等
				使用料及び賃借料	会場借上料	
					器具借上料	
				委託料	○○委託費	事業の一部を委託して実施する場合(特に認められた場合に限る)

各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年7月28日
文化庁次長決裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては，文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか，この実施要領によるものとする。

1．地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては，県下の方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また，離島など，特色の認められる方言は，可能な限り収録するよう努めなければならない。

2．録音内容・話者

ア　老年層話者による会話

収録内容――次の3種類の対話又は会話を収録する。

(1) 老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話

(2) 老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話

(3) 老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話

話者の年齢など――原則として，収録時において60歳以上とし，やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また，話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴――その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，その期間が短い（在外期間は3年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り，婿入りした人は採らない。ただし，女性については，他に適当な人が求められないときは，近隣地域から嫁入りした人でも，収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者――主たる話者のほかに，話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は，あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し，会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題――自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

イ　老年層と若年層との会話

収録内容――老年層の男性と若年層の男性との対話，又は，両者を含む3人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など――老年層については前項アに準ずる。若年層については，原則として

20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴――老若ともアに準ずる。

ウ　目上の者と目下の者の会話

収録内容――目上，目下の関係にある老年層の男性２人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として，たとえば，僧侶対その檀家に当たる人物，その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業，漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢――目上，目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴――原則として前項アに準ずる。ただし，目上に当たる者については，在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので，アの条件（在外歴３年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ　場面設定の会話

目的と方法――自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容――各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し，各場面の録音量は，1～３分程度とする。

話者――場面に応じて老年層の男性どうしの対話，老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ　民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

3．録音機・録音技術

必ず，ステレオで録音することとし，テープは，オープン，カセットのいずれでもよい。この調査は，自然な方言会話を良い録音で収録し，それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は，録音技術に習熟した者が行い，会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお，良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

①　雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音，とびらの開閉音，机などへの衝撃音(湯飲みを置く音など)，紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

②　内蔵マイクを使用すると良質の録音が得られないので，必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③　マイクはなるべく話者の近くに配置し，どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかなりの差があることが多いので，この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には，音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④　テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は２台使用すること。

⑤　カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

4．文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし，方言の音声的特徴をある程度表しうるよう工夫する。ただし，文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には，共通語訳を付けるとともに場面，文脈，特徴的音声，方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5．収録地点の概観，話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通，地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また，話者の経歴，録音内容などについては，「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1．調査（方言収録）の年次計画（(　) は実施要領・文字化の時間数）

○　第1年次

①　老年層の男女各1人による対話,又は,男女を含む3人の会話（アの(1)・2時間）

②　老年層の男性2人の対話,又は,老年層の男性3人の会話（アの(2)・1時間）

○　第2年次

①　目上の者と目下の者の会話（ウ・2時間）

②　老年層の女性2人の対話,又は,老年層の女性3人の会話（アの(3)・1時間）

○　第3年次

①　老年層と若年層との会話（イ・1時間）

②　場面設定の会話（エ・1時間）

③　民話（オ・1時間）

(注)　3年次の「③　民話」の収録不能のときは，2年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性2人の会話を収録

2．調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

・正……収録した生のテープ　1部

・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）　2部

(2) 文字化原稿

・正……手書き原稿　1部

・副……正のコピー　2部

3．調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

NO. 正

○　○　県　—○

(副)

各地方言収集緊急調査録音記録票

補助要項の記号

1　採録地点

2　採録年月日

3　話題・時間　A面　(　　) 分

B面　(　　) 分

4　話者

5　採録機種

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は，各調査地点ごとに，(1)録音内容記録票，(2)収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ），(3)録音文字化原稿の順で表紙（B 4 板目紙）を付けて綴ってください。

○　　○

○○県（昭和　　年度）

各地方言収集緊急調査
文字化原稿

（正）
又
は
副

調査地点　○○○○

(3) 文字化原稿の用紙

① 録音内容記録票
② 方言資料割付用紙
③ 方言調査解説用紙
（別紙のとおり）

調査実施上の留意事項について

1　調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1年次	①　老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話（ア－(1)） ②　老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話　（ア－(2)）	10	2 1
2年次	①　目上の者と目下の者の会話（男性2人）（ウ） ②　老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話　（ア－(3)）	10	2 1
3年次	①　老年層と若年層との会話（イ） ②　場面設定の会話（エ） ③　民話（オ） （民話が収録できないときは，（注）参照。）	10	1 1 1
計		30	9

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため，収録が不可能な地点は，老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の2人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが，長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

2　調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

正……収録した生のテープ　1部

副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）　2部

(2) 文字化原稿

正……手書き原稿　1部

副……正のコピー　2部

3　調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

NO. 正
—○
(副)

○　○　県

各地方言収集緊急調査録音記録票

補助要項
の記号

1　採録地点

2　採録年月日

3　話題・時間　A面　(　　)分

B面　(　　)分

4　話者

5　採録機種

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は，各調査地点ごとに，(1)録音内容記録票，(2)収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ），(3)録音文字化原稿の順で表紙（B 4 板目紙）を付けて綴ってください。

○　　○

○○県（昭和　　年度）

各地方言収集緊急調査
文字化原稿

(正)
又
は
副

調査地点　○○○○

(3) 文字化原稿の用紙

① 録音内容記録票
② 方言資料割付用紙
③ 方言調査解説用紙

} 別紙のとおり

(用紙の印刷発注については，国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

4 文字化原稿の記入について（国語研・言語変化研究部でまとめたもの）

(1) 原稿用紙には，「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の2種類があり，「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を，「解説用紙」には収録地点の概観，収録方言の特色，表記法についての説明，文字化内容についての注記などを記入する。

(2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。(青インキは不可。)

割付用紙への記入

① 割付用紙の第1ページには，タイトル（録音内容を代表するようなもの），話し手の略号・氏名・性・生年を記入し，一段あけて，録音内容の文字化・標準語訳を記入する。(記入例参照)

② 割付用紙の左端の[　　]には話し手の略号を記入する。

③ カウンターつきの録音機を使用した場合は，その番号を要所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。

④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位の分かち書きとし，各センテンスの末尾に句点「。」「,」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお，談話文における文の認定は方法論的に多くの問題があるが，あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音的カタカナ表記による。これは，利用者の便宜，文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし，対象とする方言の性格によって，カナ表記では特殊な字母を多数必要とし，かえって煩雑になると判断される場合は，国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻（音素）表記は採らない。これは，音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や，自然会話にしばしば現われる無造作な発音，また，標準語的な発音の混入などを，解釈を加えずに，音声学的に記述しようとする意図による。なお，カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから，それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については，解説（表記法の項）で説明しておいていただきたい。

エ 長音，鼻音，あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合，原則として次の方式によってほしい。

(ア) 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ) ガ行鼻音は，カ゜キ゜ク゜…のように表わす。

例 カカ゜ミ [kaŋami] (鏡)

（ウ） 鼻音化には「ˣ」（上つき小字のン）を用いる。

例 マˣド［ma˜do］（窓）

カˣゴ［ka˜go］（籠） —高知方言など—

（エ） 合拗音の［kwa］［gwa］はクヮ，グヮのように表わす。

例 クヮジ［kwaʒi］（火事） —九州方言など—

（オ） ［ʃe］［dʒe］はシェ，ジェのように表わす。

例 シェナカ［ʃenaka］（背中） —九州方言など—

（カ） ［ti］［di］はティ，ディ，［tu］［du］はトゥ，ドゥのように表わす。

例 トゥキ［tuki］（月） —高知方言など—

（キ） ［Φa］［Φi］［Φe］…はファ，フィ，フェのように表わす。

例 フェˣビ［Φe˜bi］（蛇） —奥羽方言など—

（ク） ［je］の音はイェで表わす。

例 イェダ［jeda］（枝） —九州方言など—

（ケ） ［æ］［kæ］［sæ］…はアェ，カェ，サェのように表す。

例 アカェー［akæ:］（赤い） —岡山方言など—

（コ） ［ɛ］［kɛ］［sɛ］…はエァ，ケァ，セァのように表わす。

例 アゲァ［agɛ］（赤い） —奥羽方言など—

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか，あるいは，一般的な字母を使用しておき，そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ(注)→注［kçïmono］

オ アクセント，文末イントネーションの記述の有無は，その表記法を含め，担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には〰〰線を付けておく。

例 カステクレァー

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを〰〰線付きで記述し，他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレァー(注)→注「カステケロエ」または「カステケロヤ」とも聞こえる。

ク 聴き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし，最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する（意識する）発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない，すなわち，話者が主張するようにはどうしても聴き取れない場合もありうるが，このような場合には，文字化担当者に「聞こえる音声」を〰〰線付きで記述し，話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカー(注)→注 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聴き取り不能の箇所には，〰〰線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ，言いかさなり，言いなおし，笑い声など。

ア 言いよどみは，その末尾に…線を付ける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には，次のように（ ）を利用し，発言

が重複する部分に＿＿線を付ける。

例　A　ヒルママデ　マズ　スコ゜トモ　オエッカラッテ

（B　ンダケンド　オレァー）　アト　スク゜イ　モッテクッカラ

ウ　重複部分が長い場合や，一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には，改行して，重複部分に＿＿線を付ける。

例　A　アー　バサマ　オチャ　ダシェ　マズ。　チョイット

ナカ゜ス　キター。

B　イヤ　イソカ゜スィンダテ　キョーノー。

エ　言いかけて，それを言いなおした場合には，言いかけた部分に××××××を付ける。

例　アノー　ワズカナ　ゴ　ゴジュー

ゴジューエングラェージャッタカナー。

オ　笑い声などは文字化本文中に（　）に入れて記す。

例　ウレシーナー　（笑）

⑥　標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし，それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には，注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが，標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え，訳しかたが問題となるような箇所については，なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

⑦　注記について

ア　「割付用紙」には注記番号のみを（　）に入れて記し，注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ　注記は，音声的特徴，基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など），方言形の意味・用法・語源，民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など），文脈のねじれ，標準語訳についての補足，話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに，方言形の意味・用法については，できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

A　収録地点とその方言について

1　地点名

2　収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）

3　収録した方言の特色

①　方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

②　音韻上の特色（モーラ表・音声的特徴）

③　文法上の特色（要点のみ。箇条書き）

4　その他（地点選定の理由，協力者の氏名，協力内容など）

B　表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲，特殊な表記についての説明，判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C　収録内容の概説，注記など

1　タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）

2　録音年月日

3　録音場所

4　話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。　（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）

5　録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は，方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに，急速に失われつつある各地の伝統的方言を，文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が，この資料の一部を用いて，独自に報告書を刊行している。ただし，市販されているわけではないので，一般には入手しにくい。また，その形態は印刷物であり，電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については，未公開であった。

その後，「各地方言収集緊急調査」報告資料は，文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では，受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために，膨大な報告資料を整備して，方言談話の大規模なデータベースを作成し，公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には，一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において，報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は，情報資料研究部第二研究室（当時），担当者は，井上文子であった。所外研究委員として，真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行った。

平成13(2001)年度からは，「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として，全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門・領域は，情報資料部門第二領域，担当者は，井上文子（情報資料部門第一領域）である。所外研究委員として，佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所），江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行っている。

その一方で，平成9(1997)～13(2001)年度には，作成データベース名「全国方言談話資料データベース」，作成委員会名「全国方言談話資料データベース作成委員会」として，また，平成14(2002)年度からは，作成データベース名「全国方言談話データベース」，作成委員会名「全国方言談話データベース作成

委員会」として，科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受け，音声資料，文字化資料を電子化する作業を進めている。作成委員長は，佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所）であり，「各地方言収集緊急調査」当時，国立国語研究所言語変化研究部第一研究室室長として，調査の計画段階から指導・助言にあたり，調査および報告資料の全体像を把握している。作成委員としては，江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），井上文子（国立国語研究所情報資料部門第一領域）が担当している。平成13(2001)年度には，「全国方言談話データベース」の公開を開始した。

なお，このデータベースの作成事業で受けた，科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成９年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円
平成14年度	148034	5,200,000円
平成15年度	158043	6,100,000円
平成16年度	168037	7,000,000円
平成17年度	178036	6,500,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については，日本全国の47都道府県でそれぞれ５地点程度，計200地点あまりにおける，約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと，その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので，現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的よく残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが，膨大な

資料を一気にデータベース化するのは困難であるので，段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では，まず，第一段階として，各都道府県につき１地点，計47地点の老年層男女の自然会話を選び，その地の伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには，次のような作業が必要であった。

①録音テープには，正が１本，副が２本ある。正は収録したオリジナルのテープ，副は正より文字化部分のみを編集したもので，いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し，複製を作成する。

②文字化原稿には，正が１部，副が２部ある。正は，文化庁指定のＢ４判の用紙を使用した手書き，副は正のコピーである。正の文字化，共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では，できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。

③文字化原稿の収録地点，話者，談話内容，状況記録などの確認をし，その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。

④今回刊行するものでは，老年層男女の自然談話のうち，各都道府県につき１地点30～50分をめやすとして，データベース化部分に選定する。

⑤データベース化する部分の，文字化テキストと，それに対応するデジタル化した録音音声を抽出する。

⑥音声データをもとに，文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては原資料の文字化原稿に従って行うが，見やすさを優先させたり，全体の統一を図ったりするため，必要に応じて変更を加える。この作業は，その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。

⑦記号の種類と使い方，句読点，分かち書きなどについて，凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は，見やすさや全体の統一のため，必要に応じて変更を加えているので，「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。

⑧文字化データに沿う形で，注記を整える。原則としては原資料に従って行う

が，場合に応じて最低限の変更を加える。

⑨収録地点の概観，方言の特色などの解説については，原則としては原資料に従って行うが，全体の統一を図るため，表記・章立てなどについて，最低限の変更を加える。

⑩調査の概要，収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報，話者の性別・年齢・職業などの情報をまとめる。

⑪校正を行った文字データをもとに，文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを作成する。さらに，それをpdfファイルにする。

⑫文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを用いて，文字化のtextファイル，共通語訳のtextファイルを作成する。

⑬音声データは，サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bitでデジタル化して，音声ファイル（wave形式）を作成する。そして，それを，文字化と共通語訳を2段組に対照させたページに従って，ページ単位に切り，文字化・共通語訳のpdfファイルにリンクさせる。

⑭CD-ROMは、データベースソフトを利用して，文字化・共通語訳の文字列による検索，話者による検索などができるようにする。

⑮CDには，トラックに区切った談話全体の音声を収録する。

⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については，必要に応じて，現地に赴き，収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら，入手に努める。

⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには，可能な限り，文書でデータ公開の通知と確認を行う。

⑱作成過程において，ある程度のデータが蓄積された段階で，CD-ROM，または，音声はカセットテープ・MD，文字はFDを媒体とした試作版を作成し，モニターに依頼して意見・要望を求め，データベースに反映させる。

⑲検索情報の整備，検索マニュアル，利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は，冊子，CD-ROM，CDから成り，方言談話の音声（waveファイル），文字化（カタカナ表記，textファイル），共通語訳（漢字かなまじり表記，textファイル），文字化・共通語訳を2

段組に対照させたもの（冊子，pdf）などを収録している。従来にはあまりなかった，音声，文字化，共通語訳の電子化データを備えているので，研究や教育のために加工して，自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては，国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として，熊谷康雄（情報資料部門），委員として，熊谷智子（研究開発部門第二領域），三井はるみ（研究開発部門第二領域），井上優（日本語教育部門第一領域），井上文子（情報資料部門第一領域）が担当した。

刊行計画は下記のとおりである。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』 全20巻

各巻：冊子１冊 A5判 約250ページ，CD-ROM １枚，CD １枚

巻数	巻名	ISBN
第１巻	北海道・青森	4-336-04361-2
第２巻	岩手・秋田	4-336-04362-0
第３巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9
第４巻	茨城・栃木	4-336-04364-7
第５巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5
第６巻	東京・神奈川	4-336-04366-3
第７巻	群馬・新潟	4-336-04367-1
第８巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X
第９巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6
第14巻	鳥取・島根・岡山	4-336-04374-4
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9
第18巻	福岡・佐賀・大分	4-336-04378-7
第19巻	長崎・熊本・宮崎	4-336-04379-5
第20巻	鹿児島・沖縄	4-336-04380-9

国立国語研究所資料集13-2

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第2巻 岩手・秋田

2005年12月30日 発行

編集：独立行政法人国立国語研究所
〒190-8561
東京都立川市緑町3591-2
TEL：042-540-4300（代表）
FAX：042-540-4339
URL：http://www.kokken.go.jp

本書の市販品発行所

発行：国書刊行会
〒174-0056
東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421（代表）
FAX：03-5970-7427（営業）
URL：http://www.kokusho.co.jp

（平17-18）